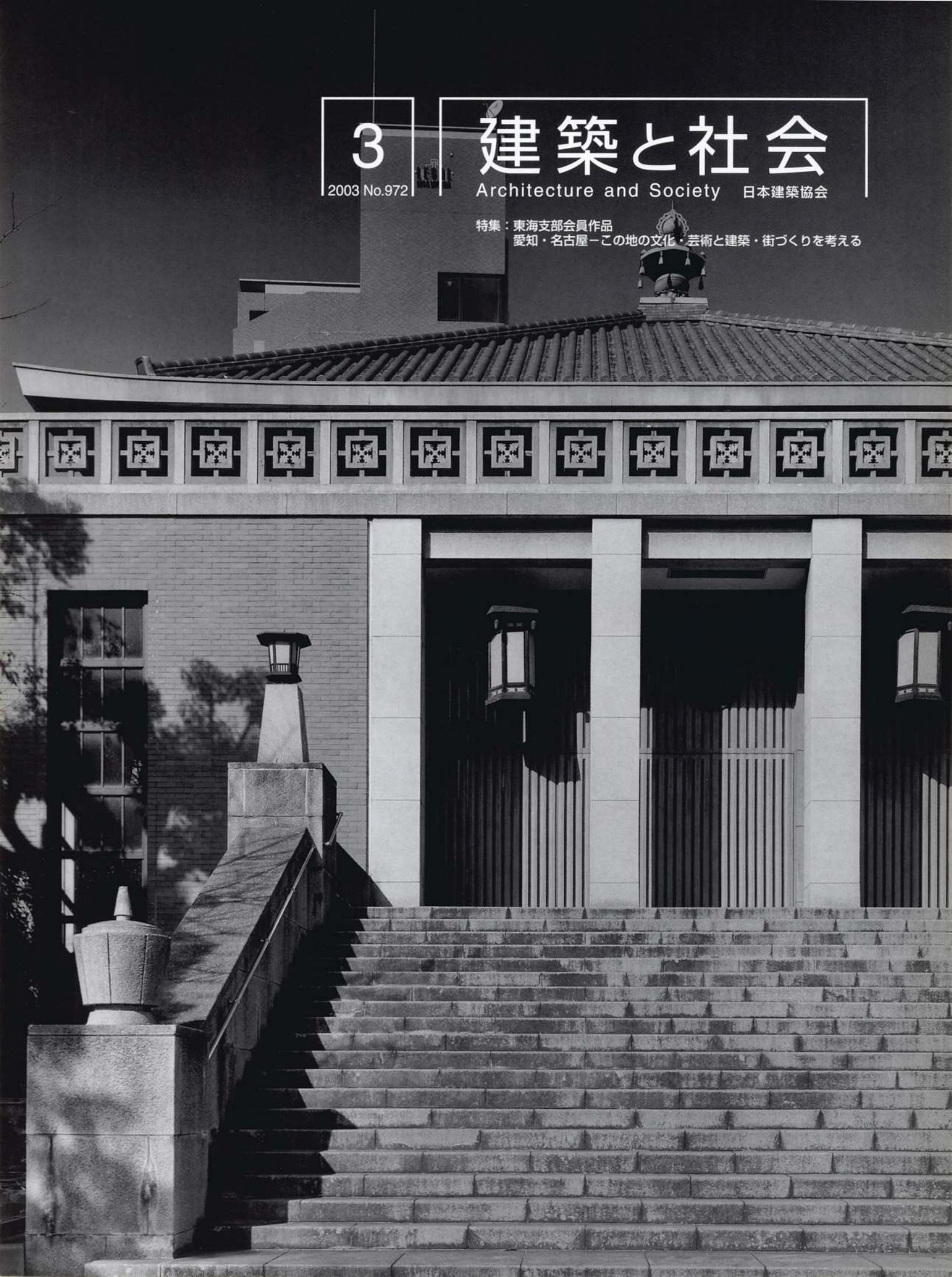


3
2003 No.972

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会

特集：東海支部会員作品
愛知・名古屋－この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える



三洋独自の水の活性技術がこれからのプールを変えます

SANYO

水が透明、清潔

電気分解で生成する、活性酸素と電解次亜塩素酸で、
徹底的に浄化・除菌します。

濃度安定、簡単管理

残留塩素濃度センサーで、濃度を自動コントロールします。

コスト削減、節水

従来の塩素薬剤は不要。
補給水量も減少します。



泳ぐ人、施設にやさしい

のどや目の痛みが大幅に減少します。

電気のチカラで、水をリフレッシュする

AQUA CLEAN SYSTEM

プール用 アクアクリーンシステム

お問合せ：三洋電機株式会社 営業開発本部：TEL 06-6991-4961
ホームページ：http://www.pool-news.com

「東海支部」特集広告



INAX

健・康・建・材

エコカラット

インテリアセラミックス

呼吸する壁材「エコカラット」、誕生。

呼吸する壁材

エコカラットには、珪藻土壁の2～3倍もの調湿機能があります。土のもつ自然の力で室内湿度をコントロールするので、カビ・ダニ結露を抑えて、快適な環境を保ちます。

優れた耐久性

セラミックならではの、高耐久安定品質。
強度・耐震性能はもちろん、施工後のひび割れや直射日光・熱などによる褪色劣化もなく、カビ・コケの発生もありません。

簡易施工

目地なし突き付け施工。優れた切断性の実現で、施工能力が大幅にアップします。

人にやさしい環境素材

ホルムアルデヒトやVOC、環境ホルモンを一切含まない自然素材。使用時にも廃棄時にも、人や地球に有害な環境汚染物質を出さない素材です。

温もりある自然な表情

これまでにないオリジナルな質感で、新感覚のインテリア空間が実現します。

株式会社INAX　中部統括支社　〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目16-20
TEL 052-201-1717
INAXホームページ　http://www.inax.co.jp/

会告

平成14年度 第2回通常総会開催

平成14年度第２回通常総会を右記のとおり開催いたしますので、ご出席頂きますようお願いします。

＊

と　き　平成15年3月26日（水）
　　午後4時から

ところ　社団法人 日本建築協会 大会議室
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100

議　案　・第1号議案
　　平成15年度事業計画（案）の件
　　・第2号議案
　　平成15年度予算（案）の件

開催通知は個人正会員、団体正会員あて別途送付しております。なお、ご欠席の場合は、開催通知に同封した返信用ハガキにて必ず委任状の送付をお願いします。

お問い合わせ先：（社）日本建築協会
総務課 TEL.06-6348-0635

東大阪市総合庁舎 見学会

日　時　2003年4月9日（水）
　　14:00―17:00

講　師　松井春雄
　　東大阪市総合庁舎建設準備室次長
　　森田芳次
　　安井建築設計事務所専門部長
　　篠宮貞典
　　大林・錢高・不動ＪＶ所長

集　合　現地／東大阪市荒本北50-4
　　＊地下鉄「荒本駅」下車約5分

定　員　40人
　　＊申込者多数の場合は抽選

参加費　会員 500円、一般 1,000円＊税込

申　込　4月2日（水）までに
　　①催し名：東大阪市総合庁舎見学会
　　②氏名
　　③個人会員・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を4月3日（木）に発送します。

申込先　（社）日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　〒530-0001
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　e-mail : jigyoka@aaj.or.jp

東大阪市総合庁舎は３市合併後36年、市民念願の開かれた庁舎として、東大阪新都心区域内に計画され、この地域のまちづくりの先導的役割を担っている。また、市民サービスの向上、交流機能の充実を図り、広域防災拠点としての役割を果たすことにしている。

限られた敷地内に緑豊かなオープンスペースをできるだけ確保するため、建物は一棟構成とし、低層部は市民サービス部門、４階機械室から上階は執務部門、更に18階から上階は議会部門とし、22階最上階は展望ロビー、ギャラリー、レストランなどで構成されている。

親しみやすさ、あたたかさ、そして市のシンボルとしての格調ある美しさが求められ、また、時代の流行にとらわれない永続性のあるデザインが重要と考え、端正な頂部デザインによるシンボル性の表現、深みの感じられる横連窓を持つ高層棟、安定感と開放的でヒューマンな親しみやすさを持つ低層棟というコンセプトで計画されている。

（森田芳次）

主　催　（社）日本建築協会
　　事業委員会見学会小委員会

担当主査　坂本良高／大林組



●建築概要
所 在 地　東大阪市荒本北50-4
建 築 主　東大阪市
設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　大林・錢高・不動JV
敷地面積　11,000.01㎡
　　(西側駐車場用地含め15,000.01㎡)
建築面積　3,856.16㎡
延床面積　50,052.13㎡
構造規模　SRC・RC・S、B2F・24F(P1を含む)
最高高さ　115.8m
工　　期　2000年10月～2003年3月

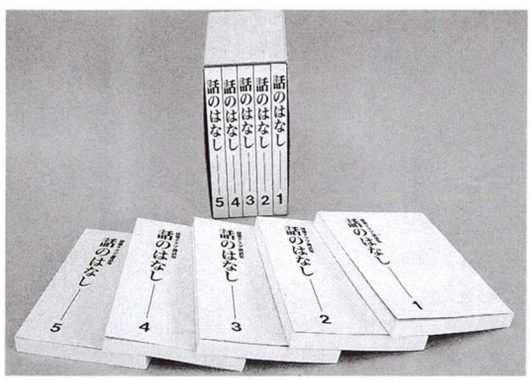
講演記録集 「話のはなし」残部頒布します！

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり）は1997年、朝食会の第300回を記念して、講演速記録を集約し、最終的に118回分を5冊1セット（1冊平均約320ページ）の本にして発行いたしました。

「話のはなし」の講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。

1セット・5,000円（消費税別途）でおわけします。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。

申込先：日本建築協会事務局
TEL06-6348-0635　FAX06-6348-0634



B6判　5分冊

講演会

大阪市中央公会堂 保存再生の 語り尽くせぬ深さ



日　時　2003年4月3日(木)
18:30—20:30

会　場　大阪市中央公会堂B1 会議室
＊大阪市北区中之島 1-1-27
＊「淀屋橋」駅より徒歩約5分

講　師　橋本健治／坂倉建築研究所

定　員　50人
＊申込者多数の場合は抽選

参加費　会員 1,000円、一般 1,500円
学生は500円引　＊税込

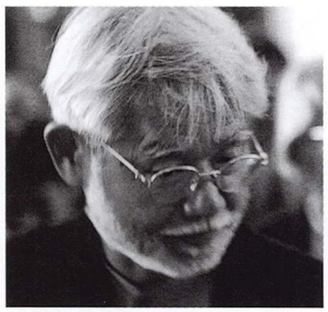
申　込　3月27日(木)までに
①催し名:「大阪市中央公会堂」
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を3月28日(金)に発送します。

申込先　(社)日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
〒530-0001
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
e-mail : jigyoka@aaj.or.jp

主　催　(社)日本建築協会
事業委員会情報小委員会

担当主査　小笹光彦／ランテック計画事務所

待望の保存再生成り、創建後85年目の新鮮な感動とともに、大阪市中央公会堂のさらなる歩みが始まっています。
歴史様式建築保存再生の実践例として、その幅の広さ奥行きの深さには、語り尽くせぬ程に多彩な事実があります。
今一度その中に分け入って、これまで関わってきた人々の考えや手の痕跡、物事のありようとそれらの変遷をたどってみたいと思います。
保存再生工事期間3年半を映像記録してきたVTRの編集版(35分)上映により、工事前から竣工までの全過程を概括することができます。
創建当初の記述や写真などの諸資料から判明する当時の状況、現場調査によって明らかになった諸事実は、時代を経て活き続ける建築物の存在性をより確かなものとしてくれます。当時の意外なエ夫の数々に出合うことで公会堂への興味愛着がより深くなることでしょう。
とはいえ設計の始めから工事報告書のまとめまで7年の業務担当過程を経ても先人の偉業に届かない程に奥は深いのです。貴重な外観内部空間を構成するさまざまな仕上材料の状況にあわせた保存修復、末永く活用していくための機能と性能の改善整備、基礎免震化による構造補強や設備改修との意匠整合、そして期待の当初復原の根拠探索と実現、それらの過程は、保存再生の特殊解であるとはいえ、建築することの理想の例示でもあるように思えてくるのです。
(橋本健治)



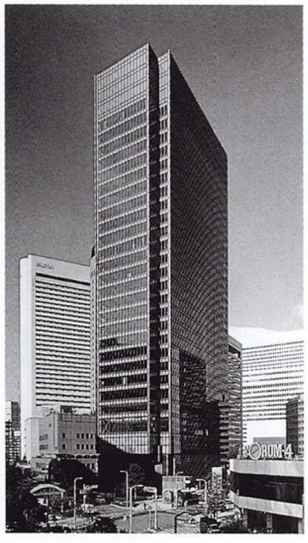
はしもと・けんじ
1945年神戸市生まれ
1967　神戸大学工学部建築学科卒業後
坂倉準三建築研究所大阪事務所入所
1969～坂倉建築研究所大阪事務所
1990～同取締役、1999～同執行役員
1990～神戸大学工学部建設学科非常勤講師
設計担当:芦屋市民センター、諫早文化会館、
伊丹市柿衛文庫館、堺市都市緑化センター、
RICセントラルタワー、田辺市美術館、
大阪市中央公会堂保存再生、他

●「大阪市中央公会堂」建物概要
所在地　大阪市北区中之島 1-1-27
所有者　大阪市
重要文化財　指定日 平成14年12月26日
敷地面積　5,641.81㎡
建築面積　既存部2,164.17㎡ 増築部　166.18㎡
延床面積　既存部8,425.04㎡ 増築部1,461.52㎡
構造規模　既存部 鉄骨煉瓦造・RC造、B1・3F
既存設計　公会堂建設事務所/原案:岡田信一郎、建築顧問:辰野金吾、工事監督:片岡安
同　工事　1913年6月～1918年10月
保存再生工事　1999年3月～2002年9月
同　設計監理　大阪市住宅局営繕部
坂倉・平田・青山・新日設設計JV
同　施　工　清水・西松・大鉄特定建設工事JV

●関連本誌掲載
1999年2月号、2001年9月号、2002年12月号

話題建築を聞く
第35回

梅田DTタワー



日　時　2003年4月22日(火)
18:30—20:30

会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階

講　師　門川清行
竹中工務店役員補佐

定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選

参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
学生は半額　＊税込

申　込　4月15日(火)までに
①催し名：梅田DTタワー
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を4月16日(水)に発送します。

申込先　(社)日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
〒530-0001
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
e-mail : jigyoka@aaj.or.jp

主　催　(社)日本建築協会
事業委員会情報小委員会

担当主査　天野直樹／竹中工務店設計部

大阪駅前ダイヤモンド地区に最後に残った敷地に複合用途ビル、梅田ＤＴタワーが竣工しました。
この建物は11年前に着工しましたが社会情勢の変化により、地下躯体の施工段階で中断していましたが大阪駅前地区、ディアモール地下街の活性化のため早期完成が望まれていました。
このビルの最大の特徴は世界最大の超高層免震建物ということです。
工事中断中に阪神大震災を経験し、建物の損傷を防ぐという消極的な目的ではなく、地震時のオフィス機能停止を起こさないこと、そして居住者の不安感を取り除き、パニックを避けるために有効と考えました。また先行地下躯体と設計変更された上部躯体を整合させることも免震採用の理由でした。
１柱あたり3000トンにのぼる軸力に耐える免震デバイスの開発から着手し、巨大な「リニアスライダー」などによる「ハイブリッド免震装置」として採用しました。
敷地は、広く地域に開放し、地下１階レベルのサンクンガーデンから地下２階レベルのディアモールまで外光が降り注ぐ新しい空間を作り出しています。
私はこのプロジェクト設計者として、また事業主代行としてＰＭするという貴重な経験をさせていただきました。この視点でお話させていただきたいと思います。
(門川清行)



かどかわ・きよゆき
1946年大阪府生まれ
1971　北海道大学建築工学科修士課程修了
竹中工務店入社 大阪本店設計部配属
1998　大阪本店設計部長
プリンシパルアーキテクトを経て
2002　役員補佐
主な作品：ワールド本社ビル、クラボウ本社ビル、久保惣美術館新館

●建築概要
事業主　株式会社竹中リアルティ
設計施工　株式会社竹中工務店
建築地　大阪市北区梅田1丁目10番1号
用　途　事務所、店舗
敷地面積　3,609.27㎡
延床面積　47,613.18㎡
構造規模　S・SRC・RC、B4・27F・P2
工　期　2000年11月1日～2003年1月31日

建築と社会 3 2003
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN
1917年創刊　第84集／通巻972号

今月の表紙

表紙デザイン／田村昭彦
企画／倉渕奈千子
建築写真／河合止揚

●清風寺本堂

設　計／岸田日出刀
施　工／清水建設
竣　工／1956年
所在地／大阪市北区大淀南

●近代建築のプロデューサーとして、丹下を中心とするモダニズムの建築家を多く世に送り出した、岸田日出刀の晩年の作品である。
軒の出を嫌い、水平線を強調し、モダニズムと日本的デザインを融和させている。コンクリートや煉瓦を用い、宗教建築としての風格と、当時としての新しさを表現した建築であるが、撮影時は解体直前、工事車輌を避けながらの最後の写真となってしまった。　（倉渕奈千子）

■特集予告

4月号／サスティナビリティ〜次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン〜
5月号／建築と五感（仮称）

編集委員会（平成14年度）

■副会長　※河井　康人
佐野　吉彦　河津　隆之
奥謝野　久　近藤　国夫
■編集担当理事　近藤　正一
井上　豊　田ノ畑好幸
上原　正行　桝井　貴廣
岡田　聿之　松浦　肇
◎設楽　貞樹　丸山　和夫
竹中　統一　村上幸三郎
畠山　祐治　□施工材料分科会
広原　盛明　植田　実
堀田　修二　小椎八重猛
松村　慶三　※竹中　秀文
■特集小委員会　太刀川丈爾
□計画分科会　平野　剛
★計画系　横山　芳幸
伊縫　憲幸　吉田　正友
梅田　善愛　□法令分科会
小浦　久子　※薄木　三男
※鈴木　克彦　大原　幸三
田中　直人　岡本　哲夫
紅谷　昇平　田村　俊郎
細田　浩史　中島　和也
松田奈緒子　溝上　省二
松本　正行　■作品作風小委員会
吉村　英祐　赤木　隆
★建築計画系　淺尾　宏
荒木　宏之　朝倉　一晃
江副　敏史　居内　章夫
宮野　忠司　池上　明
小林　優子　井上　雅祐
桜井　則雄　川上比奈子
笹村　欽也　△倉渕奈千子
静　茂夫　寺岡　宏治
所　千夏　中村　文紀
※野田　隆史　林　孝司
三村　和生　前川　治彦
★インテリア・住宅系　増田　敬彦
加藤　力　増田　俊哉
小梶　吉隆　山田　俊紀
佐藤　勝紀　■会員企画小委員会
田中　浩介　稲木　裕子
※高野　直樹　大谷由紀子
西田　和子　河崎　敦子
ベリー史子　清水　麗子
本山　仁　△髙岡　伸一
□構造分科会　高田　光雄
大氏　正嗣　辰巳　清一
大音師　靖　塚口　明洋
大住　和正　辻川ひとみ
尾上　清治　福田　瑞穂
金田　興熙　■広告企画小委員会
木下　隆嗣　荒本　俊明
白沢　吉衛　大迎　敏樹
住田　隆二　小幡　義明
田中　剛　小山　昭
※田渕　勝道　斉藤　治久
松村　和夫　田渕　博昭
向井　洋一　竹内　健介
吉川　真次　林　一彦
□設備分科会　古畑　健一
今井　泰司　前田　衛
梶井　宏修　△渡邊　浩文

◎委員長　△副委員長　※幹事

印　刷　2003年2月25日
発　行　2003年3月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データネット株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集● 東海支部会員作品2003

［作品］
大津赤十字志賀病院 10
研究成果活用プラザ東海 12
磐田信用金庫本店 14
（株）豊田自動織機情報技術研究所 16
SANYO SOLAR ARK 18
メナード本社ビル 20
D-Square 22
オアシス21 24
ZEBRE 26
愛知県住宅供給公社　サンコート桃花台 28
［東海スケッチブック］ 30

特集● 愛知・名古屋 —この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える—

［総論］
愛知・名古屋の芸術・文化をめぐって●馬場駿吉 32
［企業としての文化活動］
INAX文化スクエア●宮地　究 36
国際デザインセンター●木村一男 38
［名古屋の街・街づくりと住民活動］
広小路物語 都市再生を目指して●井上昭彦 40
名古屋の歴史的建築●溝口正人 42
［座談会］
支部会員が語る「愛知・名古屋の街・建築」 44
愛知まちなみ建築賞1993〜2002にみる愛知・名古屋の文化施設 48
［施設づくりと地域文化の広がり］
新しい街並みの創出●福田一豊 50
都市の中の美術館●山脇佐江子 52
長久手町文化の家●川上　實 54
岡崎市シビックコア地区整備計画●大賀治義 56
文化の新しい発信地●須藤角男 58

会告
平成14年度第2回通常総会開催．東大阪市総合庁舎見学会．講演記録集「話のはなし」残部頒布します！講演会・大阪市中央公会堂保存再生の語り尽くせぬ深さ．話題建築を聞く㉟梅田DTタワー 1

作品作風
阿倍野D3-1分譲住宅（あべのセントレーベ） 4

gallery
自然系エコハウス（菅家正王）●前川治彦 6

建築の眼
クールルーフと屋上緑化●森山正和
大阪・船場の再生に（その1）●千葉桂司
「発熱する建築」をどう冷やすか●大高一博
ヴォルテール「カンディード」（岩波文庫1956年刊）●樫原健一 8

法令コーナー
京都市まちなみ審議会の提言と具体化●青木正文 61

構造の頁
土壁から探る古建築の地震被害●西澤英和 62

設備の頁
ヘルツフリーのコンパクトなポンプ●斎藤俊行 64

研究最前線を追う
都市エネルギーシステムの適正化研究
●大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻環境エネルギーシステム学研究室 65

やさしいケンチク数学ばなし
その3—πの話●山田　修 66

新建材の頁
高圧注入止水工法 67
多孔質セラミック吸音レンガ●松本　章 68

information
MIHO MUSEUM春季特別展.Roman Signer近作展.エイヤ＝リーサ・アハティラ展＋束芋展.水辺の土木展—とっておきの風景—.Isamu Noguchi Design展、東京デザインセンターで開催.アーキフォーラム「近代建築を旅する」.各地で「建築環境・省エネルギー講習会」.「摩擦杭の設計に関する研究」報告会.「21世紀の住空間をささえる部品開発コンペ」入選提案決定.都市住宅学セミナー開催.景観スケッチセミナー開催.環境共生住宅の認定住宅.京都六大学合同卒業設計展「若気の至り展」.ATC関西学生卒業作品展Vol.8「創っ展—TSUKUTTEN—」.西日本トータルリビングショー.「THE TILE FRONT 2003」発行 69

月間の動き
平成15年1月分 72



作品
作風

工事監理■
大阪市住宅供給公社

設計・監理■
大林組

施工■
大林組

阿倍野D3-1分譲住宅
（あべのセントレーベ）

敷地は阿倍野再開発地区の一画の、周辺には高層住宅が立ち並ぶ都心居住地域に位置します。この建物では、「社会資産となる永住型住戸の実現」を目指し、社会環境の変化に柔軟に対応する「SIシステム」と、接空率を高め多様な住戸プランを実現する「ワイド間口」を併せて採用しました。SIシステム、すなわち長寿命・高耐久な構造躯体S（スケルトン）と可変性・更新性の求められる内装・設備部分Ｉ（インフィル）を明確に分離することで、住まい手がライフスタイルの変化に応じて自由にインフィルを変えながら永く住み続けることが可能となります。また、設備配管用の住戸床下空間を有効に利用し、部分的に床を下げ居室の天井高を大きくするなど、今までにない新たな住空間を実現しています。

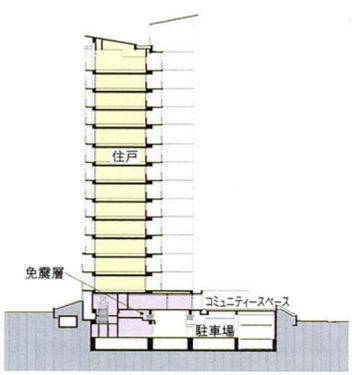
配置計画では、周辺環境へ配慮したワイドスパンＩ型住棟の採用と駐車場の地下化により、採光・通風を確保しつつ緑豊かなコミュニティスペースを創出しました。さらに、地盤と上部建物の間に免震装置を設置した地下１階柱頭免震構造を採用することで、敷地を有効に活用しながら安心・安全な住環境を実現しています。

（桜井則雄、川副正博／大林組）

所 在 地 —— 大阪市阿倍野区旭町3丁目43-2他
敷地面積 —— 3,019.62㎡
建築面積 —— 1,181.27㎡
延床面積 —— 12,922.86㎡
構造規模 —— RC、14F、B1F、P1
工　　期 —— 2000年12月～2002年８月
最 寄 駅 —— 地下鉄谷町線・阿倍野駅
撮　　影 —— 伸和（八幡輝幸）



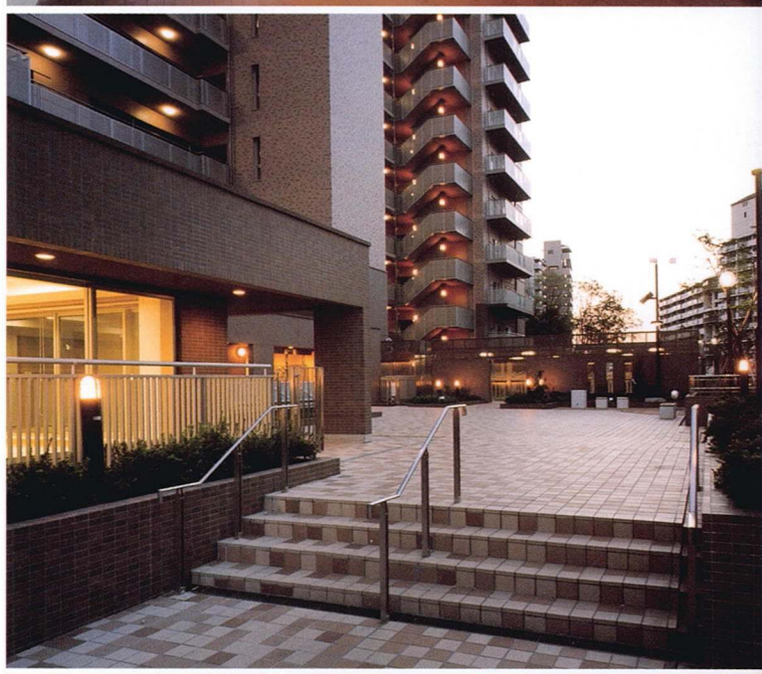
基準階平面図　1：1000



断面図　1：1000

左頁：南西面ファサード
右頁上より：床下げ住戸内観／アプローチ広場／西面ファサード







gallery

自然系エコハウス

建築設計
菅家正王



日本のふるさと奈良。
大和郡山城下の南西にこの家が建って一年半、自前の庭造りも形が整って街並みの一つに仲間入り。
道路向いにこんもりした古墳の緑。
三軒南の神社にあるカシの大樹。
居間にペッタリ座り大樹を見ながらお茶を頂くのが主のお気に入り。
昨年の冬は床暖だけで過ごされたとか。
外断熱に木製断熱建具とブロック蓄熱体の成果か。
木曽サワラの浴槽も当初の白い肌のまま。
吉野檜の香りは今はもう薄れてしまったけど、訪れるたびに変化するインテリア。
今日はどんな表情をしているか。
家に居てあたかも自然の中に居るような、そんな心のふるさととして。



自前で土壁塗り



伝統工法隅合掌組みにより7.3m角を桧120×240単材で飛ばす





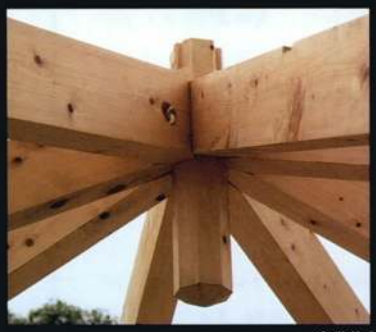
●菅家正王／masayuki kanke
1952　大阪市生まれ
1971　(株)東畑建築事務所
1990　(有)菅家設計室

●設計・監理
(有)菅家設計室

●施　工
(株)合掌
原田量治
花谷　栄

●写　真
(有)菅家設計室
(株)合掌

●企画編集
前川治彦
(作品作風小委員会)



合掌芯束



自前で庭造り



古ダンスが食器棚に変身



台所作業風景

ARCHITECT's EYE

クールルーフと屋上緑化

森山　正和

屋上緑化がヒートアイランド対策として有効であることは論を待たない。しかし、ヒートアイランド対策のために屋上緑化を設置するのはおかしいと多くの専門家が指摘している。屋上緑化による屋上直下室の冷房負荷軽減効果にしても、一般的な断熱材の使用で十分置き換え得ると見てよい。夏のヒートアイランド対策のみを考えるのであれば、いわゆる「クールルーフ」はコストベネフィットの優れた方法である。クールルーフとは、屋根に塗布する日射の高反射性塗料を指しており、屋根に入射する日射を直接的に天空に返してしまおうという発想である。その日射反射率は一般に70%以上あると言われ、近赤外波長領域の反射率を高めているので視覚的に必ずしも白色ではなく、グレーやブラックの製品もある。

クールルーフのような手法で暑さを凌ごうというのは、一般的に見て、高温乾燥気候地域の伝統的な発想であり、日本のような高温多湿気候では通風やみどり、散水による手法が伝統的に根付いてきたと言える。しかし、クールルーフによるヒートアイランド対策に科学的合理性があり実用にも十分耐えうる手法であるならば、生活者の普遍的な価値判断の元に風土へ柔軟に適応し得るものであり、対策の選択肢を豊かにするものとして考えて行かなければならないであろう。

神戸大学工学部建設学科教授

大阪・船場の再生に（その1）

千葉　桂司

前回、街並みの歴史・文化の継承について話した。
継承ということでこんな記憶がある。もう10年も前のこと、大阪「船場ことば」を伝えたいと活動をしておられる、道修町の清水路子さんにお目にかかった。ご存知のとおり船場は商都大阪を代表する街であり、谷崎の「細雪」の世界でもある。商いをする多くの商人とその家族が暮らした都心の街も、今や住む人が少なくなり、船場で営まれた生活文化と共に言葉も消えようとしている。都心が空洞化するということは単に経済的問題ではなく、都市文化の問題なのである。当時、都心に住む人を呼び戻したい、といった話を交わしたが、このところやっと都心人口が増え始めたようだ。

清水さんはその時こうも言った。「住めるように建替えたいけど、建築後退があり出来ない」と。この船場には「船場後退建築線」（現在は地区計画）がかかっており、建替え時に後退しなくてはならない。だからよく見ると、大きな商家や小さな木造建築が建替えられずに残っている。こうした建物群による船場の街並みも、近年、総合設計などにより公開空地をとって建物を後退させたビルが増え、それはそれで船場に乏しい空地と緑を提供しているが、賑わいを醸し出す街並みが消えていくのは寂しい。街並みと公開空地が上手く共存できる仕組みはないものだろうか。幸い、船場の戦災を免れたいい建物が、レストランやSOHOビルにリニューアルされる動きも出てきた。まちづくりに立派に役立つ資源として見直されようとしている。

清水さんに会って以来、ずっと気にかかっていた船場の再生がやっと動き始めた。次回はその話をしたい。

都市基盤整備公団関西支社副支社長

「発熱する建築」をどう冷やすか

大高　一博

発熱を続ける建築を冷やすには、換気による方法が最も省エネにかなっている。とにかく暑くなった部屋の空気を冷たい外気と入れ替えて熱を外に追い出す。自然の風や、空気の密度差で生じる煙突効果を使って、この空気流動を建物内に起こせば、ファンを使う必要がない自然換気となる。構造的にそれが無理なら春・秋に十分な機械換気ができるようにする。こうした自然換気や外気冷房は「発熱する建築」に望ましい仕組みである。

しかし、それでも外気温度が25℃くらいを超えると、換気で内を冷やせないからどうしても冷房が必要になる。たとえば省エネに優れた環境共生オフィスは、断熱や日照遮蔽を十分施した上、自然採光や自然換気を活用するので、年間冷房負荷がかなり小さい。けれども真夏の内部発熱の排出と、外気の冷却だけは冷房に頼らざるを得ない。従ってIT化で内部発熱が大きくなった建築は、仮にそれらすべてを環境共生的なビルにしたとしても、7月から9月の3ヶ月くらいは、集中してかなり高い冷房需要が出ると思われる。そしてそのような発熱する建築が高密度に建つ都市を想像すると、今よりもっと冷房需要のピークカット対策が都市レベルで重要になると思われる。

一日の最低気温が25度以上の日を熱帯夜というが、大阪では1950年の当時、年間20日くらいであったのが、ここ数年は60日を越えている。この期間は換気で建物を冷やせないから冷房するしかない。いっそ冷房するならこの期間は「しのぐ時間」と考えて建物を密閉し、24時間冷房をしたらどうだろうか。建物に蓄熱槽をつけて外断熱を活用し徹底して昼間のピークカットを図る。こうした建物を冷やす装置は「発熱する建築」に不可欠なインフラと思える。

日建設計大阪設備統括部長

ヴォルテール「カンディード」（岩波文庫　1956年刊）

樫原　健一

日本に住んでいれば地震はいつか必ず来る、ということは今なら誰でも知っている。しかし頭で分かっていても、突然足下がぐらぐら揺れだし、立っていることもおぼつかなく、目の前の家々が壊れだして人々の叫びを耳にしたら、茫然自失にならないだろうか。まして、歴史上ほとんど地震を経験したことのない地域に住む人にとって、その恐ろしさは言語を絶することであろう。ヨーロッパでは近代社会へ向けての胎動が始まる1755年にリスボン大地震が起こり、ヨーロッパ全土を恐怖に陥れた。この体験が、ドイツの哲学者カントの「地震の報告」「地震の原因」という論文を生み、フランスの思想家ヴォルテールに「カンディード」を書かせた。「カンディード」はフランスでベストセラーとなり、自立する市民の自我を目覚めさせ、やがてフランス大革命へと社会は大きく変革していった。地震はまさに人間存在の根幹に関わる現象であり、人々が営々と築いた都市文明を瞬時に破壊するパワーを持っている。それほど強い衝撃を与える自然現象に対して、現代のわれわれは謙虚になるべきであろう。耐震補強が進まない現状を考えるにあたって、歴史が与える教訓を今一度思い起こし、阪神・淡路大震災の経験を生かすためにも一読を勧めたい。

（株）鴻池組建築本部エンジニアリング部長

建築の眼

東海支部会員作品2003

大津赤十字志賀病院

研究成果活用プラザ東海

磐田信用金庫本店

(株)豊田自動織機情報技術研究所

SANYO SOLAR ARK

メナード本社ビル

D-Square

オアシス21

ZEBRE

愛知県住宅供給公社 サンコート桃花台

本特集企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会
委員長　小宮三辰
特集記事担当副委員長　松本壮一郎
作品作風担当副委員長　植田　明
デザイン広告担当副委員長　佐藤達雄
特集記事担当委員　林　金之
作品作風担当委員　和宇慶朝武
委員　今津芳清　尾崎武寛　後藤利秋　篠原佳則　鈴木慶智　仙田　篤　田村由紀　寺本英一　中村嘉男　中村哲士
野崎　勉　福田泰造　細田泰彦　松元親司　武藤謙人　森田富士男　盛田輝勇　山本敦子　芳山明人（50音順）

大津赤十字志賀病院

設計監理　日建設計
施　　工　清水建設

所 在 地　滋賀県滋賀郡志賀町和迩中298
敷地面積　21,091.87㎡
建築面積　3,817.98㎡
延床面積　8,135.12㎡
構造規模　RC、4F、P1
工　　期　2000年12月～2002年5月
最 寄 駅　JR湖西線和邇駅
撮　　影　エスエス大阪



▲豊かな自然に囲まれた配置

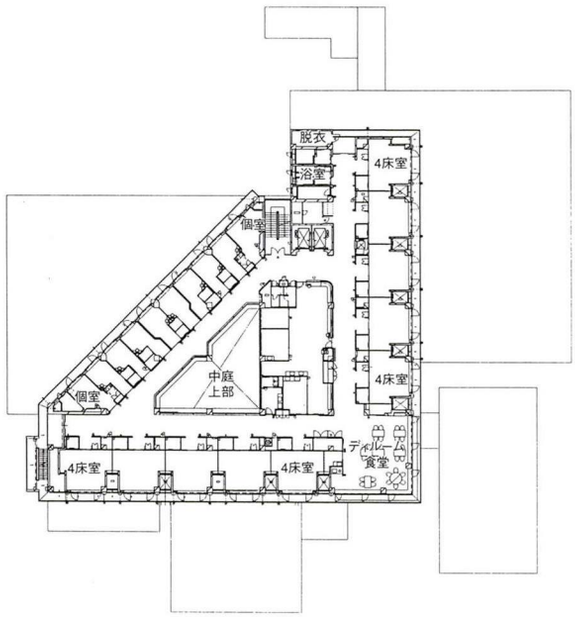
琵琶湖が一望できる高台に、国立療養所比良病院の後を引き継いで医療を担う100床の一般病床と50床の療養型病床をもつ病院である。

外観は、軒の出た勾配屋根と、リズム感のある4床室外壁、陰影のある彫りの深い外観、暖かみのある落ち着いた色調とし、豊かな自然に調和させて、地域と一体的な豊かな療養環境とした。

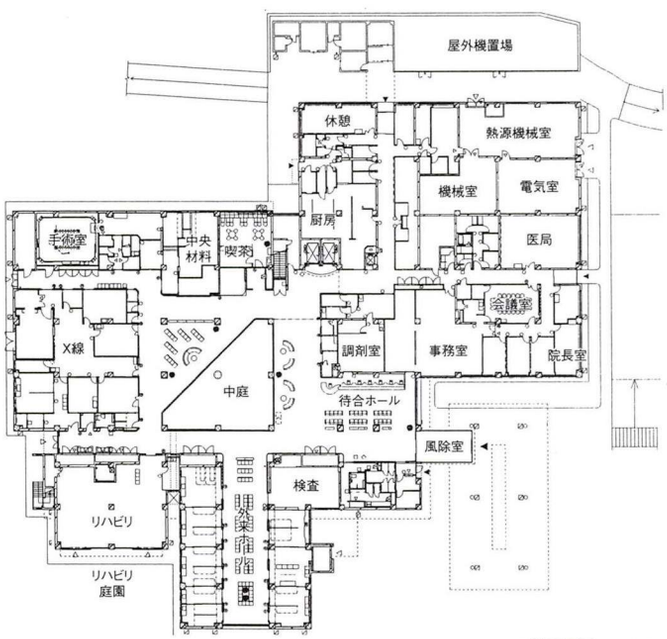
1階は外来診療と検査部門。放射線と内視鏡の一本化など、利用しやすい運営の効率化にも配慮した。2、3階は、一般病床、4階を療養型病床の三角病棟とし、中庭を中心にわかりやすい構成とした。

病棟は、プライバシーを確保した個室的な4床室、落ち着いた色調の内装の1床室、最も良い景観が得られる位置に食堂とデイルーム、回廊式に中庭をめぐる明るくゆったりした病棟廊下等、病棟の施設レベルを長く高く保つよう配慮した

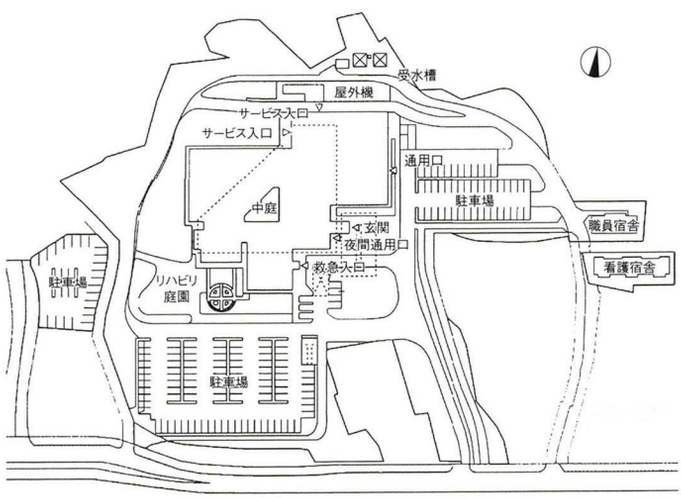
（野崎庸之、石倉義行／日建設計）



2階平面図　1：1000



1階平面図　1：1000



配置図　1：3000



▲明るく開放的な外来受付



▲外来待合ホールから中庭を眺む



▲琵琶湖への眺望のよい位置の食堂・デイルーム

▼個室的な4床病室









研究成果活用プラザ東海

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　建築：鴻池・名工・塩浜建設工事共同企業体
　　電気：トーエネック
　　機械：三晃空調
　　衛生：須賀工業

研究成果活用プラザ東海は、研究開発活動の活発な東海３県の大学や研究機関や地元企業などの産学官との連携を図り、研究開発コーディネートの下、科学技術振興事業団の諸事業を集中的に実施することにより、基礎的研究成果を掘り起こし、研究成果の育成・活用・社会還元を戦略的に行うための施設である。本施設は新しい地域の環境づくりであり、周辺の緑に囲まれ余分な装飾を排除し、より自然で、機能的で、先端研究施設の開かれたイメージを与え、産業と都市生活の新たな統合を具現化している。

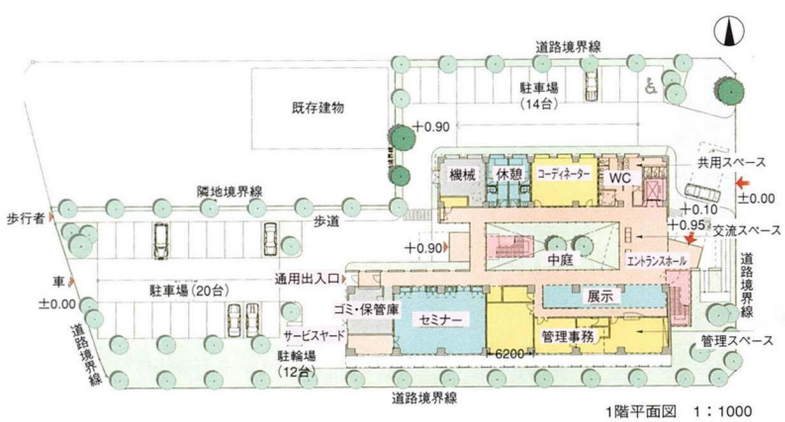
建物全体を試験ゾーンと研究ゾーンに分け、その間に中立的な場所である中庭を透明なガラス張りとすることで、この中庭を介して交わる人々の視線が研究者と研究者の距離を縮め、コミュニケーションを生み出し、豊かな光の中でセキュリティとプライバシーを守りながら交流「プラザ」を実現している。

外観は、装飾的なものを排除し、ガラスや金属などハイテクな材料を用い、機能美・構造美を表現している。南側には、機能上の設備配管の目隠しとして、また日射を遮蔽し、内外の視線をカットする現代的なガラスの「簾」を設置している。これは周辺住民の視覚環境を考慮しつつ、研究試験室の機能性を追求したものである。交流ラウンジは、透明のガラスで囲み、中庭から交流ラウンジ、さらに外部への連続性を作り上げ、交流「プラザ」を一層強く表現している。

21世紀はじめにオープンする施設において、その名に表現されている「プラザ」（周辺に開かれた広場）としての役割が何より重要である。

（野崎敏夫／安井建築設計事務所）

所 在 地　愛知県名古屋市南区河原町23-1
敷地面積　3,181.89㎡
建築面積　1,092.49㎡
延床面積　2,756.65㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　2001年11月～2002年10月
最 寄 駅　名鉄本線本星崎駅
撮　　影　アド・グラフィック



1階平面図　1：1000









南西面外観



広がり感のある本店営業ロビー

所 在 地　静岡県磐田市中泉字東町578-1
敷地面積　2,410.20㎡
建築面積　1,710.80㎡
延床面積　7,034.40㎡
構造規模　SRC・S、B1F、6F、P1F
工　　期　2000年9月～2002年2月
最 寄 駅　JR東海道本線磐田駅
撮　　影　エスエス名古屋

磐田信用金庫 本店

設計監理　日建設計
施　　工　大成建設

Jリーグジュビロ磐田の本拠地静岡県磐田市に立地する信用金庫本店である。2002年に創立50周年を記念して、JR磐田駅前土地区画整理地区内に移転新築を行った。

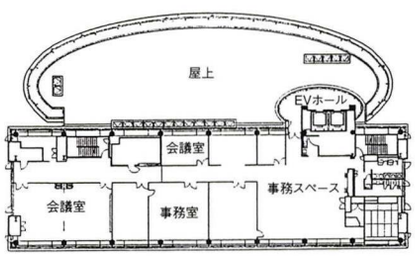
「地域に根ざしたトップバンク」を行動理念とする信用金庫本店にふさわしく、メインストリートに面して緩やかにカーブしたガラス張りの低層本店営業と、駅前地区のランドマークとして御影石とガラスの水平ラインを強調した高層本部が対比的な構成とした。

全体が落ち着きのある中にも、新時代の信用金庫にふさわしい、先進的なイメージを表現した。

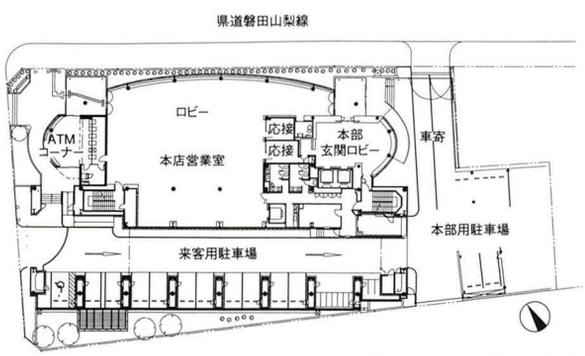
営業室ロビーは、天井が高く広がりのある空間で、木質系の暖かみのある仕上げとした。最上階は総代会が開催できる大会議室を設け、お客様に開かれた本店を示している。事務室は、将来の組織変更にも柔軟に対応できるよう間仕切りを極力なくしたオープンな空間としている。

環境面でも、南北面開口に高断熱・高遮熱複層ガラス・ライトシェルフにより、空調負荷削減を行うとともに、ペリメータ部の天井を高くすることにより自然採光の効果を高めている。

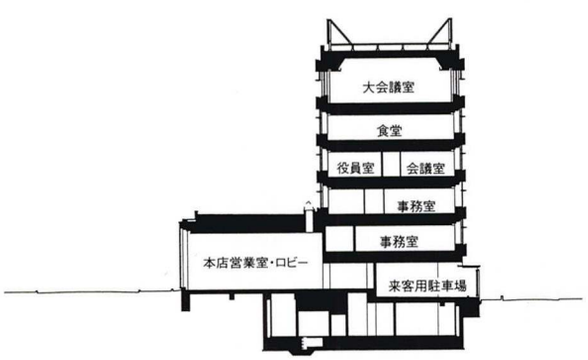
（葛原定次、宮本好信／日建設計）



3階平面図　1：1000



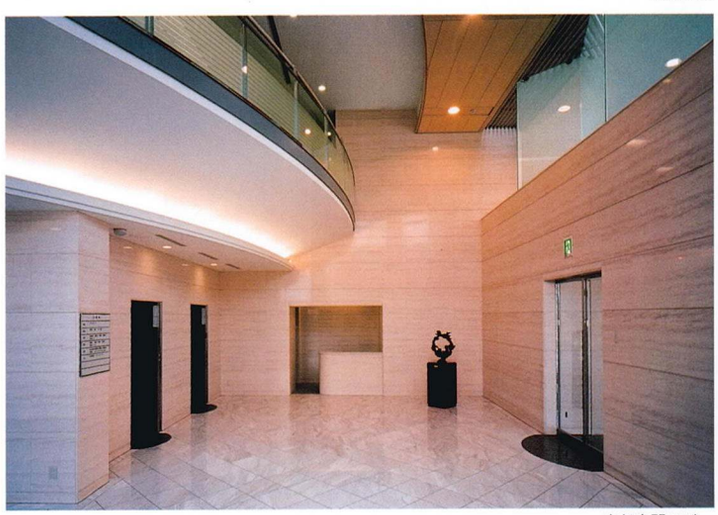
配置図・1階平面図　1：1000



断面図　1：800


北東面外観


南面外観


本部玄関ロビー







（株）豊田自動織機情報技術研究所

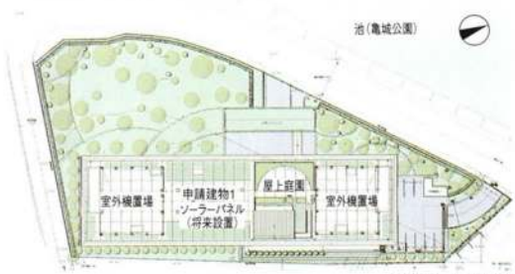
設計施工　竹中工務店

情報技術研究所は、ネットワーク時代における新たな事業領域の創出や製品の付加価値向上をはかるため、研究開発の情報化や製品への高度なIT活用を推進することを目的として建設された。内部にはデーターセンターを設置し増大するデーターを一元的に管理統合するとともに、関連拠点やグループ企業、サプライヤーの中心的存在として機能するようグローバルネットワークの構築をめざしている。

緑豊かな公園として整備された刈谷城址の一画にあった独身寮の廃止による所有地の再利用がプロジェクトの起因の一つであった、敷地は風致地区に指定されているため、良好な自然環境を保持しながら歴史ある街並を再構築することを大きなテーマとした。

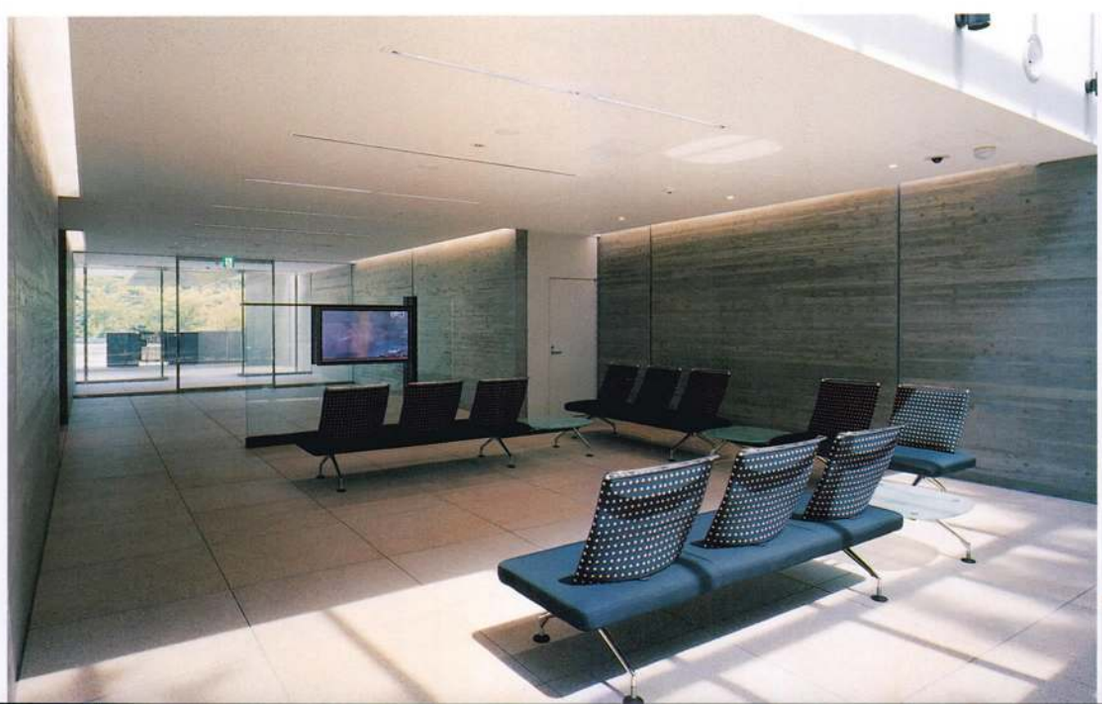
外観は情報の受信・蓄積・発信を担う現代の城郭としてとらえシンプルかつシンボリックなデザインとした。杉小巾板打放コンクリートによる堅牢な壁は情報を蓄積する情報機器室とその生命線ともいうべき幹線を守り、ガラスカーテンウォールによる皮膜は情報のインタラクティブな部分を象徴的に表現した、何れの素材も周辺環境との調和を意識したものとした。内部は四周カーテンウォールの構成により緑豊かな景観を視覚的に取り込み、西面には省エネ対策として電動可動スクリーン「障子」をもうけ印象的な光の軌跡を演出し終日モニターに向かう研究者のハードワークの緩和をめざしている。建物の性格上地下１階の下に鉛プラグ入り積層ゴムを配置した基礎免震構造を採用、電源設備は受電・発電機・UPS・幹線等すべて二重化し高度な信頼性を確保している。また既存の大木を残した前庭や屋上緑化の導入により緑地スペースを最大限確保し周辺環境との調和をはかった。

（田中了介／竹中工務店設計部）



配置図　1：2000

所 在 地　愛知県刈谷市城町1-25-4
敷地面積　5,219.82㎡
建築面積　2,076.5㎡
延床面積　6,950.37㎡
構造規模　B1F、3F、P1F
工　　期　2001年9月～2002年4月
最 寄 駅　JR東海道線逢妻駅
撮　　影　吉村行雄・エスエス名古屋（白井利明）









SANYO SOLAR ARK

基本構想・デザイン　三洋電機
設　計　監　理　KAJIMA DESIGN NAGOYA
施　　工　鹿島 名古屋支店

所 在 地　岐阜県安八郡安八町大森180
敷地面積　212,157.64㎡
＜アーク＞
築造面積　　3,294.48㎡
構造規模　S、37.105m（最高高）
＜ラボ＞
建築面積　　540.10㎡
延床面積　　542.36㎡
構造規模　S、一部SRC、2F
工　　期　2001年2月～2001年12月
最 寄 駅　JR東海道新幹線岐阜羽島駅
撮　　影　エスエス名古屋

左頁上：コンピュータ制御されたLEDによる特殊演出照明　左頁左：噴水ごしにアークを臨む
右頁上：2期工事完了予想模型　右頁中：ラボエントランス
右頁下：DPG工法によるEVシャフト　下：新幹線側よりアークを臨む



'98に３社による設計コンペにおいて入手して以来、足掛け５年にわたり、一体私たちはこの現場に何度足を運んだことであろうか。その度に新たな感動を呼び起こされ続けるという特異なJOBであった。すでに多くのメディアで顕現されている通り、単体の太陽光発電システムとしては世界最大規模を誇る巨大モニュメントは、『SOLAR ARK』と命名された。その長さは315m、高さは37mにも及んでいる。『ARK』とは『箱船』を意味し、＜環境の世紀＞といわれる21世紀に力強く船出し、未来へ向けて環境メッセージを発信していこうというコンセプトである。

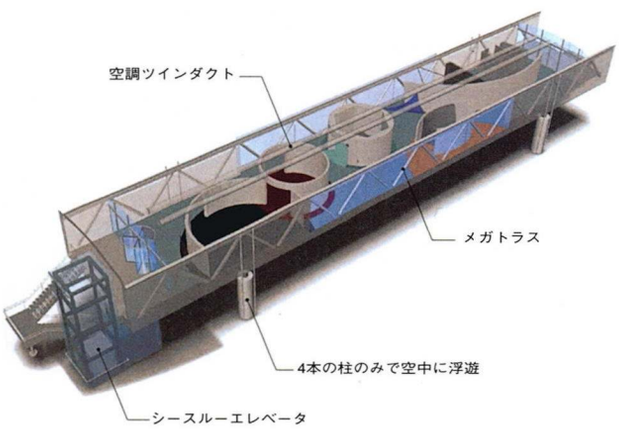
私たちはそれを受けて、この総重量3000㌧もある構造物をたった４本脚のみで空中に浮遊させ、まるで宇宙船の様なイメージを創出することに成功した。結果として両端のキャンチレバーは、95mにも達する浮遊感を実現することとなった。

アークの中央部に抱え込まれる形で『太陽電池科学館ソーラーラボ』がオープンし、次代を担う子供たちにエコロジーの心を育むことが出来る啓蒙の場として、すでに多くの来客を迎えている。

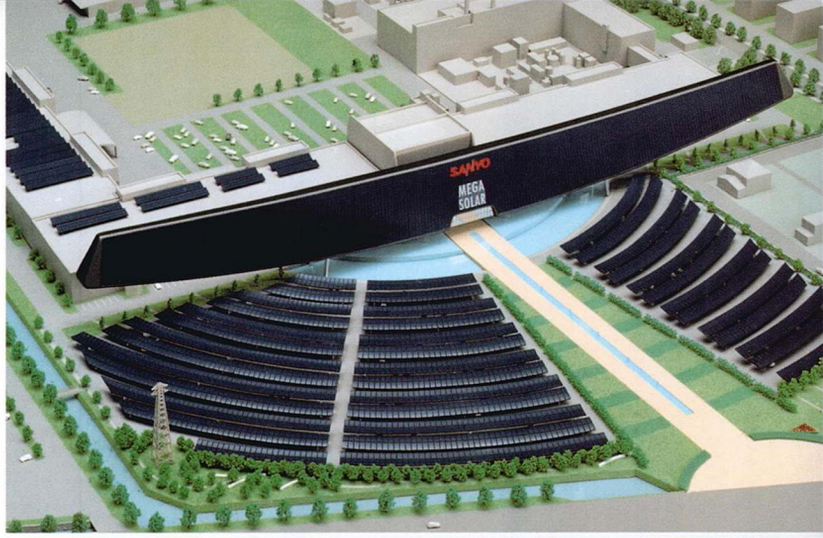
ランドスケープにおいては＜光・水・緑＞をテーマに、総長100mにも及ぶ人工の池・滝・噴水を設け、箱船のコンセプトをより明解化した。また、植栽や歩道を整備することにより『ソーラーアーク』に近づくにつれて、訪れる人たちの気持ちを高揚させる空間デザインとしている。

竣工パーティーでは、三洋電機井植会長より鹿島の技術力に対し、高いご評価を頂いた。今後２期工事として、前面の駐車場の上に波形にソーラーパネルを張り巡らし、波紋のようにアークから広がっていくデザインが計画されており、『ソーラーウェイブ』と名付けられる予定である。

（伊東辰彦、鹿田尚幸／KAJIMA DESIGN NAGOYA）
（野村一雄、吉田謙一／ランドスケープデザイン）



▲ソーラーラボ










MENARD

メナード本社ビル

設計監理　大成建設
施　　工　大成建設名古屋支店

敷地は名古屋市の中心、栄のテレビ塔北、久屋大通り公園の西側に面しており、巾100ｍ以上ある大通りの中央は鬱蒼とした緑の公園であり、市民の憩いの場である。外観は、公園の緑に対比するシンプルなガラスの箱をイメージし、化粧品会社の本社ビルらしい透明感とやわらかさを併せ持つやさしさを表現した。ダブルスキンを採用することで一層コントラストを明瞭にすることが出来た。ミニマルなファサードは、光の変化によりさまざまな表情をみせ、夜にはフロアーの光がダブルスキンの中へ滲み出し、街にやさしいシークエンスを創り出している。

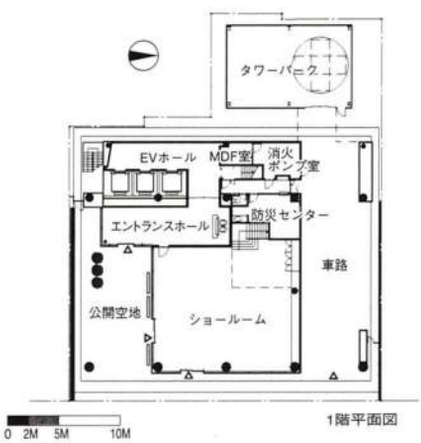
低層部には、ショールーム、美容室、エステをスキップフロアーで構成した。ガラススクリーンを通して公園の緑を取り込み、開放的なリラクゼーション空間としている。また、エントランス空間は公開空地として市民に開放し、公園通りに新しいにぎわいと明るさをもたらしている。

3～13階のオフィスフロアーは1フロアー約480㎡の無柱空間で天井高2850mmのフレキシブルなワークスペースである。西側サイドコアとすることで省エネ効果を高めている。東面をダブルスキンカーテンウォールとして、日射エネルギーの制御と外部騒音に対するバリアーとして機能させた。ガラスに施したストライプのプリントは室内からの視界を保ちつつオフィスのプライバシーをやわらかく保護している。12・13階は小部屋対応を見込んで、3面カーテンウォールとした。14階は中庭のある社員食堂である。社員にも快適なアメニティー空間を提供している。

「美しさにまごころこめて」の企業理念のもと、サスティナブル（長寿命）で安全なビル、環境に配慮した省エネルギー建築を基本とした。

複合免震構造（ハイブリッドTASS構法）や複合構造（梁Ｓ造・柱RC鋼管造）により、耐震・耐火性能を向上させ安全性と機能性を高めている。また、省エネルギーを追求し、ダブルスキンに加え、クールピット、躯体蓄熱、ナイトパージ等を採用している。　（三橋啓史／大成建設設計部）

所 在 地 ―― 名古屋市中区丸の内3-18-15
敷地面積 ――1,008.02㎡
建築面積 ――　803.06㎡
延床面積 ――9,550.31㎡
構造規模 ――S（梁Ｓ造、柱RC鋼管造）、14Ｆ
工　　期 ――2001年6月～2002年7月
最 寄 駅 ――地下鉄桜通線久屋大通駅
撮　　影 ――ナカサアンドパートナーズ
　　KEN青山写真事務所



1階平面図

※1　14階社員食堂
※2　エントランスホール



※1

※2









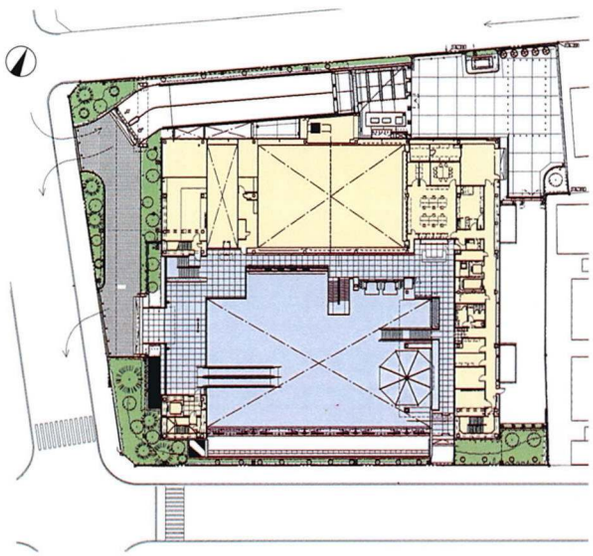

D-Square

設計施工　竹中工務店

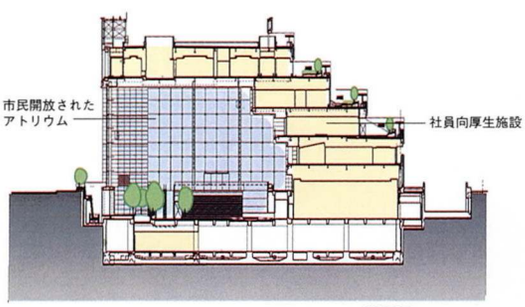
愛知県刈谷市のJR刈谷駅地区にデンソー50周年記念事業として、地域住民に開放されたアトリウムを中心に計画された「社員クラブ」である。
建物はアトリウムに沿うように大ホール・レストラン・バンケットルームなどの厚生施設を階段状に積み上げ構成された。
アトリウムは、「地域住民との交流の場」として、緑豊かで快適な「アトリウムガーデン」を目指した。広さ30ｍ×40ｍ、高さ20ｍの大空間の南西2面をガラススクリーン（Low-Eガラス・DPG構法）とすることにより、屋内環境としながらも視覚的には外部と一体となった空間としている。空間の「しつらえ」は滝・植栽・せせらぎ・池（水盤）・湧水・木製デッキを効果的に配し「自然」を感じることができる潤いのある空間を創出している。上部には、連なる８つの「大空を舞うカイト」のオブジェを配し、風をイメージさせる。内部側壁面にもガラススクリーンを採用することで、レストランの賑わいもアトリウムのしつらえのひとつとなることを意図している。
デンソーをとりまくさまざまな人が集い、憩い、交流する「広場」になるようにと思いを込め、建物は「D-Square」と名づけられた。

（因　純一／竹中工務店）

所 在 地　愛知県刈谷市中山町2-38
敷地面積　4,721.36㎡
建築面積　2,854.86㎡
延床面積　11,169.71㎡
構造規模　B2F、5F、P1F
工　　期　2001年2月～2002年4月
最 寄 駅　JR東海道線刈谷駅
撮　　影　吉村行雄、加藤敏明、車田保



配置図・1階平面図　1：1200



断面図　1：1200






au





オアシス21

設　　計	大林組
監　　理	名古屋市都市整備公社 栄公園振興
施　　工	大林組

所 在 地	愛知県名古屋市東区東桜1丁目
敷地面積	20,390.67㎡
建築面積	10,090.47㎡
延床面積	25,185.71㎡
構造規模	B2F、1F
工　　期	1999年4月～2002年10月
最 寄 駅	地下鉄栄駅
撮　　影	Hideki CASAI.ナカサ&パートナーズ

オアシス21は、なだらかな斜面の地上公園の下に、バスターミナルと地下広場、店舗街を立体的に内包し、地下広場の上部にはシンボルの大屋根「水の宇宙船」を配した複合施設である。建築物は、「水の宇宙船」と主要な動線を除き、その姿のほとんどを地中に隠している。

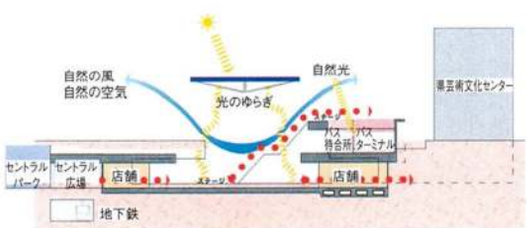
芝生が広がる地上公園は、公園全体を傾斜させることで都市に挿入された絵画のような表情を持たせた。敷地は繁華街にあるため、高木の密度を低めて視線を通すことで防犯性を高め、さらに公開空地として緊急時には避難場所になるよう配慮している。

名古屋市の新しい情報発信地となる地下広場は、既存の地下鉄と接続する半屋外空間の明るい多目的広場である。この地下広場は多層階から観覧できるように計画し、劇場のような大勢の観衆に包まれる都市の劇的空間となっている。

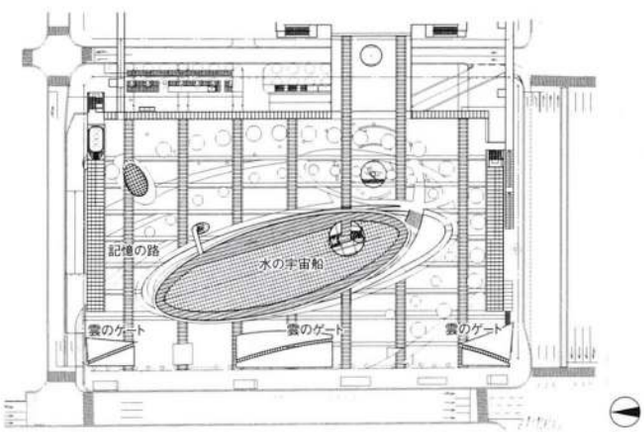
ガラスの空中歩廊と水盤面で構成された「水の宇宙船」は、宇宙に浮遊する生命の水をイメージした。水とガラスを透過した太陽光が地下広場にうつろう光の波紋を無数に描き出し、訪れる人々に、水中にいるような安らぎを与える空間である。「水の宇宙船」外周部の空中歩廊は、敷地内の植栽や、水面下の地下広場、隣接する久屋大通公園の豊かな緑が展望できる。都市に残された貴重な自然を空中から再発見する場となっている。

（葛西秀樹／大林組）





断面図



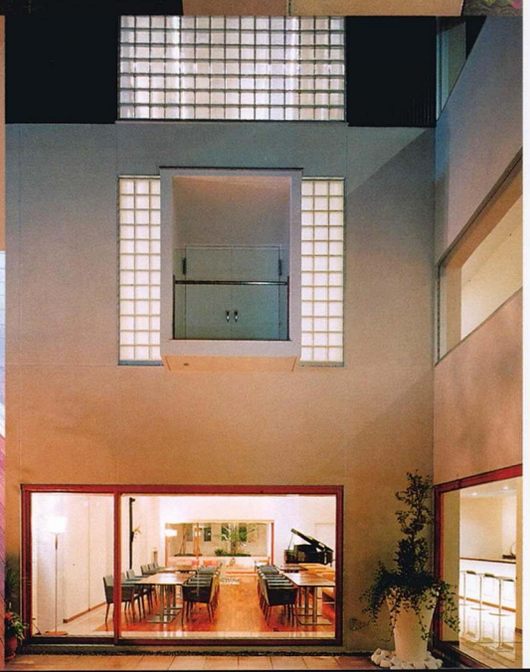
配置図　1：3000











▲団地全景

▼C棟低層部分



愛知県住宅供給公社

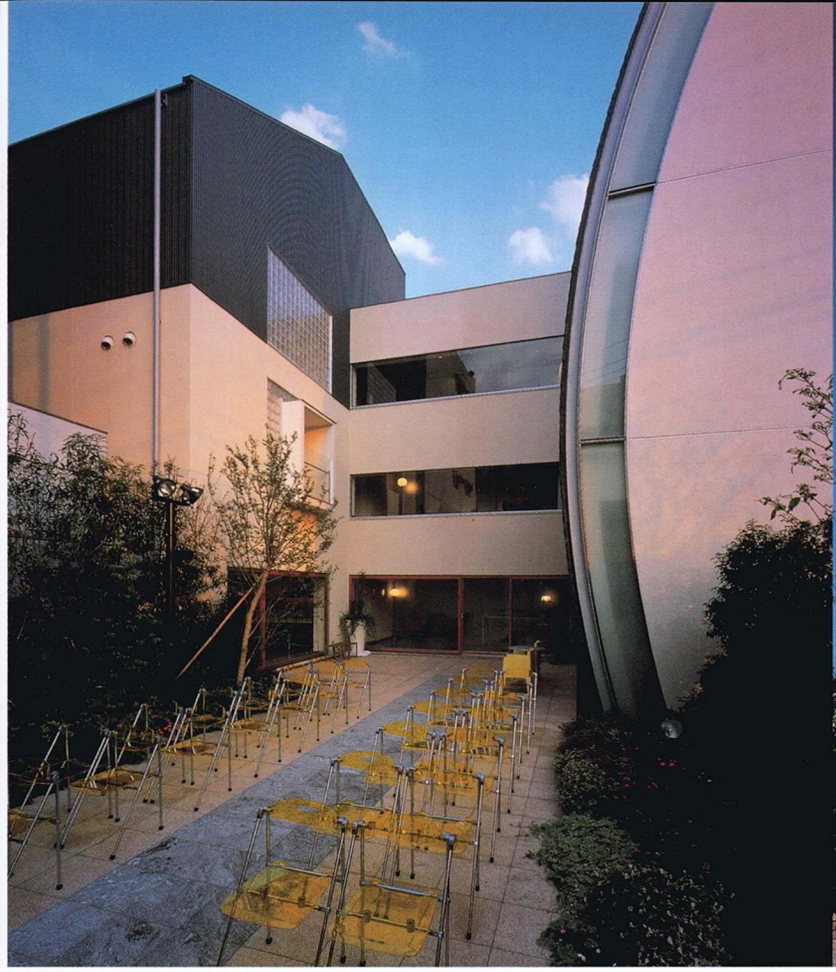
サンコート桃花台

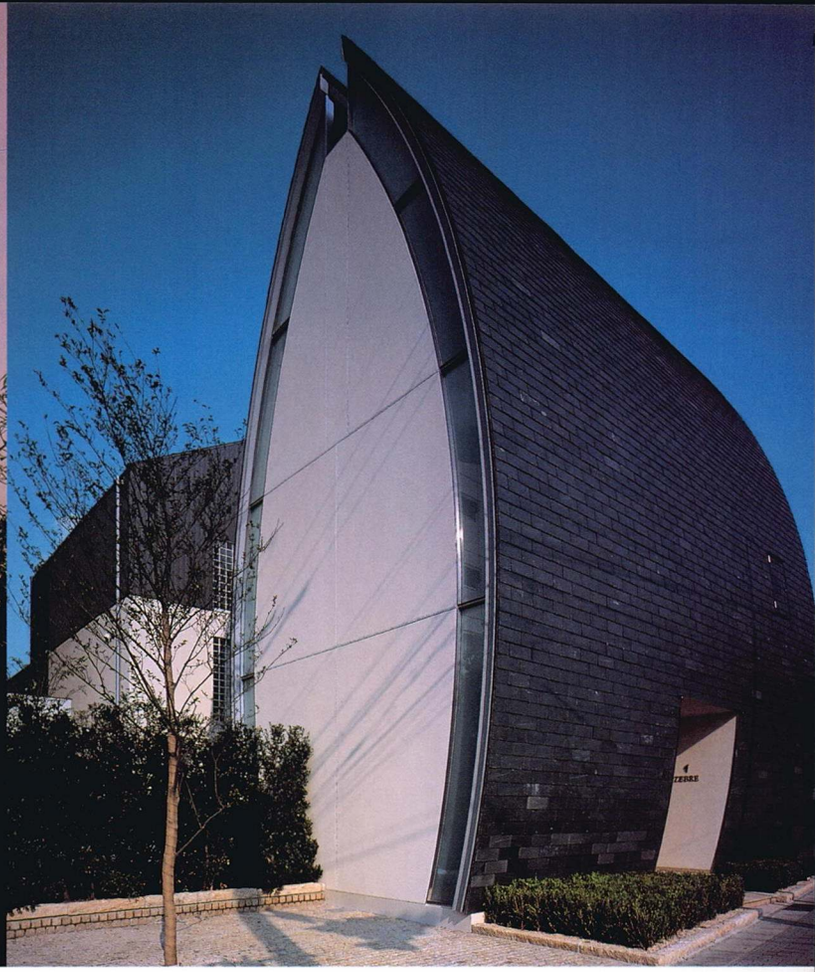
設計施工　竹中工務店

所 在 地　愛知県小牧市城山町3番地・4番地・5番地
敷地面積　15,815.17㎡
建築面積　 3,669.74㎡
延床面積　15,310.11㎡
構造規模　RC、7～8F（住棟4棟）、1F（集会室棟）、P1F
工　　期　1998年1月～2002年2月
最 寄 駅　ピーチライナー桃花台東駅
撮　　影　加藤敏明

▼B棟南側コートヤードと集会室棟







ZEBRE

設計施工　竹中工務店

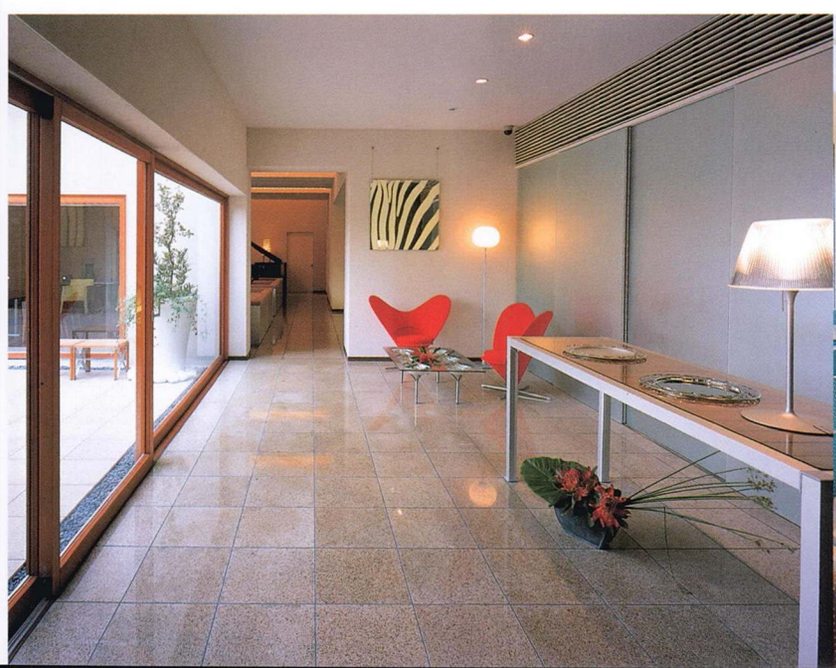
引き算でつくる異空間

名古屋市内、駅前大通りの交差点に向けて、特徴ある湾曲したファサードを見せる結婚式場。仲人なしが90%を占めるなど、セレモニー自体が簡略化している日本の結婚式事情を考慮し、ホスピタリティやオリジナリティあふれる時間を提供するための施設づくりを狙いとしている。建物は、街角の整形とはいえない敷地を活用し、京都の町屋、西欧のパティオのような中庭と光庭を核とする立体的な施設構成で、内部、外部が有機的な繋がりを持ちながら、安らぎと潤いある場を創りだしている。内部は人・花・食・音に満たされてやっと成り立つように器としての存在感がややストイックに加減されており、“余白を活かした絵画あるいは書”のような引き算的な視座で創られた結婚式のための異空間である。　（近藤名保彦、永岡　久／竹中工務店設計部）

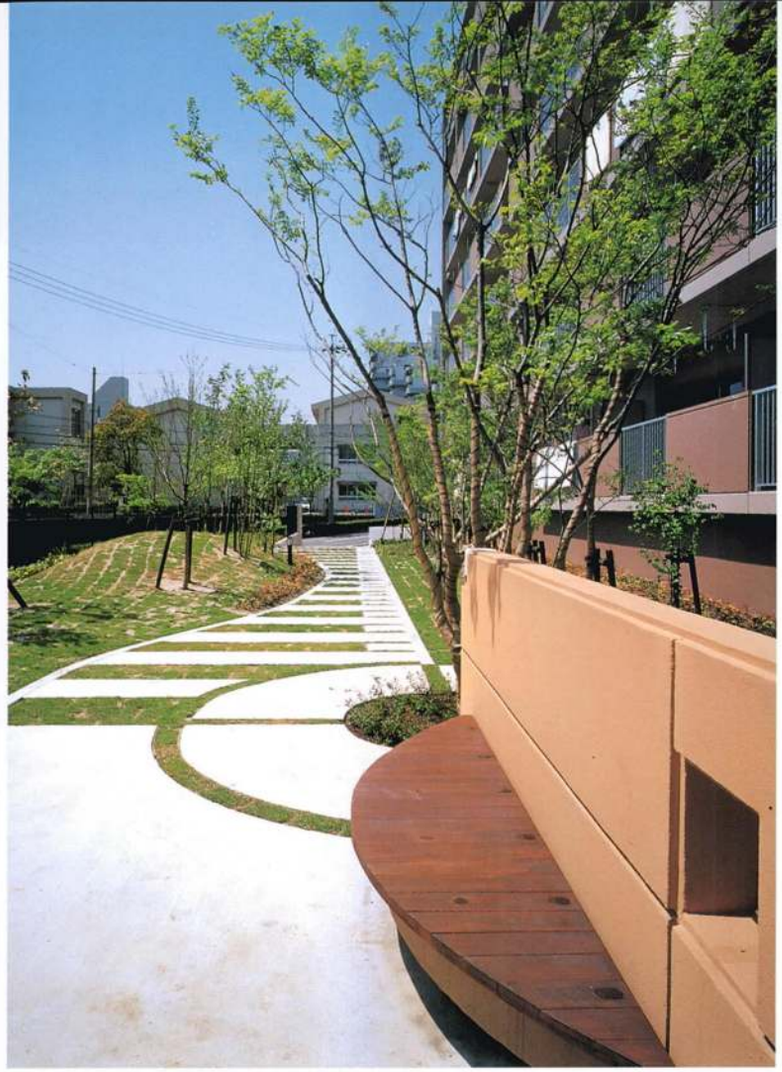
所 在 地　名古屋市西区八筋町276
敷地面積　377.40㎡
建築面積　262.24㎡
延床面積　759.76㎡
構造規模　S、3F
工　　期　2002年2月～2002年8月
最 寄 駅　市営地下鉄上小田井駅
撮　　影　吉村行雄



1階平面図　1：400







▲D棟南側ポケットパーク



▲D棟南側露地空間



▼A棟店舗アプローチ



▲配置図

桃花台ニュータウンの新交通システム・ピーチライナー桃花台東駅前に繋がる緑道を挿む二つの敷地に、店舗併存賃貸住宅１棟（10店舗）、賃貸住宅３棟、および集会室棟によって構成された愛知県住宅供給公社による184戸の賃貸住宅団地である。ここでは「地域に開かれた緑豊かな住環境の創出」をテーマに、ここに住まい訪れる人々が、生活を楽しむことのできる地域の社会ストックとして計画された。

建築の形態は、円形屋根が連続するリズミカルな住棟シルエット、フレームワークによる端整なファサードの構成、住棟ごとに固有で印象的な低層部デザインなどで特徴づけられ、記憶に残る景観の形成をめざした。また敷地の高低差を活かしたランドスケープデザイン、緑道のカーブに呼応した曲面ファサードによる店舗構成、住棟ごとの通り抜け露地空間、屋上テラスのある集会所、多様な遊びを提供する環境遊具のあるコートヤードなど、緑道と一体化した多様で回遊性の高い外部空間の構成により、住民や駅・店舗を利用する近隣の人々が気軽に集う楽しさを育んでいくことを期待している。環境面では落葉樹を主体とした植栽計画、壁面緑化・屋上緑化の導入などを実施し、地域環境の向上をめざした。また、集会室の屋上には太陽光発電パネルを導入し未利用エネルギー活用を図っている。　（樋口　豊・神谷　武・林　昌明／竹中工務店設計部）



千種文化小劇場「ちくさ座」

設　　計　名古屋市住宅都市局営繕部営繕課・
　　伊藤建築設計事務所
施　　工　日東建設
所 在 地　名古屋市千種区千種３丁目604番地・605番地
敷地面積　1,328.91㎡
建築面積　905.55㎡
延床面積　1,521.27㎡
構造規模　RC、一部Ｓ、2F
工　　期　2001年５月～2002年８月
最 寄 駅　地下鉄桜通線吹上駅



日本経済新聞社 名古屋支社

設　　計　日建設計
施　　工　安藤建設
所 在 地　名古屋市中区栄4-16-33
敷地面積　839.49㎡
建築面積　725.47㎡
延床面積　7,188.37㎡
構造規模　Ｓ、一部RC、B2F、10F
工　　期　2001年７月～2002年９月
最 寄 駅　地下鉄名城線矢場町駅



あいち小児保健医療総合センター

設　　計　愛知県建設部公共建築課、安井建築設計事務所
施　　工　建築工事（第1期）佐藤・辻・七番特定建設工事共同企業体
　　（第2期）佐藤・七番特定建設工事共同企業体
所 在 地　愛知県大府市森岡町
敷地面積　70,467㎡
建築面積　6,675.48㎡
延床面積　19,899.75㎡
構造規模　SRC、B1F、3F（200床）
工　　期　1999年12月～2001年７月（建設工事第１期）
　　2001年12月～2003年１月（建設工事第２期）
最 寄 駅　JR東海道本線大府駅



美杉南小学校統合校舎

設　　計　篠田川口建築事務所
施　　工　校　舎：熊谷・鈴木・八州竹田特定建設企業体
　　体育館：三菱・日本土建・勢和特定建設企業体
所 在 地　三重県一志郡美杉村奥津
敷地面積　6,000㎡
建築面積　3,274.40㎡
延床面積　3,563.85㎡
構造規模　W、2F、一部RC
工　　期　1998年12月～1999年12月
最 寄 駅　名松線いせおきつ



筒井分譲

設　　計　ウッドフレンズ設計室
施　　工　ウッドフレンズ
所 在 地　名古屋市東区筒井３丁目308-1他
敷地面積　122.03～122.04㎡
建築面積　60.11～ 60.33㎡
延床面積　137.33～146.92㎡
構造規模　W、3F（準耐火）
工　　期　2002年10月～2003年１月
最 寄 駅　地下鉄桜通線連道駅

特集　愛知・名古屋―この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える

愛知・名古屋は、徳川美術館に代表される如く、日本の伝統文化集積の一翼を担う地であり、また古くから“芸どころ　名古屋”とも言われてきました。それは、この地の人々が歴史や伝統への誇りをもち、芸に対する素養を磨き上げてきたこととともいえます。

一方、“白いまち”とか“文化不毛の地”とも言われたこともあります。伝統や因習を重んじた静かな文化圏にあっては、進取の気性が育む事を遠ざけ、避けてきたとも言えます。

しかし、この地の堅実な実利的で粘り強い気質は、工業生産高日本１位とか、輸出出荷量日本１位といった実績につながっています。街づくりや施設づくりにおいても、良いものを粘り強く造り上げるそうした気概や賢さがどう反映されるか興味深いところです。

愛知・名古屋もデザイン博の開催を契機に、文化・デザイン都市を目指し、各種の試みや施設づくりが行われ、新たな動きも生まれてきたかにみえます。何かと話題を呼びました、2005年の万博開催に向けた開発工事も、形を伴って進展し始めています。そこで、そうした施設づくりが、この地の新たな文化形成、地域への起爆剤となり得るか……に目を向けてみました。

（なお、2005年愛知万博につきましては、次年度に特集する予定でおります。）

この特集記事には、ご多忙中にもかかわらず御執筆を頂きました皆様を始め、多くの方々のご支援ご協力を頂きました。深く感謝致します。　（東海支部特別編集委員会）

【総論】
愛知・名古屋の芸術・文化をめぐって
馬場駿吉

【企業としての文化活動】
ＩＮＡＸ文化スクエア
宮地　究

国際デザインセンター
木村一男

【名古屋の街・街づくりと住民活動】
広小路物語　都市再生を目指して
井上昭彦

名古屋の歴史的建築
溝口正人

【座談会】
支部会員が語る「愛知・名古屋の街・建築」
「愛知まちなみ建築賞1993～2002」にみる
愛知・名古屋の文化施設

【施設づくりと地域文化の広がり】
新しい街並みの創出
福田一豊

都市の中の美術館
山脇佐江子

長久手町文化の家
川上　實

岡崎市シビックコア地区整備計画
大賀治義

文化の新しい発信地
須藤角男

愛知·名古屋の芸術·文化をめぐって

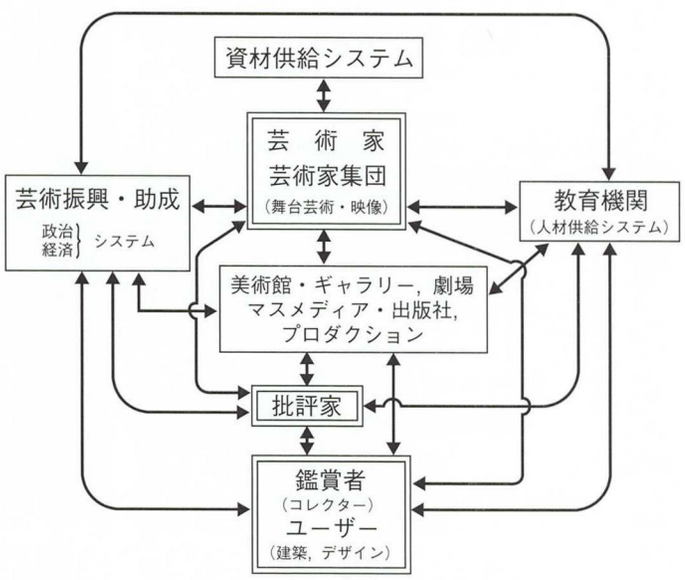
―その現状と問題点―

馬場駿吉

生まれてこの方、居住地を数カ所変えたものの、結局は名古屋を中心とする愛知県内に活動基盤の主体を置いてきた者にとって、この地域の芸術・文化の諸相を論じることは、家庭内の私事を述べるのと似た状況に陥りやすいのではないのだろうか。そんな気持ちに身をすくめながらも、当地の現実を可能な限り相対化しつつ、与えられた主題について筆をすすめることにしたい。

芸術創造をめぐる社会システムとは

一地域の芸術創造の状況を計測する、という作業に従事するとなれば、どのような事項と指標を設定して分析し、それらを総合すればよいのか、ということがまず問われるだろう。そこでまず、芸術各分野に出来るだけ共通する社会システムの相関図を私見として描いてみた。この図のように、様々な要素が想定されるが、その基本は芸術創造の根源である作家とその受け手である鑑賞者の関係に帰結することは言うまでもなかろう。芸術作品は鑑賞者（他者）によって認知され、何らかの感銘を与えて初めて成り立つものであり、また鑑賞者も芸術作品が提示される事によって初めてそれへの反応者としての存在を自覚することになるからである。しかし、本来はここにもう一つ第三者的視点に立つ優れた芸術批評家の存在が重要であることを忘れてはならない。批評家は、芸術家の活動と作品を見届けることにおいて鑑賞者と共通した存在であるが、客観的な立場から、評価、批判と位置付けをして芸術家、鑑賞者双方の活性化に資するメッセージを届ける役割を担う。さらに周辺システムにも常に鋭敏な視線を送りその問題点を指摘し、質的向上を促す見者でもあるべきなのだ。さらにその三者の好ましい緊張関係を支える基盤として、図にも示したような様々なバックアップ機構の整備が必要となろう。



芸術をめぐる社会システム相関図

そこで、まずは、そうした周辺システムの現状と問題点から検証に入ってゆきたい。

芸術・文化をめぐる各種システムの現状

芸術と出会う場の周辺

美術館・ギャラリー

愛知県内の美術館と呼称する施設は、「美術手帖」増刊の「年鑑2003」によると12館が掲載されており、美術鑑賞者には恵まれた環境にあると言える。このうち公立の愛知県美術館、名古屋市美術館、豊田市美術館が企画展、収蔵作品常設展でもリーダー的な位置にあって、厳しさを増す予算削減の中にあっても、今のところ全国的にも話題となる高い水準を維持した展観を開催し続けている。なお、公的な貸ギャラリーも愛知芸術文化センター内および名古屋市民ギャラリー栄と矢田の３ヶ所があって、団体展、グループ展などに利用されている。

他方、民間の美術館ではヒマラヤ美術館のような経済破綻が伝えられたものや、名古屋ボストン美術館の財政難による学芸部の廃止など、信じ難いニュースを耳にすると、各美術館ともその運営には厳しいものがあるのだろう。公立美術館でも近年、親しみやすい雰囲気づくりに力を注ぐなど、来館者増につながる努力がなされてきていて、それも大切なのだが、一方では啓蒙的な意味を持つ良質な企画展も重要であることを設置者が理解していることが望ましい。

それでは、美術と鑑賞者のもう一つの仲介者である街の画廊の状況は今どうなのだろうか。こちらは今の長引く経済不況が、さらに直撃する業界であるだけに、それぞれの画廊は経営に悩みを深くしているのではないかと想像される。1980年代に活気を呈した名古屋の現代美術を扱う画廊も、画廊主の逝去や引退、あるいは本拠の海外への移転などで閉店が相次いで退潮的な印象は拭えない。それでも若手の作家を育ててゆこうという意志を持続させている慧眼の画廊主が名古屋市内にも10人近くは存在することを思うと、ふと心がなごむ。このような時代だからこそ意欲を持った若く新しいギャラリスト（画商）の出現が望まれる。

劇場、コンサートホール

まず、1992年開設された愛知芸術文化センター（以下、芸文センターと略記）から見てみよう。オペラ公演にも対応できる最新の舞台転換装置を備えた大ホール、音響効果のよいコンサートホール、実験的な演劇公演などに適した小ホール、映像作品上映にも対応できるアートスペースなど各種芸術劇場を持ち、さらに美術館や展示ギャラリーを併設する巨大な複合芸術文化施設である。名古屋の中心、栄地区という絶好の立地条件にも恵まれ、この10年間多くの県民に芸術との出会いの場を提供してきた意義の大きさは素直に認めるべきであろう。ただし、芸術監督を置くことなく来たこともあって、大ホールやコンサートホールの公演には一貫したコンセプトによるプログラミングが見られず、成り行き任せの貸し館的な状況が続いていることなどの問題点が指摘される。なお、併設されている愛知県文化情報センターは、専任学芸員の努力もあって、開設以来、「身体」をテーマにダンス、映像のオリジナル・プロデュース企画事業が続けられており、その先進的な試みと成果が全国から注目されて来ていることも高く評価しておきたい。芸文センターもこの文化情報センターの機能をリストラするようなことがあれば、大損失になることを肝に銘ずべきだろう。

この他、名古屋市内には市民会館、市公会堂、市芸術創造センター、青少年文化センター、名古屋国際会議場などのホールをはじめ、名古屋能楽堂やすでに13館に達した各区の文化小劇場などの公的施設があり、いささか過剰気味。これらの有効利用と運営が今後の課題となってきた。名古屋近郊地域をみても、長久手町文化の家、知立市文化会館、扶桑文化会館などの公的施設がそれぞれ独自の活動を目指してはいるものの、なかなか思い通りにはゆかないのが実状のようだ。

眼を民間の劇場に転じるに当たって、まず注目すべきはこの地方の小劇場運動の拠点として創立30周年を迎えた七つ寺共同スタジオ（名古屋・大須）の存在。息の詰まりそうな狭い客席に２時間ほど閉じこめられる苦痛をすぐ忘れて足を運んでしまう誘引力は一体何によるものだろうか。多分それは、少々稚拙であろうとも未開なものへ向かおうとするエネルギーに触れる楽しみを与えてくれそうだ、と思えるからなのだろう。このような小劇場の対極にあるのが御園座、中日劇場、名鉄ホール、新名古屋ミュージカル劇場（劇団四季）という商業演劇の専用大劇場であり、このうち劇団四季ミュージカルの集客力は、他の３座の脅威とさえなりつつある。このほか愛知厚生年金会館ホール、愛知県勤労会館、テレピアホールなどでも東西から来演する劇団の公演がしばしば行われる。

コンサートでは、大編成のオーケストラとなると芸文センター・コンサートホールか市民会館大ホールが主要な会場となるが、しらかわホール、電気文化会館ザ・コンサートホール、スタジオ・ルンデなどでは良質なリサイタルや室内楽の演奏会を多く提供してくれている。なお、芸文センター小ホール以外では、実験的な現代音楽を聴く機会に乏しいのが残念。

以上に述べたように、劇場、コンサートホールの数から言えば充足状態にあるものの、各施設の特徴を生かした運用、オリジナル作品発信力の向上には、一層の努力が必要ではなかろうか。なお、映画関係では商業ベースに乗りにくい優れた映画の上映を続ける名古屋シネマテーク、シネマスコーレ、今後映画館に転向する名演小劇場の活動が期待される。また、愛知県文化情報センターも実験的作品の創作、上映に力を注ぎ、国際短編映画祭グランプリ受賞作品を生み出したことを特記しておきたい。

マスメディア、出版社、プロダクション

地域の新聞、放送などのマスメディアや出版社が、どれだけ芸術創造活動に関心を示し、それを支援するかも重要なポイントの一つではないだろうか。芸術活動の優れた成果を広く知らせたり、時には発表の場を与えることもあり得よう。また、文化事業として各種公演、美術展の開催なども企画される。従って新聞社では、各社とも文化部、学芸部に専門の記者を配し、あるいは外部に執筆者を依頼して、プレビュー記事や批評を掲載しているのだが、最近は専門記者が転勤や退職によって欠員が生じても補充しない社があったりで、経済の悪化の影響が新聞の文化・学芸欄にも見られるのは少々淋しい。テレビ局では、ドラマや芸術文化関係のドキュメンタリー番組を地元で制作する頻度が低くなる傾向が見られ、また文化事業部門を解散した局もあるなど、やはり状況は厳しく元気のなさが目立つ。

出版社も全国的に今、厳冬の時代に入っているが、その中で小出版ながら現在も良書の刊行に力を尽くしている風媒社（名古屋）の存在は貴重だと言える。かつて歴史小説などを中心にした雑誌を刊行した出版社に志の高さを感じたが、結局経営不振の渦に呑み込まれてしまったのは残念だった。他にも二三の出版社があるが、誤植の多さや本造りのセンスのなさを目にすると失望せざるを得ない。

劇場の増加に伴い、舞台やイベントの制作に関わるノウ・ハウ，人材、器材（照明、音響、舞台美術）などの調達と運用を担当するプロダクション（制作会社あるいはタレント事務所）も次第に力をつけてきており、また宣伝・広報、経理など公演周辺の運営と事務

を担当するアートマネージメント会社も機能し始めているが、今後、文化助成の複雑な手続きを担当することなど、一層高次なスペシャリストの育成と活躍が望まれよう。ともかく、芸術と出会う場自体の質的向上は今後ますます重要性を増すはずである。

芸術作品制作に直接必要な資材の供給システム

美術・工芸にあっては、素材を入手しやすい地場的な条件が制作活動と密接につながっていることが多い。瀬戸一帯の良質な陶土産出と陶芸、小原村の和紙の生産とその工芸との関係などは、当地域を代表する好例であって、芸術と地域性あるいは場を考える上で大変興味深い一面であると言える。一方、現代美術の様態の拡大は、素材の面でも多様化し金属、ガラス、化学合成物、繊維類などの入手と加工が容易になし得る環境が望ましいと考える作家もふえつつある。建築家にとってもこのような事情は同じではないだろうか。当地域は幸いにして工業生産が盛んで、そのような芸術家の要請にも応えやすい状況にあると言ってもいいだろう。

教育機関の役割

愛知県内の芸術系大学には、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形芸術大学があり、前2者には美術学部と音楽学部がある。また音楽の単科大学として名古屋音楽大学がある。このほか美術あるいはデザイン学科を持つ大学は、愛知教育大学、名古屋市立大学、名古屋学芸大学、愛知産業大学などがあり、建築学科を持つ主な大学は名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、愛知工業大学、名城大学、中部大学、大同工業大学などだろう。名古屋大学には、また美学や美術史の学科が設置されている。この他、私大、短大、専門学校で美術やデザインに関連する学科をもつものが10校余りにものぼる。これだけ多くの教育機関から毎年巣立つ卒業生の行方はどうなのだろうか。このうち生涯を芸術家プロパーとして過ごす人は限られた数になるとも伝聞する。とはいえ、当地の芸術系大学を出て国内外の大きな舞台で美術家あるいは音楽家として活躍する人たちも次第に増加傾向にあることは芸術系教育の視野がひろがったことが一役買っているのにちがいないのだ。たとえ芸術家にならなくとも、洗練されたセンスを持って、最初に提示した図のような芸術周辺の各所に定着し、芸術文化の振興を働きかける職種についてもらえば、この地域の文化の重層化に必ず役立ってくれるはず。高い見識をもつ鑑賞者や斬新なデザインを好むユーザーをふやすことにもつながるにちがいない。また一方、これだけの教育機関があれば、それぞれに様々な芸術的才能を持った人たちが教職員としてこの地域に蓄積されることになる、という利点がある。なお、これだけ多くの芸術系高等教育機関があるにもかかわらず、演劇やダンス関係の専門教育を担当する学科を置く大学がないのは不思議な現象だと言わざるを得ない。

社会の政治・経済と芸術の振興・助成

一昨年（2001年）、文化芸術振興基本法が施行され、「国民がその居住する地域にかかわらず等しく文化芸術を鑑賞し、これに参加し、またはこれを創造することが出来るような環境の整備が図られなければならない」という基本理念が述べられている。国はこの理念を実現させるために、芸術活動に対し個人あるいは企業の寄附がしやすくなるような税制上の措置を講じるなどとしているが、いつのことなのか。国および各地方自治体の財政状況は深刻で、愛知県、名古屋市ともに新年度文化関係予算は、一律削減の方向にある。愛知県、名古屋市それぞれの文化振興事業団（財団法人）も財務は苦しい。今後当面は、民間企業のメセナ活動や有志のボランティア活動などを活用しながらもこの苦しい時期を乗り越える努力をする以外には手がなかろう。

批評家、鑑賞者、芸術家

批評の現況と今後

この地域においても近年、批評、評論の不在あるいは衰弱を語られることが多かった。しかし、これは当地域に限らず、全国的かつ芸術全領域に共通の現象だと言ってよい。その責任は当然、まずこれまで批評家あるいは評論家を名乗っていながら常套的なヴォキャブラリーで緊張感のない文章を書き流す人たちがまず負うべきであろう。ただし、それを傍観しながら嘆くだけでは問題は解決に向かわない。気がつけば、筆者の身辺にも芸術批評の重要性を認識しかつ執筆能力を持ちつつ、書く場がないことに苛立ちを感じているライターたちが何人もいるではないか。そうした同志を糾合して昨年夏から始まった季刊芸術批評誌刊行の計画は急速に進み、誌名も“REAR”（リア＝後衛する、育てるという意味をもつ動詞）と決め、昨年10月創刊準備号、本年1月25日創刊号を出すことが出来た。編集同人は大学の美術系教職員、新聞記者が中心だが、執筆者には美術評論家、美術館や芸術ホールの学芸員、演劇評論家、音楽評論家など芸術各領域の気鋭の顔ぶれが揃い、好評裡に迎えられた。今後もこの地域の芸術創造活動の刺激剤的役割を果たしてゆきたい。

鑑賞者、ユーザーの動向

最近、美術館、劇場なども自己評価、外部評価にも入場者数や入場料収入などの経済原理を重視した尺度が用いられる傾向が強い。

そのような論理が常に優先されるようになると、展覧会や舞台の一般受けする分かりやすさだけが尊ばれて、先駆的なもの、見た瞬間に少々難解さのつきまとうものは、良質な作品であってもそれだけで排除されてしまうことになる。作品を観せる側も鑑賞者個人の感受性の自由を保障しつつ、作品にこめたメッセージを読みとってもらうための最小限のヒントを提供する場合があってもよい。観る側（鑑賞者）も想像力を働かせて、自分なりの新しい感じ方をさがす努力をすることによって耳目を成熟させてゆくことが必要だ。最近、美術館で熱心に常設展の解説に当たっているボランティアの中にはそうした慧眼を獲得した人がいてハッとさせられることがある。

そうした関係を建築やデザインをまとった製品に引き据えて考えてみよう。この場合、単なる鑑賞者ではなくてわれわれは使う側（ユーザー）に立つ。使う側に立ちながら実は使われる側に立たせているのかも知れない。優れたデザインとは、無意識のうちにユーザーを懐の中に呑み込んでしまうほどの力を持つものらしい。筆者の親友の一人、荒川修作（ニューヨーク在住）は近年、単なる美術家というよりは建築家的な仕事に転換し、しばしば「建築的身体」という独自の言葉を愛用する。従来の美術は、視覚という限定的な感覚に訴えかけるものに過ぎず、全身的な感覚を総合的に揺さぶる創作活動は建築的な空間の創出によって初めて成し遂げることが出来る、という考え方である。身体が建築された環境に包み込まれることによって、新しい身体のあり方を知覚し獲得してゆく。それを体験する身体を荒川は「建築的身体」と呼んでいる。すなわち、荒川は建築の機能とデザインが、従来のあり来たりの持ちつ持たれつの状態ではなく、もう一歩踏み込んで身体感覚への総合的な刺激によって生命観そのものを変革する建築デザインの必要性を強く主張しているのだ。このような荒川の新しい提案を積極的に受け入れるだけの度量が今の地方自治体には望めないのだろうか。

芸術家あるいは芸術集団と地域性

この地域の芸術・文化をめぐる周辺の問題を眺めて来て、やっと双六道中の＜上り＞にたどりついた思いで、最後に芸術家あるいは芸術家集団と地域性についての問題を考察してみたい。

1950年代末から1960年代初頭に愛知県あるいは名古屋を脱出し、東京、さらにニューヨークへと渡った美術家には桑山忠明、荒川修作、河原温がある。いずれも筆者と同世代者であり、戦後の現代美術を代表する作家たちである。当時20歳代後半を過ごしていた者にとって名古屋は、文化不毛の地という自嘲的な見方が強い時代だったように思う。国際的な活動の足場として、名古屋より東京、東京よりニューヨークの方が至便性に優れ、周辺の刺激的な環境も格段に魅力的だったに違いない。東海道新幹線、インターネットの発達などは東京との距離を縮め、国際間の情報交換にも東京との格差は消えた。前述の“REAR”が創刊号で行った地域性についてのアンケートでも、従来のような東京やニューヨークへのコンプレックスはほとんど消え去ったように見える。作家たちも東京の批評誌がカバーしきれない地域の芸術活動の様相が見届けられ、記録されるようなメディアがあれば、作品はどこで制作、発表してもかまわない、とはっきり言い切っている作家が多かったことが特に印象的だった。

芸術家集団とここで言うのは、団体展や芸術文化協会のような二次的なものではなく、舞台を成り立たせるための必須の集合体、つまり劇団、舞踊団、オーケストラなどを指す。小劇場演劇の世界では、全国的に名の知れた北村想、天野天街、はせひろいちなどの活躍が今、ややスローペースに入ったことが少々気になるところだ。数多くあるバレエ団のレベルは、一般に高く全幕物の定期公演も珍しくないが、男性ダンサーが少なく、しばしばロシアのバレエ団からの助っ人に頼ることになる。名フィル、セントラル愛知の地元オーケストラもレベルを上げて来ている。このように東京以外の都市に比べて遜色ない状況なのだが、アッといわせるところがどこかにほしいというのは欲張りなのだろうか。

むすび

以上、愛知県、名古屋市の芸術・文化状況を概観してきたが、そのインフラ的なものはかなり整備され、芸術家の定着も今後一層進むことが予感される材料は豊富だ。

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の愛知から出た三英傑はすべて棄郷して天下人となった。桑山忠明、荒川修作、河原温のニューヨーク三人男もやはり棄郷者だ。芸術家たちにとって愛知県、名古屋市の環境がよくなり、交通、通信の発達が更に進むと、地域充足型の思考モードに入り、芸術家たちの周辺からも棄郷捨て身のライフスタイルは消え去るのかも知れない。

桑山忠明の画面から夾雑物を一切除いた作品も、荒川修作の宿命の切断と反転思考も、河原温の日付だけの画面も、思い切りのいい断念の切り口がいさぎよい。この地域のこれからの芸術家たちは身辺から何を棄却して立ち上るのだろうか。

（ばば　しゅんきち／名古屋市立大学名誉教授
美術・演劇・舞踊評論家）

［企業としての文化活動］

INAX文化スクエア

宮地　究

はじめに

日本六古窯の一つである常滑市は、平安時代末期からやきものづくりが盛んになりました。これは知多半島の粘土資源や燃料が豊富だったことから発達したといわれています。鎌倉時代初期までは宗教儀式の壷をつくり、それ以後は甕、壷、鉢などの生産が主体となりました。また、陶製便器の生産も江戸時代（安政年間）から始まり、明治時代になって朱泥の急須や土管・テラコッタ（建築装飾陶器）・タイルなどの建築陶器の生産が加わりました。

INAXの文化活動

その常滑におけるINAXは、1924年に伊奈製陶として創設され、1985年のCI導入により社名を「INAX」と改めました。INAXは文化度の高い企業活動を目指し、文化的・社会的な充実を図ることが社会貢献としても重要な課題と位置付けています。その活動の基本となるものを、独自に（D）・独創的に（D）・継続する（K）の頭文字を並べた「2DKの文化活動」と呼んでいます。2DKはこじんまりとしたイメージもあり、住宅関連企業であるINAXには相応しいフレーズとして使用しています。

窯のある広場・資料館

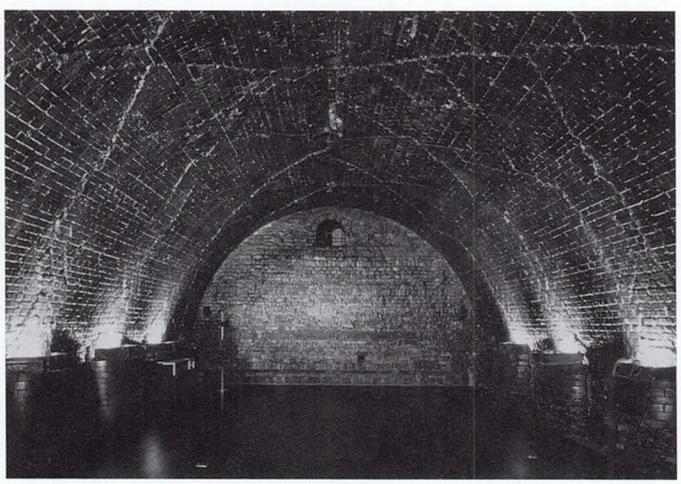
INAXのタイル発祥地の隣接地に、1971年まで土管を焼いていた窯が残されていました。高いれんが積みの煙突がそびえ、窯を抱くその木造の建物とその周辺を1986年に「窯のある広場」と名づけ、やきものの街・常滑の古き良き時代を偲ばせる空間をつくりました。そして、この建物を「窯のある広場・資料館」と命名しました。ここに残された窯と建物は往時のたたずまいを残す数少ないものとして、1997年に登録有形文化財に指定されました。現在、この資料館では、1階に明治・大正・昭和の洋風建築の外観を壮麗に飾ってきたテラコッタ、2階には明治から昭和初期にかけてつくらた陶磁製便器を収集・展示しています。

とこなめトイレパーク

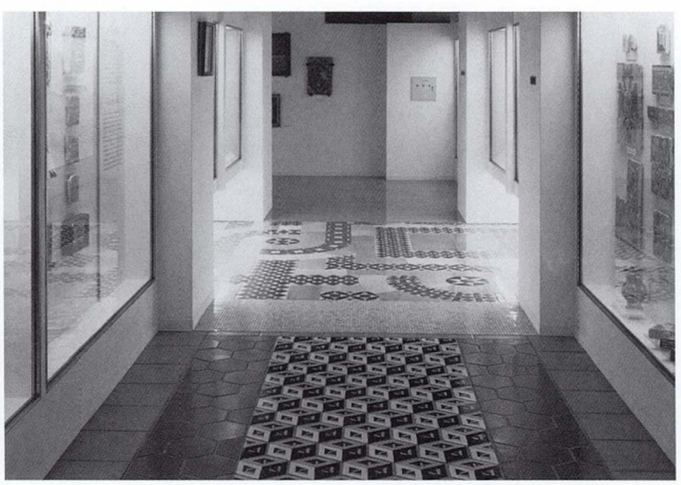
1988年、この広場の隣接地に、公衆トイレとそれを取り巻く環境を公園という形にまとめた「とこなめトイレパーク」をやきものの街・常滑の水と緑の自然に触れ合う憩いの場として一般公開しました。これは、従来の公衆トイレが衛生的・美的・機能的なものではなかったことから、街づくりの一環として、清潔で使いやすく、愛される街のトイレとして提案したものです。トイレパークは、常滑の代表的なやきものである土管の電纜管などの素材を使ってペイブメントやトイレブースの各所に配置し、やきものの持つ柔らかな質感と豊かな水と緑の調和をめざしたものです。

世界のタイル博物館

「世界のタイル博物館」は、1991年にタイル研究家・故山本正之氏から常滑市へ約6千点のタイルが寄贈されたことから始まりました。INAXは常滑市からその管理・研究と一般公開の委託を受け、「窯のある広場・資料館」や「トイレパーク」のある文化スクエアの中核として1997年4月に「世界のタイル博物館」を開館しました。ここでは、山本氏が50年余りにわたり世界各地を訪れて収集したタ



窯内部



展示コーナー（2F）

イルを中心に展示公開し、来場者が見て・学んで・発見する日本で初めての研究博物館です。この博物館が、土や釉薬の美しさ、さまざまなデザインや技術などタイルのすべての情報発信基地となり、タイル研究の発展に寄与できればと考えています。

館内の企画展示室では、収蔵品企画展（毎年11月～翌年１月）と新しい感覚で意欲的に制作を続ける陶芸作家による個展「やきもの新感覚シリーズ」を月例で開催しています。博物館にはカフェ・ミュージアムショップも併設されています。また、博物館エントランスや窯の中では年に数回コンサートが開催され、演奏者の音響に対する評価も高く、毎年定期開催される方もいらっしゃいます。

これらの施設に加え、1999年にやきものを楽しむ遊び場として「陶楽工房（とうがくこうぼう）」をスクエア内に開設しました。

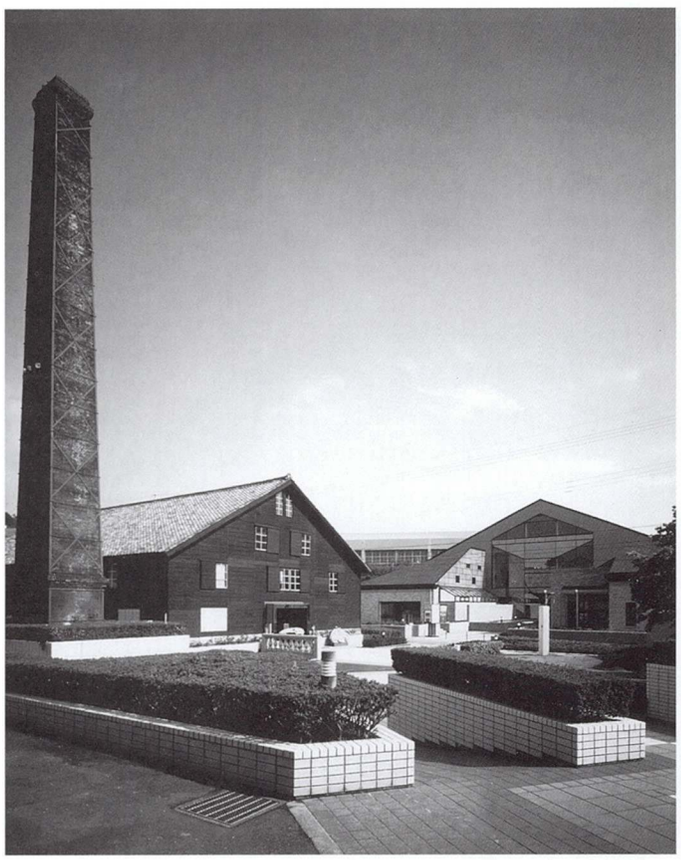
この文化スクエアは、平成９年度「愛知まちなみ建築賞」、「第17回公共の色彩賞－環境色彩10選」に選ばれ、2001年にはメセナ大賞「企業文化賞」を受賞（「世界のタイル博物館」等の運営ならびに陶芸作家への支援）しました。

今後の展開

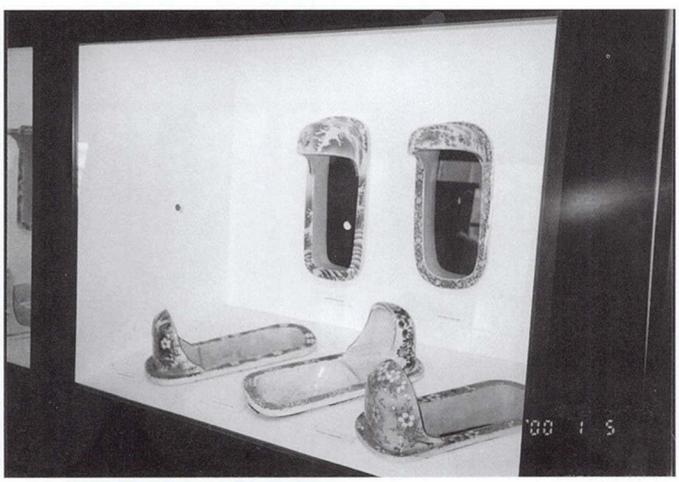
中部国際空港開港も間近に迫ってきています。空港を利用する人・関連する人、新たな客層が何度も訪れたくなるような常滑の街、知多半島にしていきたいと願っています。

今後も「２DKの文化活動」を基本として、「滞在型知見体験」できる施設、やきもの文化の発信基地として更に充実させていく計画です。

（みやち　きわむ／世界のタイル博物館館長）



全景



古便器（２Ｆ）



テラコッタ（１Ｆ）

［企業としての文化活動］

国際デザインセンター

木村一男

昨年（2002年）11月15日で、国際デザインセンターは開館6周年を迎えた。6年前この国際デザインセンターのあるナディア・パークを訪れる人びとの長い列が、前の矢場公園に延々とつづいていた光景が今さらのように思い出される。それ以来、国際デザインセンターは日本ばかりか世界中から注目を集め、その活動も高く評価されている。

なかでも韓国からは開館当日に通産資源省のスタッフの視察を皮切りに6度にわたる調査団が訪れ、ついに2001年秋にはソウル市に隣接する城南市に国際デザインセンターを上廻る規模の韓国デザインセンターをオープンさせた。城南市自身もデザイン都市宣言をおこない、施策にデザインを積極的に活かそうとしている。IDの国際組織ICSIDにも行政機関として世界ではじめて加盟するという力の入れようである。訪れると8階まで大きく吹きぬけるアトリウムが拡がり、そこをシースルーのエレベーターが上下していて、国際デザインセンターと似たイメージが感じられる。

名古屋の国際デザインセンターが、開館を機に国際コンペとしてはじめたデザインコンペ「名古屋デザインDo！」は3回目となり62カ国から1754点の作品が寄せられ、すでに世界有数のコンペに育ってきている。コンペ入賞者と日本の若手デザイナーや学生たちとのワークショップは、このコンペの特筆すべきポイントだが、その有意性が認められて一昨年のGマークの新領域部門で選ばれた。今回もサンフランシスコのグラフィックデザイナー、マーチン・ヴェネッキー氏をリーダーとして行われた。

4階のデザインギャラリーではほぼ毎週デザイン各分野の展示会、発表会が行われているから、開館からすでに300近くの催しが開催されてきたことになる。コレクションタワーがユニークなデザインミュージアムでは、デザインギャラリーと結んでの企画展が増えてきている。また国際デザインセンターがプロデューサーとなってまとめられたプロジェクトも多い。都心ループバスの塗色（最近ラッピングバスとなってわからなくなってしまったが）、中部国際空港セントレアのマークやロゴタイプ、栄地下街のリニューアルなどはその一例である。

このように国際デザインセンターを拠点として展開されている多くの活動が、名古屋地域のデザイン活動を活性化し、デザインの存在意義をひろく認識させ、そして産業や社会、生活の諸面にたいして、デザイン都市・名古屋の中核施設として果している役割は極めて大きい。東京からも「名古屋は元気だね」と一目置かれる存在となっている一つの要因である。その延長上に、来る10月にはアジアではじめての世界グラフィックデザイン会議・名古屋が開催される。

デザイン分野ばかりではない。隣接するビジネスセンタービルとともに形成されるナディア・パークは、そのオープン以来栄から南の人の流れを大きく変え、その周辺を見事に変貌させた。若者向けのカフェ、レストラン、ブティック、ブランドショップがつぎつぎに開店し、「栄ミナミ」という新しい呼び名まで生まれた。

計画時には、大津通からひっこんでいる、地下街と結ばれていない、中にレストラン街がないなどと心配されたのだが、それは杞憂に終った。大通りとワンブロックはなれていることがかえって新しい人の流れをつくり、地下街と結ばれていないことが地上を人びとに散策する喜びを生み、レストラン街を持たないことが、周りにユニークなカフェ、レストランを誕生させることとなった。その動きは、三越南館や松坂屋新館の建設といまもつづいている。ナディア・パークが都市開発の優等生と評される所以である。

この国際デザインセンターは、1989年のデザイン博、世界デザイン会議、そしてデザイン都市宣言という名古屋における一連のデザインの動きを受けて、デザイン活動の拠点をつくろうと誕生したものだが、その計画はすでに86年はじめからスタートしている。

当時、まず総務局で市制100周年の記念事業の一つとしてその構想が検討されていた。建設場所についても、白鳥の国際会議場近く



IdcNデザインミュージアム特別企画展



展覧会＋デザイントーク

がその候補の一つにあがっていたこともある。そして89年のイベントの成功をうけて、その構想の具体化が進められることになった。

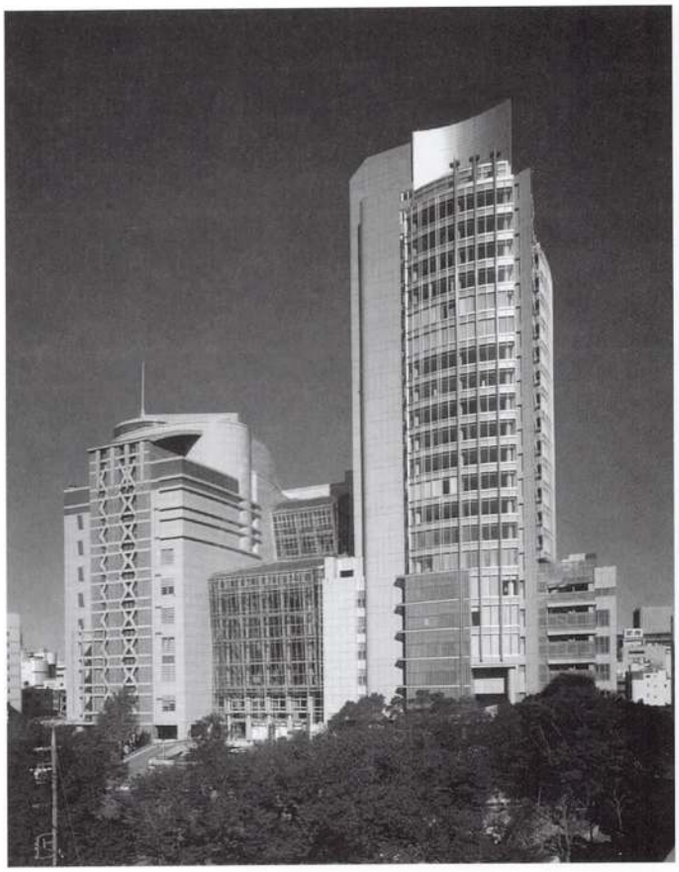
89年にデザイン研究開発機能検討委員会が設けられて、その基本構想、基本計画が2年がかりでまとめられた。その間、デザイン団体の集りである中部デザイン団体協議会、名古屋商工会議所や中部経済同友会などからも、構想について積極的な提言がなされていることは特筆すべきだろう。デザイン界や産業界の期待と支持を大きく集めていたことを示すものであるからだ。

こうしてまとめられ基本計画をうけて、愛知県、名古屋市、産業界による第三セクター方式で建設されることが本決まりとなり、その建設地も栄三丁目の中央高校跡地となった。ビジネスセンタービルとデザインセンタービルのツインタワー・スタイル。デザインセンターの上部には市の青少年文化センターが入ることになって、デザイン・文化・ビジネスの複合施設というプランができあがった。プロジェクト名称のナディア・パーク（NADYA PARK）は名古屋のNA、デザインのD、ユースのY、アミューズメントのAを集めた造語である。

設計は事業コンペという形式で求められ、三菱信託銀行提案のKMD＋大建設計の案が採用された。人の流れを重視し、狭い白川通に面したところに大きい空間をとって威圧感を避け、人が吸いこまれるようなプランで、入ると南面の巨大なガラス面を持ったアトリウムに驚かされる設計である。このアトリウムは、時に5000人以上が押しかけるタレントの大ステージと化する。

92年4月には、株式会社国際デザインセンターが設立され、そして96年11月の開館へと至るのである。

（きむら　かずお／国際デザインセンター・デザインアドバイザー）



ナディアパーク（左がデザインセンタービル）



「名古屋デザインDO!2002」入選作品展



IdcNデザインミュージアム企画展

広小路物語 都市再生を目指して

井上昭彦

東京、大阪に次いで名古屋は三大都市の一つとして認識されている。しかし、その実態はPHPのアンケート調査に見られるように、県庁所在都市の中で最低のイメージしかもたれていない。新幹線の開通に伴い名古屋は通過駅となり、文化不毛の地、白い街、地下街と百貨店の街、味噌かつ、えびフリャー（エビフライ）、モンロー主義等々が名古屋の代名詞となっている。産業首都圏と位置付けられるように、工場出荷額日本一を誇りながら、街の魅力はほとんど認められていない。愛知万博でさえほとんど知られていないのが実態である。名古屋へ転勤が決まると「まあかわいそう」となる。

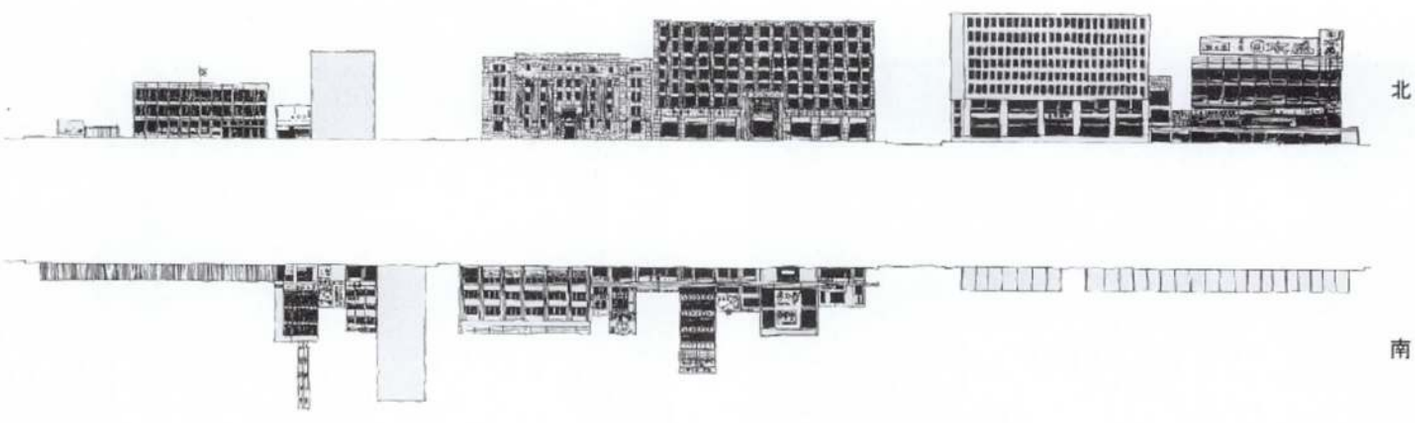
名古屋は本当に魅力がないのか。緑が少ない、川がない、競争の原理が働かない、道が広くて人気がない等数えればきりがないが、実はどの都市も大なり小なり持っている要因でもある。他の都市に比較して、工場生産で飯が食えるが故に、それこそ町おこし的なイベントをやらない、観光に対して力を入れない結果として魅力がない、そんな構図が見えてくる。

名古屋は三大英傑を輩出した土地柄である。ゆかりの名所旧跡は数多くある。自動車に代表される先駆的な技術を売り物にできる。織物をはじめ近郊にはアパレル産業も発達した。陶磁器も地場産業といえる。しかし、見せ方やPRがいかにも下手で泥臭い。デザイン都市名古屋を標榜しながら、名古屋コレクションも無い、IDを見せたり発表する場所も無い。総て東海で造るが、東京ブランドとなって帰ってくる。こうした資産をフル活用し、他に無いユニークな「売り」を作っていくことで、見かけ倒しでなく、一見田舎くさく、泥臭いが骨太のものづくりの真の姿を見せる魅力に繋げていきたいと思っている。

名古屋の都心は栄都心と名駅都心に二極化した感がある。二極を結ぶ広小路通りは、名古屋築城の段階から、広い通り＝広小路として名古屋のメインストリートを形成し、戦災でほとんど焼失したものの、市電が廃線される昭和40年代まで、「銀ブラ」に対応した「広ブラ」という名前がつくように市民に親しまれた通りであった。東の栄から西の名駅（笹島）まで屋台が立ち並び、サラリーマンは約2㎞の道のりを屋台をはしごしながらアフター5を楽しんだものである。通りに面しては路面店が立ち並び、映画館の前の広場や、神社の前の広場では手相見や有名なたこ焼屋等も出て、家族で楽しめる場所でもあった。毎日が楽しいお祭り気分（ハレ）の様相を見せていたものである。こうした表の顔に対して、ちょっと猥雑な○○小路があちこちにあって大人の楽しめる隠れ家も用意された文字どおり「盛り場」を形成していた。当時は車も少なく、30mの道路の南北をかなり自由に行き来できたために通り全体がにぎわっていた。市電撤廃と同時に歩道が狭められ、屋台も禁止となり、個店は相続税対策で金融関係のビルになり、○○小路も大型ビルに吸収されて無くなり、次第に人通りの少ないビジネス街となってしまった。現在では、ほとんど空地もないぐらいにビルが林立し、総合設計による公開空地などの広場の緑が潤いを与え、電線の地下埋設と同時に、歩道幅員も市電時代と同様に広くなり、モザイク柄のように商店街毎に違った舗装が統一されると同時にストリートファニチャー類も整備されたために一見きれいな街になっている。

著名な照明デザイナーによるチタン合金の円柱とベネチアンガラスの灯具は今までの街路灯のイメージを一新させたし、鉛筆のようなボラードは色鮮やかに街に彩りを与え、変圧器は彫刻によって飾られ、交差点は緑が潤いを与えている。銀座を真似た柳の街路樹はケヤキに変えられた。名古屋の暑い夏、ほどよい木陰を造るように・・・。

しかし、一貫性の無い、あまりに多いオブジェやストリートファ

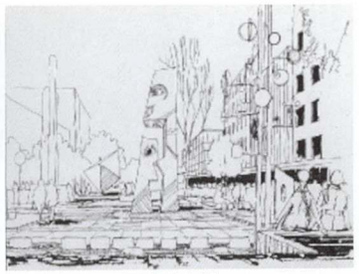


S48年頃の広小路通の建物イラスト


街路灯・ボラード


変圧器を飾るオブジェ


広小路ビル前の歩道


彫刻広場

ニチャーが歩道を狭くし、なぜかゴミに見える自転車群によって一層狭く感じてしまう。景観整備地区に指定され１階部分のセットバックが条例化されているものの、大道芸のできる広場も、カフェテラスも見られない。相変わらず信号は車優先で100m毎の交差点で歩行者は信号待ちをさせられるし、銀行のシャッターは３時に降ろされて楽しいウインドショッピングもできない。

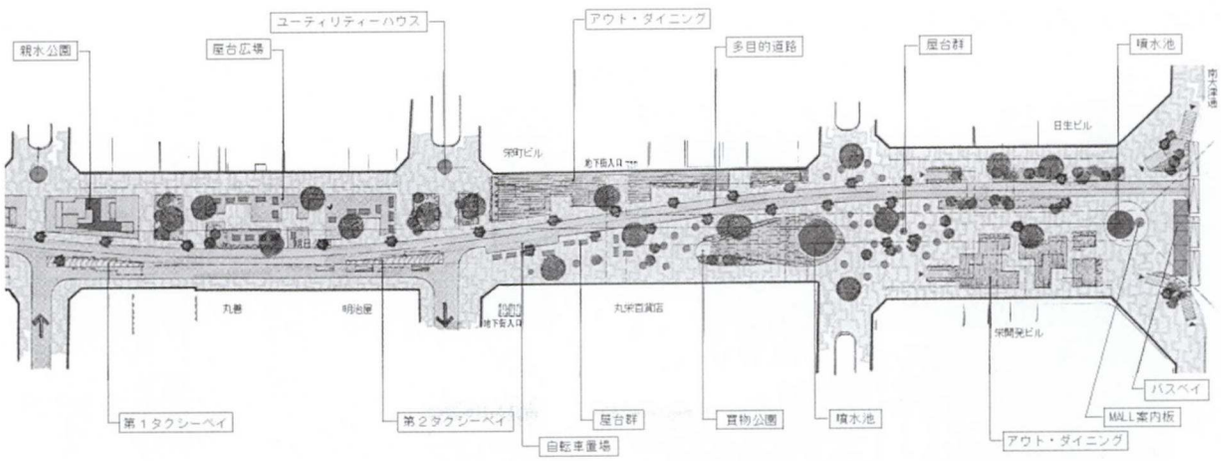
都市計画日本一といわれた戦災復興土地区画整理は、都心核環状線といわれる北の桜通から、南の100m道路若宮通まで約1.2kmの間に、桜、錦、広小路、若宮（順に幅員50、37、30、105m）と４本の東西幹線道路を都心部に走らせている。この中の一本を歩行者のために開放し、もう一度盛り場としての広小路を取りもどそうと「広小路サントピア構想」といわれるトランジットモールを提案したのが昭和49年頃のことであった。当時はミュンヘンのノイハウザー通、ニコレットモールなど、世界的にもトランジットモール全盛時代でもあったのだが、他の幹線で地下鉄、高速道路計画などが控えており、交通渋滞を招くおそれがあるためにということで行政内では検討もされなかった。

この構想は、栄から笹島までの約２kmの間の30m道路を緊急車両とクタシーのみの車道とし、横断的には、ウインドショッピングのできるぶらぶら歩き空間とさっさと歩ける空間が飲食や遊びの広場をサンドイッチする形で構成されている。２kmの長い区間は夫々、特徴ある広場で構成し、大道芸を楽しんだり、カフェテラスでお茶したり、木陰で一服できる広場がバランスよく配置されている。この時代の車交通は現在ほどの渋滞もなく調査結果では残りの３本の道路で十分さばききれるものであった。この構想発表は、いろんな波紋をよんだ。都市機能を阻害するものだ、いや名古屋の活性化の起爆剤だと賛否両論が渦巻いたが、商店街では概ね好評であったようで、以来、商店街活性化を通じた街づくりの仕事を手がけるようになった。栄を中心に近代化協議会も立ち上げてきた。西の方ではセントラルエリア活性化協議会も立ち上げた。しかし、バブル崩壊以来、総てのプロジェクトが前進しない。商店街活性化のために銀行や証券会社は１階を市民に開放し、文化施設や商業施設にして街を活き活きさせようと口を酸っぱくしていってきた。ある銀行の改築時に商店街理事長の強い要望でやっと１軒実現したが通全体としては依然ビジネス街としての印象はぬぐえない。

郊外のショッピングセンターとは違い、市街地の商店街の活性化は「鶏と卵」の関係にある。人通りがあれば商店も集まり、商店がまた人を呼ぶ。先を見越して商業展開できる勇気ある人もいなければ、客のいない土日に店を空けてくれる人もいない。

あれから30年が経過し、「広小路サントピア構想」はもう時効だという人もいる。今年、広小路を中心にした栄地区が都市再生特区に指定された。都市再生は超高層ビルを林立させることではないと思っている。それ以前に名古屋が魅力ある街として認識され、全国から人が集まれるような街になることがより重要である。都市再生の露払いとして広小路のモール化が再燃する兆しを見せている。21世紀では、産業優先の思想でなく、人間がいかに人間らしく都市生活を送れるかといった視点が重要になってこよう。モールに人が集まり、楽しい週末を家族で過ごせるならば、銀行もこぞって１階を開放してくれ、再び、名古屋の盛り場を再生することが可能となろう。20世紀末、広い道路がゆえに魅力を失った名古屋が、先人の残してくれた大いなる遺産を活用して再び生き生きとした街になることを切望する。

（いのうえ　あきひこ／㈱SD設計室）



「広小路サントピア構想」の一部

名古屋の歴史的建築

―保存・整備の現状と展望―

溝口正人

ケーススタディとしての名古屋

三大都市圏の中心地として東京や大阪と並び称される名古屋は、地方都市として位置づけるには大きな存在である。一方で、少なくとも都として政治的な権力の中枢が名古屋にあったことは一度もない。そのため名古屋の都市あるいは景観要素としての建築のイメージを実態に即して語ることは容易ではない。

実際、「白い街」といった流布している表現は観念的で恣意に過ぎる。市域には甚大な戦災にもかかわらず、近世以来の町人地や武家地の面影を残す町並み、戦前の近代建築や郊外住宅地など、さまざまな歴史的建築が存在するからである。逆に名古屋は、近世以降の来歴を持つ都市における歴史的建築・環境の保存・整備の今後を考える上でのケーススタディともなり得るのではないか。

以下では、地方での町並み保存に関わる筆者の視点から、名古屋における歴史的建築の保存・整備の現状を概観することとしたい。

町並み保存と名古屋

名古屋市東南部、絞り染めの産地としても知られている有松は、池鯉鮒（知立）と鳴海の間の合宿（あいのしゅく）として開村した東海道の宿場町である。いまは市街地に取り込まれているここ有松が、全国に展開する町並み保存運動の発祥地であることを知る名古屋市民は少ないだろう。

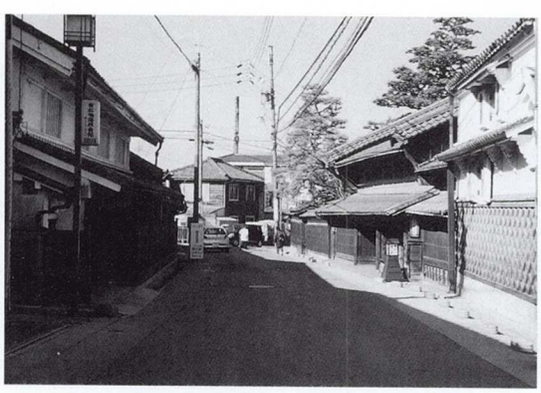
1974年４月、歴史的な町並みの保存活動の全国的な住民組織として知られる「全国町並み保存連盟」は、地元の有松、木曽の妻籠、奈良の今井町、三つのまちの住民代表が有松に集まって誕生した。以後、1975年に文化財保護法が改正されて町並みも「重要伝統建造物群保存地区」（以下、重伝建）として選定されることになる。以後27年を経て、文化財としての町並み保存の制度と施策は定着しつつあるかにみえる。

ただしこの重伝建の制度も、大都市あるいはその近郊では必ずしも有効ではない。現代の日本では、建築よりも土地に資産価値の基本がおかれ、一方で固定資産の継承に困難を伴う。歴史的建築の維持は、所有者に経済的に大きな負担となってしまうからである。そして高密度な土地利用を原則とする大都市には、伝統的な町屋は合致しない不経済なものとされがちなことも一因となる。

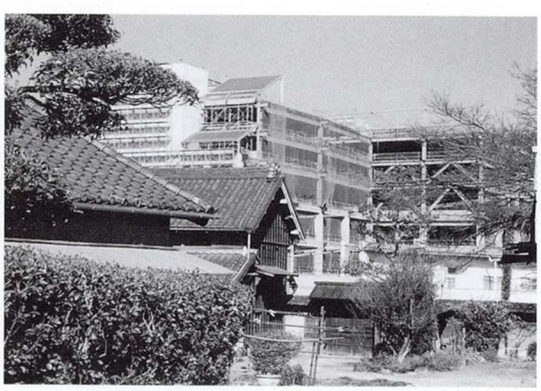
よって有松、妻籠、今井町の以後の歩みは全く異なるものとなった。1976年に重伝建に選定され、木曽路の面影を伝える観光地としての地位を築いてきた妻籠に対して、重要文化財に指定された町屋も多く、寺内町の面影を色濃く伝える今井町の選定は1993年となった。大阪への通勤圏内という立地もあり、住民の合意形成に歳月を必要としたのである。

名古屋の町並み保存事業

一方、名古屋市の場合は独自の制度による町並みの保存を模索した。1983年には「名古屋市町並み保存要綱」が定められ、保存事業が開始されたのである。1984年に前述の有松、1985年には、名古屋城の東方に位置し中級武士の屋敷地に明治以降の実業家たちが和風・洋風の住宅を建てた白壁・主税・橦木、1986年には名古屋城の西方、堀川西岸に商家が建ち並ぶ四間道、1987年には名古屋市北西、庄内川西岸の旧岩倉街道沿いに生活用品を扱う商家が建ち並ぶ中小



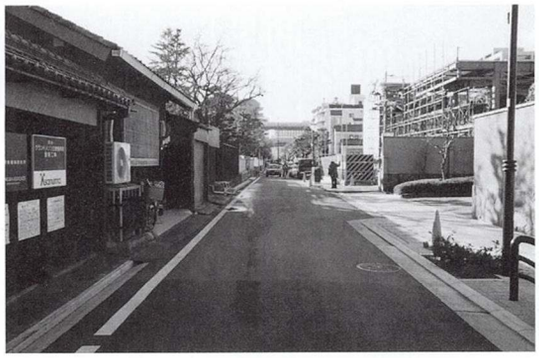
宿場町の面影を色濃く残す有松の町並み



有松の町並み近くで進む名古屋市関連の再開発事業



通り沿いに建ち並ぶ土蔵群が独特の景観を生んでいる四間道



近年取り壊しが相次ぐ白壁・主税・橦木地区

田井と、計4地区が町並み保存地区に指定された。いづれも近世から近代にかけての特徴ある町並みである。

指定以来、2002年に至る各地区の伝統的建造物の変化を示せば、有松地区が87棟から81棟（93%）、白壁・主税・橦木地区が60棟から48棟（80%）、四間道地区が52棟から36棟（69%）、中小田井地区が45棟から33棟（73%）となる。

この数字を、バブルの洗礼を受けつつも大都市で7割も残ったとみるか、3割も失われたとみるかは難しい。たしかに多くの重伝建地区に比べれば、地価において百倍、あるいは数百倍の開きがある名古屋において、空き家の買い取りをも含む重伝建の手法には限界がある。観光を主要な産業とする京都は例外として、伝統的な木造建築を主体とする保存地区の指定は、政令都市レベルでは貴重でもある。むしろ今井町で要した年月を考えるならば、住民意識の喚起という点も含めて、当初の判断は評価すべきである。しかし名古屋市の保存事業は重伝建の制度に準じながらも条例ではなく、より拘束力の弱い「要綱」として制度化された。重伝建のように制限にまで至ることのない現状の制度の限界は否めない。都心部の広い敷地は個人で継承するには高く、相続に伴い維持困難な住宅が放棄される事例が白壁周辺などに顕著となっている。所有者の意志に委ねる現状の方法のままでは町並みの維持は困難で、やがては消滅の方向に向かわざるを得ないだろう。今後は生活環境保全の観点からも、より踏み込んだ施策を、住民と作り上げることが必要とされる時期にきているように思われる。その場合、いかに安心して人が住み続け、建物が使い続けられるかが、判断の基本となるだろう。

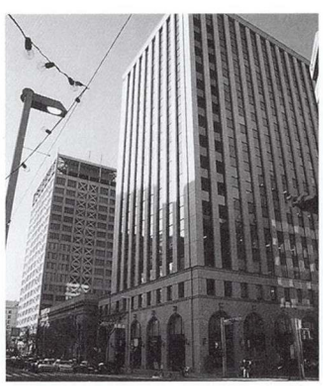
近代建築の保存と都市の魅力

以上にみた町並み保存における問題点は、そのまま都心部に残る近代商業建築や、産業構造の変化により再活用を余儀なくされている工場などの生産施設にもあてはまる。社会構造の変化の中で、多くの近代建築が姿を消してきたが、1992年から「近代化遺産」が国の重要文化財に指定されることとなり、また1996年には建造物に関する文化財登録制度が発足し、名古屋市でも愛知県庁や名古屋市役所などが登録された。一方で地価の下落が土地の担保価値を減少させ、経済状況の悪化により維持困難な都心部の近代建築が放棄されるケースが生じている。

近年、生活環境に質的な豊かさ・潤い・落ち着いた雰囲気などを求める社会ニーズが高まり、歴史的建築のストックが、成熟した都市空間を質的に保証する文化的ストックとして認識され、評価されつつある。セントラルタワーズを中心とした名古屋駅周辺のにぎわい、栄地区のナディアパーク周辺の活性化を見る限り、シンボルとしての高層建築はあり得よう。しかし東京のように超高層ビルが林立するまでの需要が、名古屋にはないことは確かである。

むしろそのことを特性と考えて、近世・近代の都市空間をより磨き上げる方向を目指す方が、名古屋における魅力的な都市づくりのための現実的、経済的かつ効果的な施策なのだろう。その場合、登録文化財、都市景観重要建築物、伝統的建造物など、多義にわたる歴史的建築の評価・整備の制度や所轄の錯綜を整理することが、地方行政には求められることとなる。

（みぞぐち　まさと／名古屋市立大学大学院芸術工学研究科助教授）



金融機関の統合は、近代銀行建築の取り壊しを加速させている。



近代建築の町並み景観への寄与は大きい。

座談会

支部会員が語る「愛知・名古屋の街・建築」

小宮　三辰（三辰設計・前安井建築設計事務所）―司会
加藤　宏生（㈱竹中工務店）
今津　芳清（㈱篠田川口建築事務所）
加藤亜紀子　インテリアコーディネーター
松元　親司（㈱東畑建築事務所）


小宮氏


加藤氏


座談会風景


今津氏


加藤亜紀子氏


松元氏

愛知・名古屋との関わり

小宮　5年ぐらいと言うことで転勤してきて、いつの間にか30数年になります。名古屋中心部での仕事は少ないですが、この地における建築のあり方を問かけて来ました。当初は都市計画の仕事も手掛けていたのですが、近年は、単体の建築の計画が多いかったです。この30年間をみると、大阪では早くからビルで埋まっていたが、名古屋では15年ぐらい前からで、他都市より比較的スローテンポであったように思います。

最近では、広小路通りやオアシス21などの中心部の再開発に関心を持ってみています。実は、オアシス21の基本計画には関わり合った一人です。最終的には私どもの計画とは違うものが採用されましたが、自由な発想で楽しいものができ上ったと、喜んでいます。

加藤　東京で生まれで育ち、竹中工務店に昭和42年に入社、大阪での研修後、最初の勤務地が名古屋でした。名古屋に来て34年になります。名古屋市の中心部では、タキヒョービル、現在の東京海上ビルやヒルトンホテルなどの民間建築の設計を中心に携わってきた。こうした新規の建物は、完成時には設計者として自信も満足感もあるのですが、時間が経つにつれ、周囲も変化し、本当にこれで良かったのかと思うこともある。思い出に残る仕事の一つである「蒲郡ホテル（現・蒲郡プリンスホテル）の改修」は、時間軸をどう取り戻すかがテーマで「記憶」とか「古い写真」を頼りに、先人の考え、知恵、技術に触れることができ、違った意味での満足感を得ることができた。

今津　私は、春日井に生まれ、名古屋の大学を卒業した昭和47年に現在の事務所に就職した純粋の名古屋育ちです。刺激を求め協会の活動に参加したり、建築の仲間を求め東京の大学の研究室に出入りしたりしている。名古屋は閉鎖的とか、あか抜けしないとか、色々、言われたり、言ったりしてきたが、名古屋に住み続けているのは、名古屋的な強さ、大衆的な泥臭さ、それなりに居心地が良いかただと思っている。

松元　鹿児島生まれです。勤務先の本社は大阪ですが、田舎者ですので、「東京、大阪どこでもかまいません」と申しましたら、名古屋勤務となり、28年が経ってしまいました。

名古屋近辺の仕事より、北陸は富山県内のある町を中心に担当していましたが、そこでは「おらがまち」という自信にあふれた人々が多いというのが印象に残っています。最近は、マス・メディアのせいばかりでもないのでしょうが、全国の街が均一化されて、街の特徴を見いだし難くなっており寂しく思っています。それでも地方の町では、町自体で熱心に取り組でおり、それを見つけることができます。

名古屋のような大都市では、地域ごとの取り組みが表面に出にくいのか、特徴を失っているように思います。特に、名古屋は東京、大阪に挟まれ、とっちつかずでぼやけている様な感じがします。もしかしたら、地下街のせいかもしれませんが、名古屋駅や伏見、栄周辺には、名古屋を感じさせるものが少ない様な気がします。地下は便利ですが、街の魅力の点では劣ります。中心部から離れた本山、八事あたりは歩いて楽しいと思います。「ブランドはプライドを持たないと生まれない」と言いますが、名古屋ブランドがもっとあってよいと考えます。

加藤（亜）　インテリアコーデネターの仕事を名古屋を中心に16年間している。生まれも、育ちも名古屋ですが、両親が名古屋出身でないので、生粋の名古屋人とは言い難く、名古屋を出ようと思っていたのですが、生粋の名古屋人と結婚しましたので、私も生粋の

名古屋人になってしまったと言えるでしょう。

私の見方は、皆さんとは少し違う視点かもしれませんが、名古屋はインテリアに関するショールームが少なかったのですが、最近になり、やっと増えてきて、歩いて楽しい街になってきたと思う。

ただ、まだ点ですので、古いものと、新しいものとが入り交じった線で結ばれた街になると良いなと思っている。

名古屋の街

小宮　名古屋の街にも、女性が好む店舗を中心にお店が並ぶようになってきた。栄から、パルコに向けての地域のことですが、幸いにこの地域は、地下街もなく地上にできた。名古屋も大きく変革して行く臭いがする。

デザインセンターができ、人のながれが変わり、その人の流れを目当てに新しい感覚の店ができる。少しづつ街らしい雰囲気がでてきて、夜も散策してみようと思うようになった。

加藤　居心地の良い街と言うことですか。東京の友達がきた時、地下鉄で栄に来て、ここが繁華街だよと地上に上がっら「すごい暗い街だな」と言われた。それが実感だと思う。今は、以前にくらべ大変明るく、楽しい街になりましたが、地下街が発達した影響かもしれません。

今津　私の知り合いの人に、名古屋は平べったい街だと言う人がいる。私の仕事の関係かも知れませんが、工場なんかですと１／50の模型を作るなど、非常に熱心にやるが、ビルになると施主の要求も簡素で、そんな贅沢なものをなぜやるのかとと言う感じんになる。

小宮　私も東京の本社より良くなるからダメだと言われたことがある。新しく作る以上、古いものより良くなるのが当たり前なんですが、本社より良いものになることを嫌いますね。他の都市とは、違う雰囲気がする。

東京のように、設計者にすべて任されて、こういうデザインで行こうと言う仕事は少ないですね。

加藤　もの造りについては、先進的かもしれないが、建物の外にみえるところでは遅れている。東京ではガラスの建物が流行っていますが、10年程前のコンペで、ガラスの建物を２案持って行ったら早いと言われました。

小宮　確かにガラスの建物が少ないですんね。オンワード、コーワビル、住友生命ビル程度で、街並となってないかもしれない。その点、流行に左右されないと言うことですか。質実剛健と言うか、突拍子のないものが現われて批判され、消えて行く場面は少ない。

気持ちの良い街づくり

小宮　本店がよそにあって、支店だから本店を越えることができないと言う場面が多分にある。そう言った点を逆手に取って、皆で名古屋の街づくりのあり方を提案して、それをもとに、東京にも、大阪にもない、名古屋の街にするだと言う気運が生まれないか。ニューヨークではないが、高い建物を作っても良いけども、基本的にはスカイラインを揃えてしまうとか。これ以上建てても需要がないのだから、需要がある範囲内で気持ちの良い街づくりをしなくてはいけない。

加藤　ヨーロッパ、アメリカなどでは設計段階で、建築局の許可や市民の任意団体との協議や許可が必要になることがあります。

小宮　長いスパンで皆が納得する規制、行政のやる規制ではなく、街全体の総意としての「街づくり憲法」みたいなものがあって、それに基づいて街を造る。

街は誰のためにつくるのか、市民は何を求めているか、もっと建築家は考えなければならない。市民と建築家が自由に議論し合いながら、年次ごとに報告書が作られ、それが、街造りのベースに使われて行く。そうした基盤に立って造られることが大切だと思う。技術的なことは、積極的に取り入れれば良いが、東京や大阪にない街づくりがしたいですね。

松元　行政だけに頼ると、何かをやろうと思っても出来ないので、出来るところから、建築に携わるものが始めることが大切だと思います。このままでは、全国に同じ建物や街が出来てしまう。名古屋にも良いものが一杯あるのだが、東京の人達のように、作ったものを説明する人が少ない。積極的にＰＲすることも必要ではないかと思います。

加藤亜　名古屋は夜が早い。地下街も８時、オアシス21も10時で閉まってしまう。夜、遊ぶ所がない。

加藤　銀行統廃合によりの空きスペースが増えていますね。銀行は３時にシャッターを下ろしてしまう。銀行でのカウンター業務が減少したのだから、バンクロビーなど解放すると良い。例えば、ストリートギャラリーなどで、街が明るく楽しくなりますね。

松元　一時、銀行の業務スペースを２階に移し、１階に喫茶店を設けた銀行が話題になった。公園やビルのオープンスペースのあり方も考え直す時期にきていますね。昼は太陽の光と風のさやぎを聞きながら、夜はネオンがあった方が歩いていて楽しいでしょう。

加藤　総合設計の許認可のあり方も少し問題がありますね。建築地の場所、周辺を含めた状況や文脈をみて、街に合わせた判断が必要です。行政も少しずつ変わってきているが、行政や市民とクライアントが、街をどう考え、いろいろな意味で街づくりにどう貢献するかだと思う。

松元　広い道路は、確かに立派だが、名古屋駅のタワーズから眺めると、駅前は人の賑わいをみることができるが、ロータリーから向こうには、それほど人影をみることができません。地下街へ消えるのでしょうか。

今津　ビルとビルがつながっていないのです。地下街がそれを補っているのでしょうが、ビルである点と点を歩道とか、小川などのオアシス的な公園で結ばれると、居心地の良い街になると思う。

加藤　名古屋の街は、終戦後いちはやく、復興調査会を設置し戦災復興に着手した。日本最大規模の復興事業は、市民の協力を得て市内に点在していた墓地を平和公園に集め、幅50m以上の幹線道路11本を中心とした街路計画と公園緑地計画を推進した。この事業により、名古屋は整然とした街並みと広い道路、公共空間が出来、名

古屋市の景観や利便性などのさまざまな骨格となっている。

小宮　広小路の歩道は、不法駐車防止のため、車道の車線を減らしたので歩道が広くなった。道路の反対側の歩道を歩いている人が分かり、歩いている人同士が声を掛け合うことができると良い。そんな街に賑わいが生まれると思います。

人の空間は楽しく、車の空間は機能的に、人が歩く道と交通手段の道と区分けして考えるべきと思う。

地下街の店は、5～10年で変わっています。地上の店も市民のニーズ、時代の変化に合わせ、10年位で変わるシステムを作る必要があるのではないか。

郊外の街は

今津　その地域、その地域に、焼き物とか、繊維とか、自動車とか言うように地場の産業が確立し、これらが生活観や生活振りに影響し、街の様子も地域によりずいぶん違うと思う。大きく分ければ尾張、三河に分かれると思う。

小宮　私は高蔵寺ニュータウンに住んでいる。建設は、昭和39年から始まり、全国的にも注目された新しい街だった。30数年経って、中心地区にも市民ホールやショッピングモール等が整備され、これからと思うのに、入居当時の活気ある雰囲気が消え、淋しい空間になっている。

今津　ニュータウンのある春日井市は4町村が合併してできた。ニュータウンは、名古屋のベットタウンとして誕生しており、地域の核にはなりにくいところで、市の経済、文化の交流する場所ではない。生活を楽しく、面白くと言うよりも、住み心地よく、のんびりやる所だと思う。

地域の核となる所には、市民ホールや美術館も整備され、結構、皆、満足していると思う、

いま、愛知・名古屋の人、建築に求められるもの

今津　名古屋で生まれ、育ち、名古屋で就職する。それでも、そこそこの満足できる生活ができてしまうのです。そう言う土地柄、気風だと思う。海もあり、山もあり、ゴルフ場も30分も行けばある。そこそのに条件が整っていて、住みやすい環境なんです。よほど強いインパクトを求める人でないと外に出ようと思わない。

松元　そうですね、東京にも、大阪にも日帰り出張が出来ます。京都や奈良にも、信州にも北陸にも近いですね。仕事にしろ、レジャーにしろ、非常に便利ですね。

小宮　確かに生活するには、非常に便利なんだけど、街自体に魅力があるかと言うとそうではない。建物が建ち並んでいれば良いと言うものではないと思う。

加藤　昔、偉大なる田舎と言われたりした。道路や建物、インフラは整っているが、文化がと言うとなかなか表面にでてこない。名古屋は昔から芸所といわれますが、大名文化なんですよね。

加藤亜　お茶やお花をやる人も多いですが、奥ゆかしいと言うか、自分から表面に出したがらない。横並びと言うか、他人を気にするところがある。販売の人に聞いたのですが、名古屋の人は必ず「皆さん買っていますか」と聞くそうです。

若い女の子のファッションでも同じで、後ろから見ると皆一緒で姉妹のように見える。表に出すのが、美徳とならないのです。色々な面で言えることですが、もっと自信を持って自分らしさを表現するようになればいいと思う。

小宮　名古屋で生まれ、名古屋に育った人たちが、大きなパワーになって欲しい。今の名古屋は、名古チョン族がワーワーやっている感がする。博多が元気だと言われる。どんたくがあり、祇園山笠がある。屋台がにぎあう。みな古くからそこに住む地元の人々で支えている。名古屋にはそう言った土壌がないのだろうか。

ここの人達は、表に出たがらないだけでなく、東京から来た人たちを簡単に受け入れてしまう。東京店舗の店が多いから、東京から人が派遣されてしまう。名古屋の人は当てにされていない。この東京絶対主義みたいなものを捨てないと名古屋の成長はないと思う。よその都市では我が我がと大騒ぎする。名古屋にもデザイナーはいるから連れてこなくても良いと言う声を出さなければいけない。

ここで育てようとする意識がないから、人も育たない。もう少し若い人が騒いで、名古屋の存在感をつくる必要がある。

今津　名古屋に住み続けた者には、東京の文化的な生活感とか、行動とか、居心地よく住まうとかいった感覚が、温室ではないのですが、冷たいさも、気持ち良いさも分からないかもしれない。東京は全国から色々な人が集まっているので、個がしっかりしていないと生活が成り立たない。そのため、家族とか、仲間とか言った単位を非常に大切にする。建築家と言われる人ほどその傾向が強い。私は刺激を求め縁により知り合った東京の研究室に出入りするようになり、そうした感覚のなかで、建築活動とはこう言うものか、建築家としての生き方とはこう言うものかと感じた。建築家は、生き方が問題となるので、そうした厳しさがない名古屋では、育ちにくいかもしれない。

文化的土壌があってこそ出来る徹底さがなければ、建築家の生き方は育たないと思う。深みと言うか厚みがないと出来ない。そう言った面からみると、製造物では、トヨタで代表されるような厚みがあるバックアップの十分きいたもの造りが出来ていますね。

小宮　そう言う厚みのある産業文化と言ったものを、建築を含めた社会構造の中に引きずりこむことができないでしょうか。

松元　いまの安いものを作れば良いと言う際限のない入札制度では、そこまで引きずりこむのは無理ではないか。

小宮　確かに制度に問題もあるが、建築も産業の一つだとすると、建築にも引きずり込む場面も必要と思う。基本的には安いものと言うことになるが、車でも何銭単位で、検討し、あれだけのものを組み立てている訳ですから、建築での努力が足りないのも事実だと思う。設計をするもの、施工をするもの、製品や材料をつくるものが力を合わせコストダウンを図る努力をする必要がある。

建築の世界も突き詰めるとそこまで行く必要があると思うが、そう言うこととは別に、住環境、働く環境、社会環境全部含めて人間

が活動する環境とし都市と言うものを考えた時、また、戦後、なにもないなかここまでやってきたのだからこそ、次の世代の街をつくるためには、リトル東京でない、名古屋独特の都市再生になる大きな骨が欲しいのですね。

加藤　戦後復興の都市計画はいち早く行われたが、街造りはこれからで、少し後になる。街造りは時間を掛け、歴史観に基づきながら蓄積していけば良い。街づくりはお役所だけでなく、皆でやればよい。皆で考え、皆でつくる時代になった。

心に残る街づくり

今津　長い時間のスパンの中では、瞬間的なものかもしれないが、30年代、40年代のもっと現代に近い部分、例えば、万博会場になる青少年公園にしても、簡単に壊してしまった。確かに青少年公園は20世紀の建物で、21世紀の万博には、馴染まない不要なものでしょうが、地元の人に取っては慣れ親しんだ原風景になりうるものと思う。建築は時間を積み重ねないと本当に良いものは生まれないと思う。

加藤亜　この地方の人達に取って青少年公園は、子供会とか、小学校の遠足とかで必ず行ったことのある場所です。私も高校の合宿で利用しました。多くの人の思いでに残る場所だったと思う。思い出に残る街づくりの視点が必要だと思う。

最近、古い建物を残そうとする動きがあるが、残しても、それが活用しなくては意味がないと思う。まだ、この地方には活用するソフトが出来上がっていない。折角の人々に親しまれた建物が残っても、点と点で終わっている。

加藤　藤森さんが雑誌に「都市の記憶と言う概念ではなく、懐かしさで建築を語りたい」と書いている。私も懐かしさは、後ろ向きではなく、前向きで捕らえたい。

各地で小学校の統合の話がある。統合と同時に、その後の利用を考えていかないと、いつかはその建物もなくなってしまう。いま、松坂屋を創業した伊藤家の別邸、覚王山「揚輝荘」の広大な敷地と現存する建築物の維持管理が課題となっています。揚輝荘は大正7年頃から、趣きのある建築物を移転、新築し、財界人、皇族、海外高官らが訪れ長く社交の場として、また留学生の寮として利用されてきた。名古屋市もいくつかを貴重な建築物として管理する方針を検討中であるが、市民からも「揚輝荘」の治用検討会を発足し、色々な立場の人々が集まり、保全、治用について日夜話し合いをしています。例えば、市が修復、保全し、その運営を一般市民を含めたボランティアがやる。オーナー、市民、行政とのパートナーシップ、協働により文化的な資産をどう守るか、どう生かすかの波紋が広がっています。

小宮　地域の学校でも、いままでの画一的なコンクリートの建物を嫌がって、木造を取り入れた建物に作り直している。大都市よりも周辺の人々の中にそういった意識が育って、僕たちの小学校だと言う、卒業したあとに思い出に残るもの造りや環境造りに一生懸命になっている。長いスパンで皆が納得する、納得できる建物や街を基軸にした「街づくり」を多くの人々と話し合う場をつくらないといけない。

最近の動きについて

小宮　名古屋駅前は超高層と言われる建物でまとまって行くのでしょうが、そう言ったものを全部機能させるだけの人口が名古屋やその周辺にない。もっと分析し超高層が必要かどうかの問題もあると思う。駅前は良いとしても、それ以外のところは、31mのラインで揃えると言った発想があっても良いと思う。数値的に裏打ちされたデーターを示し、市民に考えてもらい、庶民の感覚で納得出来る街を作りだして行けば、また、違がう21世紀の街、都市ができるんのではないか。

都心部の再開発計画をたくさん聞くようになった。納屋橋のところは超高層になるのですか。

松元　当初の計画とは随分変わって、超高層にはならないと聞きます。今、旧加藤商会ビルに関心を持っている。多分、店舗が入ると思います。川の反対側が綺麗になったので、急がないと市民の気運が削がれてしまう。人の動きを名古屋駅前と栄あたりだけにするのではなく、納屋橋があり、伏見がありと、連続した街の広がりの中で、賑わいが出てくれば、もっと色々な物が生まれると思います。

終わりに

加藤　市民のなかに肩書きを外した話し合う場所が必要ではないか。結論がでなくても、大きな流れができれば良いと思う。それを官なり、色々な組織が実現させる。そんな市民が納得できるシステム作りが必要ですね。89年のデザイン博の時、名古屋の街がきれいになった。こんどは万博がある。名古屋市と愛知県が手を取り合い、市民を巻き込んだ動きが欲しいです。東京のように名古屋市も区長を選挙で選ぶと良いかと思う。町民に一番近い人に権限をもたせ、町民が積極的に街造りやいろいろな事に加われば名古屋の文化、環境もかわると思う。

加藤亜　新しいビルを作る時に、愛知の産業から生まれた新しい製品を使うようにすると何か別のものが見えてくると思う。主に、材料になると思う。例えば、有松絞りは布ですが、布ではなくガラスに絞りの模様を転写したものが、有松駅の陸橋に使われている。愛知の産業、産業技術をすこし違った形で建築に取り込むことができると、愛知らしさ、名古屋らしさが見えてくると思う。鳴海製陶、ノリタケ、瀬戸や常滑の陶器もある。ここが他とは違うと言うことが必要だと思う。

小宮　そうですね、ここは違うと言うことを目指し、私だったらこうすると言った議論が起きるような、後に続く後身を奮い立たせる要素を残して行かないといけない。

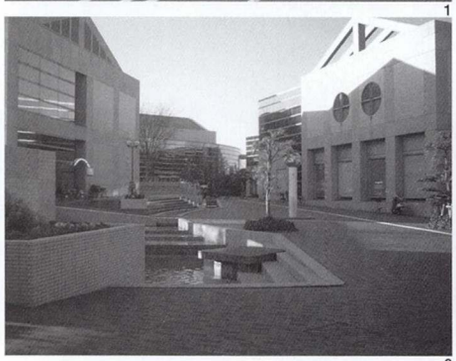
広範囲な話し合いなってしまいましたが、皆さんの愛知、名古屋への熱い思いが多くの方に伝われば良いと思う。

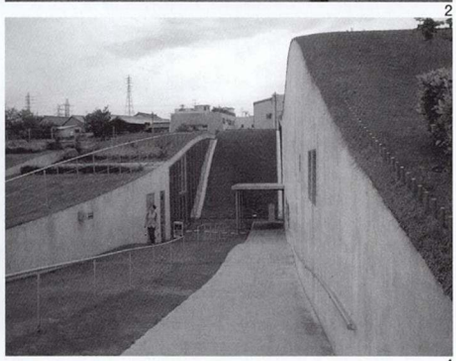
「愛知まちなみ建築賞1993〜2002」にみる

愛知・名古屋の文化施設


1


2

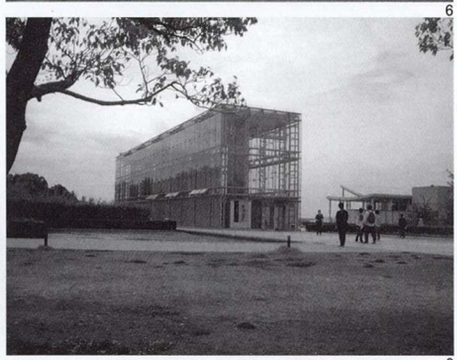

3


4


5


6


7


8


9


10


11


12


13


14


15


16


17


18


19

①トヨタ博物館（愛知郡長久手町）
②愛知県陶磁資料館（瀬戸市南山口町）
③へきなん芸術文化村（碧南市鶴見町）
④新美南吉記念館（半田市岩滑西町）
⑤問屋記念館（西春日井郡西枇杷島町）
⑥産業技術記念館（名古屋市西区）
⑦扶桑文化会館（丹羽郡扶桑町）
⑧岡崎市美術博物館（岡崎市高隆寺町）
⑨荻須記念美術館アトリエ復元（稲沢市稲沢町）
⑩高浜市やきものの里かわら美術館（高浜市青木町）
⑪世界のタイル博物館（常滑市奥栄町）
⑫豊田市美術館（豊田市小坂本町）
⑬名古屋能楽堂（名古屋市中区）
⑭ナディアパーク（名古屋市中区）
⑮尾西市三岸節子記念美術館（尾西市小信中島）
⑯知多歴史民俗博物館（知多市緑町）
⑰瀬戸市マルチメディア伝承工芸館（瀬戸市西郷町）
⑱長久手町文化の家（愛知郡長久手町）
⑲鈴渓南山美術館（名古屋市昭和区）

写真は座談会とは関係有りません。
（座談会・写真企画　構成：林金之・松本壮一郎）

新しい街並みの創出
—ナディアパーク（NADYA／PARK）の計画—

福田一豊

計画の目的

この施設が1996年にオープンして既に6年余が経過しています。1990年当時、この界隈には賑わいというものが全く無い状態にありましたが、現在付近一帯は様変わりし新しい賑わいを創出しています。ここでは当時を振り返りながら現在の状況について記します。

この計画は、名古屋市によって実施された「中央高校跡地開発土地信託事業計画等提案競技」に基づく土地信託を併用するツインビル計画です。計画地である中央高校跡地は、栄南部に位置し、美術館・科学館のある白川地区と栄地区を結ぶ中間にあります。市の新基本計画において「名古屋大都市圏の商業・業務・情報等の中心地として高次都市機能の集積と土地の高度利用を目指す」と位置付けされていることから「これからの名古屋の都市生活をデザインする文化・産業・アミューズメントの情報・交流の場」をテーマに周辺地域活性化の拠点として開発されたものです。

計画の内容及び要旨

建物は名古屋市、国際デザインセンター、三菱信託銀行の三者による区分所有ビルであります。若者の芸術文化の拠点となる「青少年文化センター」を上層部に、デザイン創造拠点となる「国際デザインセンター」を下層部に設置した公共公益施設のデザインセンタービルと、地域活性化に寄与する商業・業務施設を有する民間施設のビジネスセンタービルがアトリウムを介して並立するツインビルです。民間施設整備にあたっては、民間活力による市有地の有効活用が可能である土地信託制度を採用しています。又都市計画法に基づく特定街区の指定を受け、指定容積率が900%まで緩和されました。

この計画では栄地区の大津通、広小路通りの線的な既存商業軸を今回の計画と並行して行う周辺整備による街区整備と併せ、ナディアパークのウィシュボーン型の歩行者動線によって周辺地域との連続性に配慮した回遊ネットワークを実現することを意図しています。

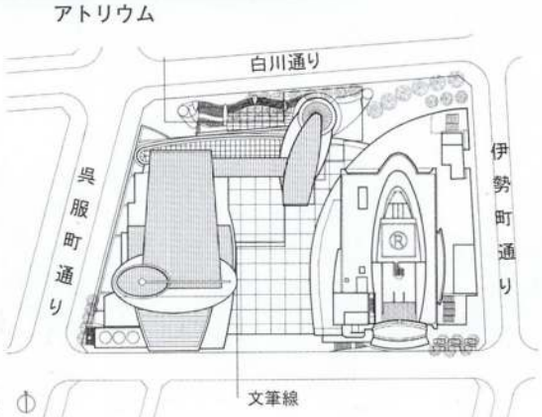
歩行者動線は両施設の中央に位置するアトリウムに導かれ、各施設にアプローチします。12階まで連続するアトリウムは施設全体の核となりアプローチ空間を共有することで施設を一体化すると共に、施設全体の「街」のイメージをメッセージとして伝える空間としています。アトリウムを構成する両棟の開放された開口部は施設相互の視覚的交流を意図し、エレベータ及びエスカレータや連絡ブリッジは来訪者に目的施設の位置及びアクセスを視覚的に容易に認知することを可能にしています。又ここでは、建物頂部にその複合機能を象徴した外観の夜間のライトアップや周辺との交流を高めるために視覚を連続させる外部の透明ガラスなど、この地区のランドマークとなり、地域活性化の拠点となることを目指しています。



南東面外観



アトリウム



配置図

最近の周辺の状況

南大津通りからここに至る東西方向の白川通りを始め３本の通りの人の流れはいつも賑わいを見せ、又南北方向の呉服町通りや伊勢町通りも人の流れを取り戻しています。文化軸としての南大津通りから白川通りのルートは街区整備により歩きやすい空間となりました。こうした人の流れを受け、ナディア周辺の街区は店舗等が年々新しく生まれ変わっています（図－１）。又有名ブランドの店が通りに顔を見せるなど、栄地区が地下街中心の「まち」という名古屋独特のイメージから脱却し、地上を散策しながらショッピング等を楽しむ街に変身しつつある事はナディアパーク効果と云えます。

周辺施設にもデザインセンターと関連したデザイン専門学校等が進出し、ナディアパークには飲食店が殆ど無い事から、周辺に多くの飲食店が開店しています。こうした大型施設を開発する際に、必ずしも全用途を網羅する必要はなく役割分担を考えて周辺街区の発展を視野にいれた開発が必要であることを示唆してくれています。

アトリウムには南と北の街区を分断することなく人々が集まり、分散していく公共の広場として、又ナディアの顔として広く人々に親しまれ、週末を中心にここではイベントが開かれており常に賑わいを感じさせてくれています。矢場公園との一体化はアトリウムとペデストリアンデッキで結ばれ街区のアメニティを高めると共に、こうした高容積の建物が街区に与える威圧感を和らげる意味でも大変効果的でありました。公園に展開する南側の階段をベンチ代わりに談笑する人々でにぎわっています。

新しいファサードが通りに顔を見せ、街並みが変わり、今後もこの周辺がさらに変化していくことが予想されますし、現在三越や松坂屋の増床も計画され栄地区の商業・業務のポテンシャルが今後一段と上がると考えらます。セントラルタワーズの出現により名古屋駅に人の流れが増えていますが、今後は栄と、名古屋駅がそれぞれの持ち味を発揮し二大商業・業務の交流拠点として発展し名古屋の活力を高めていくことを期待したいと思います。

外国の設計事務所との提携

提案競技にあたっては、国際・デザイン都市を目指す名古屋にふさわしい施設を設計するため、外国事務所と提携し設計することにし、幸いにうまく組む相手を見つけることが出来ました。当初は言葉の問題や考え方の違いをどのように調整するのか危惧されましたが、話し合いを重ね一応の合意を得て競技設計に入りました。しかし案ずるより生むがやすしの言葉どおり、心配していた言葉の問題も建築には“かたち（絵や設計図）”という物があり、それが言葉の役目をはたしスムースにコミュニケーションをとる事が出来ました。しかし、技術的問題よりも設計料の分配方法についての交渉が長引きなかなか決着を見ませんでした。こうした事は事前にしっかりと詰めてから業務に入ることが大切で、日本式の阿吽の呼吸ということで先延ばしすることは絶対に避けるべきです。外国が契約社会によって成立している実態を体験できる良い機会となりました。

（ふくだ　かずとよ／福田建築事務所
元大建設計常務取締役名古屋事務所長、現愛知工業大学建築学科非常勤講師）


東側の新築店舗

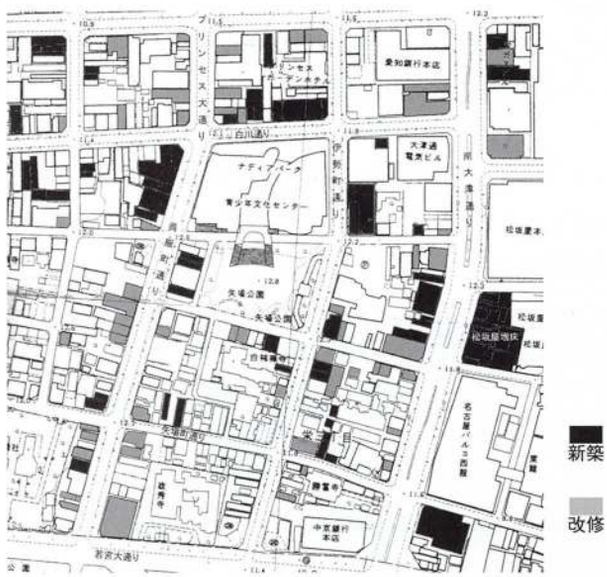

西側の新築店舗・事務所及び専門学校


東北部のアプローチ


西北部のアプローチ


南東部のロフト・ビジネス棟アプローチ


矢場公園周りの店舗



図－１　この６年間に新築・改修された店舗等

建築概要

建設場所	名古屋市中区栄３丁目1801番地1,2・
建築名称	「ナディアパーク」（NADYA／PARK）
主な用途	複合施設：多目的ホール　展示施設　店舗　事務所
設計監理	名古屋市建築局　大建設計　KMD　ダブルスマーケティング
施　工	戸田・竹中・三菱・ナカノ・福田・大日本・矢作共同体 熊谷・浅沼・太平・大豊・伊藤工共同体
敷地面積	8,271.07㎡
建築面積	6,835.27㎡
延床面積	91,668.60㎡（うち駐車場部分　17,315.38㎡）
階　数	地下４階，地上23階　塔屋３階
最高高さ	108.050m
構　造	鉄骨鉄筋コンクリート造　鉄骨造
駐車台数	440台（内法定　326台）
工　期	1994年３月～1996年10月

都市の中の美術館
—名古屋ボストン美術館—

山脇佐江子

名古屋ボストン美術館は、1999年4月に金山総合駅の南側にオープンしました。美術館のある「金山南ビル」は、「名古屋ボストン美術館」の他に、「名古屋都市センター」「ホテルグランコート名古屋」「公共駐車場」が入居する複合ビルで、金山南地区の再開発の核として建設が進められたものです。

金山という地区は、名古屋の一番の繁華街である栄から3キロほど南にあたり、商店や、飲食店が並ぶ商業地区です。栄に比べてにぎわいも少なく、どちらかといえば場末のイメージがある場所でしたが、中心となる金山総合駅が、1989年7月に、JR東海道線、中央線、名古屋鉄道、名古屋市営地下鉄が乗り入れる総合駅として整備されてからは、1日の乗降客約348,000人を数えています。

美術館のある金山南ビルの建設は、これらの人々を街に呼びこむための金山再開発の核として、さらに将来的には金山駅の北側の開発を含めて副都心として発展させたい、という大きな期待がかけられていたのです。

従ってこの名古屋ボストン美術館設立プロジェクトの位置付けを以下のように整理してみました。

1．いままでにない発想のユニークな美術館
2．複合ビルの中の美術館
3．金山駅前という利便性と都市再開発

まず、1に関しては、「名古屋ボストン美術館」が独自のコレクションを持たず、米国ボストン美術館の「姉妹館・専用展示館」として、ボストン美術館の所蔵品を展示するという、これまでにない世界で初めてのユニークな試みであることです。よく知られているように、わが国とボストン美術館は、ボストン美術館創立当初から120年以上にもわたる関係があり、日本人にとっては欧米の美術館の中でもとりわけ知名度があり、親近感を抱かせる美術館です。

特にボストン美術館の日本美術を中心とする東洋美術のコレクションは、わが国を別にすれば、欧米では質量ともに最大といわれ、それらボストン美術館の名品が日本に居ながらにして観られるというのは大きな魅力でした。

独自のコレクションを持たないため、美術館としての存在意義を懸念する意見もありましたが、名古屋が発信地となる国際的なプロジェクトの誘致として期待されたのです。

結果的には全国的に通用するスポット（観光名所）ができたと受け止められたのではないでしょうか。

次に2に関して、美術館のある「金山南ビル」は、地下4階、地上31階、敷地面積約4,600平米のランドマーク性の高い建築です。入居している「都市センター」は名古屋のまちづくり・都市計画に関する展示、資料収集、情報提供、展示を行う施設で、図書館、展示スペース、会議室などを備えています。

「ホテルグランコート名古屋」は、グレードの高いシティホテルで、客室246室の他に種々のレストラン、結婚式場、宴会場などを備えています。

従って名古屋ボストン美術館には、独立した美術館のようなゆとりは望めませんが、複合ビルの利便性を生かし、他の施設と相互利用することで、互いの機能をより発揮させるよう相乗効果をはかろうとしています。相互に施設の利用案内を掲示・配布するのはもちろん、ホテルの宿泊客には美術館の優遇措置、美術館のメンバーシップにはホテル利用の優遇措置を行うなどの一般的なサービスの他に例えば、美術館には喫茶スペースやレストランがないので、変わりにホテルのロビーや喫茶室、レストランを利用してもらうようにしています。

美術鑑賞のあとで夕食といった利用法を提案して金曜日は夜9時まで開館し、週末の夜をゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。金曜夜は美術館でも映写会やギャラリー・トークなどの催しを行っています。夜9時までという遅い時間設定も、ホテルと同一ビルであること、駅前という利便性を考慮してのことです。

また夜間に美術館のロビーなどに、ホテルのケータリングを頼み、ちょっとしたカクテル・パーティ付きの特別鑑賞会を行ったり、ホテルで結婚式を挙げるカップルが美術館の展示室の好きな作品の前で写真を撮るというような特別なプランを実施しています。

美術館にはレクチャーのためには小さなスペースしかありませんので、大規模な講演会や特別な講座は、ホテルとタイアップしてホテルの宴会場を利用したり、都市センターのスペースを利用して行っています。ちなみにホテルは、「美術館のあるホテル」をキャッチコピーの一つにしています。

3については、「施設づくりがこの地の文化、地域への起爆剤になりうるか」という命題にまさに重なってきます。ここでは、「名古屋ボストン美術館が金山の起爆剤になりうるか」といっていいでしょうか。答えは、ノーであり、イエスでもあります。言葉を換えると、「美術館はどうあるべきか」という問題と「金山の未来像」との関連です。

人々が美術館に求めるものは何でしょうか。望ましい美術館とはどういう美術館でしょうか。

先に、複合ビルにおける利便性と相互利用を述べましたが、実際のところセキュリティのグレードが最高位の美術館と最も開放性が求められるホテルとは、動線上分断されることが多く、同一ビルの

良さが最大限に発揮されているとは言い難い状態です。

また、普段美術館の事業を進めている立場からすれば、望ましいのは、いつでもフレキシブルに使用できる講堂などの施設、美術鑑賞の余韻を楽しんだり、鑑賞の合間に自由に利用できる美術館にふさわしい雰囲気の喫茶室やレストランを自前で備えることです。しかし本質は、個別の設備の問題ではなく、新しい体験の場にふさわしい舞台装置――すなわち美術館の建築・デザインや周囲の環境も含めた「美術館をとりまく風景」のデザインがなされていなければなりません。今の金山にそれはあるでしょうか。

残念ながら、ノーです。

もう一つの側面は、「美術館」という文化・教育施設の性格からくるものですが、美術館は起爆剤としてより、むしろ時間をかけてゆっくり育てていくもので、それが他の娯楽施設や商業施設と異なるところです。10年、20年の長いスパンでその活動の成果を考えていくべきものです。継続性・永続性のもとにその活動の意味がある施設なのです。その意味でこれからの長い目でみた金山の未来像、再開発のビジョンはどうなのでしょうか。美術館の長い活動をサポートできる金山の未来ビジョンがあるのでしょうか。金山のなかなか進まない周辺整備に、美術館もしくは、金山南ビルだけで持ちこたえていけるのでしょうか。

金山再開発の長期ビジョンの中で、美術館がどのように位置付けられているのでしょうか。

イエスという答えに関しては、条件付です。施設が単なる箱ではなく、人とシステムとが有機的に機能するための「場」となりうるなら、イエスです。そのためには先に述べたように、長い目でみて育てていくという視点が必要です。ひとつの施設を作って終わり、というのではなく、ソフトを支えていく継続的なサポートが不可欠です。

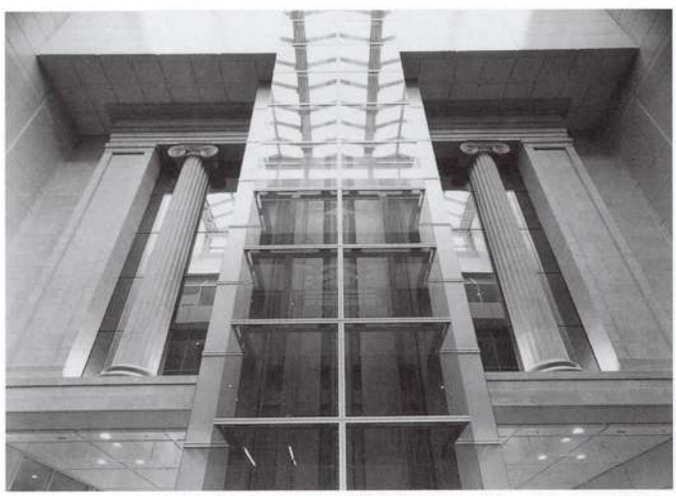
美術館では50年、100年という時間の単位が、あまり驚きもなく言い交わされます。現に米国のボストン美術館は1876年の開館ですから、127年の歴史がありますが、さらに大規模な拡張計画を掲げて将来のニーズにそなえようとしています。

この地のデザインやものづくりに対する理解は、目に見えるものに限られているように思えます。デザインやものを生み出す技術だけでなく、その精神を支える文化を育てることが求められており、美術館などは、まさにそこで成り立っているものです。文化や教育にかかわる問題に、余りに効率を求め、性急な結果を求めすぎるのではないでしょうか。

（やまわき　さえこ／元名古屋国際芸術文化交流財団）



美術館側からみた金山南ビル
（手前に張り出した部分が美術館）



インターコモンの壁を飾るボストン美術館をイメージしたモニュメント
（中央は都市センターへのシースルーエレベーター）



「古代地中海世界の美術展」会場風景

［施設づくりと地域文化の広がり］

長久手町文化の家

川上　實

長久手町文化の家は、「長久手町文化マスタープラン」が掲げる「各層各年代の町民が自らの芸術文化創造活動を展開する家、優れた舞台芸術を鑑賞する家、学習する家、交流しくつろぐ家、そんな“我が家”」であることを目標に1998年7月に開館した。4年半前のことである。近隣の市町では既に殆どがこの種の施設を整えていて、遅い出足であったと言える。

施設としては、1．情報ラウンジなどの交流・情報系のスペース、2．舞踊室や音楽室などの学習・創造活動のスペース、3．学習・創造したものを発表し、また鑑賞するためのホール系スペースという、大きくは3つの機能空間から成っている。このうちの交流・情報系スペースと学習・創造スペースは建築的に一体化され、16室からなるこの施設を「アートリビング」と呼んでいる。もう一方の「ホール系」はこれに寄り添うように配置されている。

従来の公共施設では分離して置かれることの多かった学習・創造のスペース（アートリビング）とホール系スペースの両者が並置され、廊下やブリッヂで有機的に結ばれているのが特徴である。

この構造は事業展開のコンセプトと一致し、アートリビングでの学習・創造活動とホールでの発表・鑑賞活動とは相互関連のものとして捉える。自主事業には「アートリビング講座」が年間約35種、音楽・演劇などホール系事業約35本、美術の企画展約9本があり、ほかに映像鑑賞会、ガレリアコンサートや音楽デリバリーを行っている。

「アートリビング講座」は町の社会教育課が主管する生涯学習講座とは別立てで，「戯曲セミナー」のような特化された講座を中心に開講し、「ヴァイオリン講座」のように習熟度別コースを設けており、「文化の家創造スタッフ」と呼ぶ若い芸術家や専門家が中心に指導に当たっている。

受講者が単なる学習の域を超えて創造的なレベルにまで達することを目標としているが、講座終了の時期に大小のホールや展示室で行われる「アートリビング講座発表会」はこうした意図によるものであり、レベルは年ごとに高まっている。

自主事業とは別の、貸館による定期的な利用者の場合も同様で、例年12月には「長久手町文化の家フェスティバル」が設けられ、2002年度は31団体が舞踊・音楽（2日間）、美術工芸〔1週間〕の発表会をもった。芸術的な深まりへの期待は、文化の家を拠点として活動するすべての人に向けられている。

他方、内外からの招聘公演を始めとするホール系の事業については、関連講座やワークショップ、公開レッスンや参考資料展示など、多様な関連事業を積極的に組み込んで、動機づけやさらなる創造意欲に結びつけようとしている。

地域文化の「広がり」は、人々の創造的ないしは芸術的「深まり」ということを抜きにして考えることはできない。これに関する文化の家のこれまでの成果を、左記の講座発表会から具示することはできないが、文化の家が開館と同時に結成した町の劇団と合唱団の成長ぶりで見ることができよう。劇団（現在の団員25名）は、今は定期公演のほかに、プロ劇団と並んで公演し、また団員自身の書き下ろしの戯曲を上演するなど、年間4回ほどの公演をこなし、多くの観客を集めるようになっている。また合唱団（現在の団員60名）はオーケストラ付きの定期公演のほかに年3回ほどの公演を行い、原語によるイタリアオペラに共演するまで育っている。

長久手町には4つの大学が点在し、なかでも文化の家にとって県立芸術大学の存在は大きい。地域への貢献という大学の使命とも相まって、文化の家の各種自主事業ではもちろんのこと、貸館事業でも教員や学生、卒業生がさまざまな形で活動を展開し、自らを開発しながらこの地の芸術振興に大きく寄与している。

文化の家の入館者は自主事業のために訪れる人のほかに、貸館による講座や公演、あるいは情報や交流のために来館する人など多様である。その数は年毎に増加し、月平均で1999年度は3万2千人、2000年度は4万4千人、昨年の2001年度は5万1千人となった。

2001年の末、文化の家は開館3年を経過したことを契機に町内在住者1,000人を対象にアンケート調査をおこなった。その結果をみると、文化の家を何らかの形で利用した人は47%であった。「家の都合や時間がなくて行けなかった」人（20%）や別の趣味の人もいるから、この利用率はかなり高いと言えよう。因みに芸術鑑賞をはじめとする文化・芸術に関心をもっていると答えた人の79%が文化の家を利用しており、3年の間に文化の家は町民の文化・芸術活動に大きな役割を果たすようになっているのが分かる。

この調査は町民に限ったもので、文化の家の利用者の約半分は町外の人たちであろうと推定される。文化の家は貸館のために利用者登録制度を設けているが、2002年3月現在で登録された延べ1,888団体〔または個人〕の内訳を見ると、町内在住のものは846団体（または個人）で全体の約45%に過ぎない。町内のものが半数未満というこの数は、月平均数万人の来館者の内訳にも通じるのではないかと推測される。文化の家は町内に限らず、周辺地域を含めた広域的な文化活動拠点として定着してきているようであり、これは文化の家の意図するところでもある。

この3年間で町民の芸術に対する関心度などにも変化が見える。同類のアンケート調査は開館に先立つ1995年にも行っており、2001年の調査結果と比較して経年変化をみると、オペラとバレエに関心をもつ人は2倍に、演劇では1.5倍、クラシック音楽では1.3倍に増



南側（左）はアートリビング北側は大小のホール



東カレリア

えている。この関心度の高まりは、文化の家の活動のみに起因しているという確証はないが、これらのジャンルは文化の家が特に力を注いで事業化しているものであることを言い添えておきたい。

しかし2001年度の例では、鑑賞系事業35公演のうち90%以上の観客動員を得たのが15公演あったのに対して、70%を下回ったのも12公演あった。公演も講座もその集客力については終わりなき課題である。公的な文化施設にとって地域文化・芸術の「広がり」への努力は不可欠の条件だからであるが、利用者からすると個々の創造的な深まりとか高まりということが関心事であろう。長久手町文化の家はこの点の配慮をしながら「地域文化の広がり」に取り組んでいる。

（かわかみ　まこと／長久手町文化の家）

愛知・名古屋 この地の文化・芸術と 建築・街づくりを 考える

岡崎市シビックコア地区整備計画

大賀治義

本市の南部及び南部周辺市町村の中心機能を形成するため、特に広域行政機能は、市内に点在する官庁施設の一部を道路・鉄道交通の利便性の高い新都心核に移転させ、シビックコア地区として、一体的なまちづくりを行い、拠点都市機能の圏域の拡大を考えています。この取り組みについて紹介します。

岡崎市は、愛知県のほぼ中央部にあり、矢作川と乙川、三河山地と岡崎平野の接点に位置しています。徳川家康の生誕地、三河武士発祥の地として悠久な歴史と伝統に育まれた都市です。

明治22年に町制を施行、その後隣接町村を合併して、大正５年７月１日に面積19.68㎢、人口37,639人（平成14年11月１日現在　面積226.97㎢、人口347,022人）で全国67番目に市制を施行し、西三河の教育、文化、金融、産業、交通等の中心として発展を続けてきました。

昭和20年７月には戦災により一夜で市街地の大半を焼失する被害を受けましたが、焦土の中から鋭意復興に努め、繊維工業、化学工業、機械工業を中心に、市域は昭和30年に９箇町村を合併し、昭和37年には六ツ美町を合併して拡大し、平成元年には人口30万人を達成し、西三河の中核都市から全国の中核都市（平成15年４月１日中核市移行）への仲間入りを果たしました。

市内には、近代工業の先端を行く輸送用等機器産業を始め、化学繊維工業と花火、石製品、味噌、仏壇等の伝統産業があり、農工商とも調和のとれた都市として発展しております。

背景と目的

・本地区は、交通拠点として明治・大正時代から発展してきた既成市街地ですが、近年は都市機能の低下と都市基盤整備の遅れなどにより、地区の地盤沈下が著しい状況にあります。
・永年の懸案事項であった都市基盤整備の岡崎駅東土地区画整理事業が平成３年に着手されました。
・区画整理事業にあわせ、交通拠点性を活かした望ましい土地利用計画の実現を図るため、新しい都市機能の導入・誘導が必要です。
・岡崎市全体としても、本地区を中心とする南部核の整備により、西三河の中核都市にふさわしい多核型の都市構造づくりが期待できます。
・このため、地区及び都市全体の要請から見て整備担保性が高く、広域性の高いシビックコア地区整備計画をまちづくり指針として位置づけ、計画的、一体的なまちづくりにより魅力と賑わいのある新都心の形成をめざします。

計画策定から承認までの経緯

平成４年３月　市議会　岡崎市駅周辺特別委員会設置
平成５年３月　シビックコア地区整備制度創設
平成６年１月　整備計画策定委員会設置
平成７年３月　建設省　ヒアリング
平成７年４月　都市拠点整備事業室の設置
平成７年12月　整備計画承認申請
平成８年２月　シビックコア地区整備計画建設省承認第１号

合同庁舎計画

第二次官庁施設整備10箇年計画（Ｈ２～Ｈ11）では、岡崎税務署、名古屋法務局岡崎支局、名古屋地方検察庁岡崎支部、岡崎区検察庁、岡崎公共職業安定所、岡崎労働基準監督署、東海農政局岡崎統計情報出張所の合同庁舎化が計画されました。

新しい風に乗り汽笛の聞こえるまちづくり

シビックコアの基本方針
・核となる２つの交流拠点の形成
・交流拠点を結ぶ交流軸上にクラスター状の民間拠点開発
・回遊性と賑わいのあるまちづくりの推進

［主要施設］
・岡崎合同庁舎
・シビックセンター
・（仮称）産業文化交流拠点

［関連都市整備事業］
・岡崎駅東土地区画整理事業
・まちづくり総合支援事業
・優良建築物等整備事業

設計・建設の推移

平成10年６月　岡崎合同庁舎に補正予算化
平成10年　　国と市の基本計画・実施設計の整合を図る
平成11年５月　岡崎合同庁舎着工
平成12年６月　シビックセンター着工
平成13年12月　岡崎合同庁舎竣工
平成14年３月　シビックセンター竣工

本事業のより一層の推進を図るため、地方公共団体を支援することを目的とし、公共建築物等に関し優れた企画力・構想力・豊かな経験等を有する学識経験者等からなるアドバイザーを中心に、シビ

ックコア地区整備推進連絡協議会を設置し、基本構想、計画策定、実施設計、建設等提言・助言をいただき、作業を進めてまいりました。

計画・設計段階での取り組み

広場を中心にそれぞれの建物の機能が持つ重要度等、広場を行き交う人々との解放感と一体性を持たせた施設とすること、シビックセンターにおいてはハートビル法の認定にも対応し、高齢者、身体障害者、健常者などの区別なく円滑に利用できることに配慮しました。

周辺の道路にはポケットパークを配置するなど、歩行者にとって安全で潤いのあることと併せて建物同様にユニバーサルデザインといった考えも併せ検討しました。

最終点に、交流拠点に３つのコンセプト「賑わいの創造」「地域社会のコミュニティーの強化」「環境との共生」また、国と市の一体的整備の中で建築の大きなテーマとして「グリーン庁舎」を目指すこととしました。

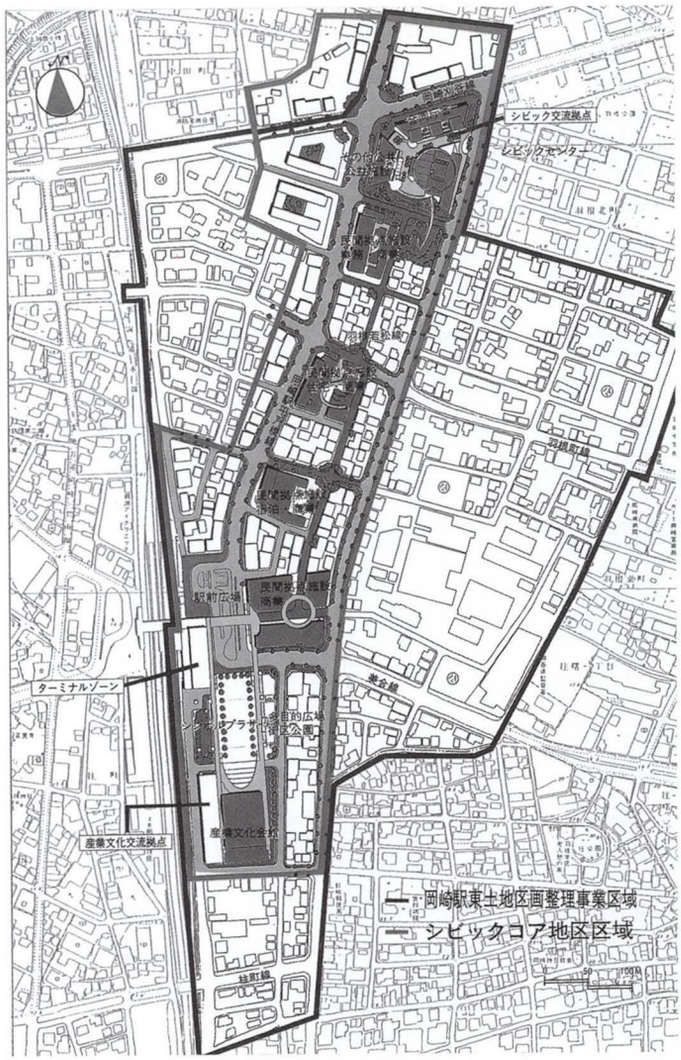
現状と今後の展開

シビックコア地区（18.4ha）の北に位置するシビック交流拠点が平成14年４月にオープンし、岡崎の南の玄関としてふさわしい賑わい・活力・魅力あるまちづくりを先導する施設となるわけです。

この中心にあるコンサートホール「コロネット」の週末の予約状況は一年先まで一杯です。あわせて広場でのイベント開催等も積極的に実施しており、施設利用者の数は順調に伸びています。また、地区の南には（仮称）産業文化交流拠点としての構想があり、その両交流拠点を結ぶ民間拠点エリア進展のために、平成12年12月に住民主体の自主的なまちづくりの推進組織「シビックコア地区まちづくり協議会」が発足しました。シビックコア地区18.4ha、21街区、200余名の住民のリーダー的存在になるメンバーで構成され、この地にふさわしい「手づくりのまちづくり」を自らの発想と取り組みで進めることを目指しています。

今後は、地元・関係諸団体・行政が協力体制をつくり支援することにより、より一層の住民参加の活動展開を促し、「夢のあるまちづくり」の実現を目指し、将来的には拠点の利用者が50～100万人／年間を見込むものであります。

（おおが　はるよし／岡崎市都市整備部部長）



シビックコア地区整備イメージ図


岡崎シビックプラザ

文化の新しい発信地

―豊田市コンサートホール＆能楽堂―

平成10年11月、文化の新しい発信地として、豊田参合館内に「コンサートホール・能楽堂」が誕生しました。「和」「洋」の古典をセットにした他に誇るハイグレードな施設を整備し、文化都市“豊田”を全国にPRします。

豊田参合館は、魅力ある都心整備を図るため、豊田市の表玄関である市駅前に建設された文化的なシンボル施設です。

館内は、商業施設と豊田市中央図書館、コンサートホール、能楽堂の大規模複合文化施設を持つ多目的な機能を備え、地下２階、地上13階、地上約65mと市内では一番高いビルでもあります。８階・９階が豊田市能楽堂、そして10階から13階が豊田市コンサートホールとなっています。

豊田市コンサートホール

豊田市コンサートホールは、「クラシック音楽専用ホール」として位置付けられ、生演奏に最適なシューボックス型を採用しています。残響時間は満席時約２秒と、理想的な音の空間を作り出しています。

客席数は1,004席、車椅子席６席、合計1,010席です。その内194席を２列のバルコニー席に配分し、端正なデザインの古典的な雰囲気を創りだしています。客席の前４列は、オーケストラピットとして利用できるよう取り外しが可能となっています。

ホールは石と木で造られており、暖かい雰囲気を醸し出し、天井の12基のシャンデリアは豪華な雰囲気を演出しています。

ホール自体は大きな楽器の役割を果たしており、声楽、弦楽器のソリストからも高い評価をいただいており、音響のすばらしさは当ホールの自慢するところであります。

クラシック音楽鑑賞として、市内の中学３年生全員を対象とした「心に残る記念事業　中学生のためのコンサート」を開催していることも大きな特徴です。

また、2003年（平成15年）７月末には、世界最高の技術と名声を誇るアメリカ、ジョン・ブランボーJohn Brombaugh社のパイプオルガンも設置されます。

豊田市のオルガン

パイプオルガンの歴史は長く、紀元前２～３世紀にギリシャの機械技師クテシビオスが発明したと言われています。オルガンはキリスト教会に設置されている楽器と思われていますが、オルガンの約2200年の歴史の中で、教会で使用されているのはここ600年ほどです。それ以前は、競技場や婚礼などの重要な儀式の中で、場を盛り上げるために使用されていました。現在、ヨーロッパ各地のコンサートホールにオルガンが設置されており、オルガンとオーケストラや合唱との組み合わせで様々な作品が作曲されています。

当ホールのオルガンは、ブランボー氏が37番目に製作した楽器です。これまでに彼は、アメリカ、カナダ、ヨーロッパのスウェーデンに納入の実績があり、アジアでは初めての楽器で、全ての部品を昔ながらの伝統を守り、手作りで製作しています。オルガンは本体と２つのリュックポジティフと呼ばれる部分とに分かれています。リュックRückとはドイツ語で背中、ポジティフは小オルガンの意味です。本体部分の大オルガンと小オルガンとのコントラストが１台の演奏台で効果的に演奏できるようになっています。

オルガンのデザインもブランボー氏自身が設計しており、客席のどの座席からでも演奏者がよく見えるようになっています。2003年７月末に完成を予定しており、現在はパイプ約3,900本を一本ずつ整音、調律しているところです。

専属オルガニストは、国内はもとより海外でも大活躍している椎名雄一郎氏であります。椎名氏は、東京芸術大学大学院修士課程音楽研究科オルガン専攻を修了し、現在、ウィーン及びスイスでオルガンの研鑽を積むかたわら、国内外の主要なホールで演奏をしています。2002年８月には、北ドイツ放送局音楽賞国際オルガンコンクールで優勝するなど、今までに多くの賞を受けています。

豊田市能楽堂

桃山時代の武家を象徴する文様やデザインが施された玄関は、ぬくもりを伝える檜づくり。ロビーは、ひんやりとしたグリーンをベースとした色調になっています。ロビーの壁面には、陶芸家故加藤唐九郎氏の作品を、三男の加藤重高氏、孫の高弘氏の手により、能楽堂ロビーの壁面にふさわしい形に蘇らせた作品があります。芸術的な香り高い素晴らしい作品で、豊田市能楽堂の大きな特徴でもあります。また、ロビーには、開演までのひと時や休憩時間に薄茶を飲んでいただける立礼席が設けられています。

切妻造りの屋根と総檜張りの能舞台は、和の世界に満ちており、そこを訪れた人たちを「雅」の世界へ引き込んでくれます。能楽堂の内部は、檜と漆喰調で仕上げられており、落ち着いた桃山風の雰囲気を醸し出しています。また、切妻造りの能舞台屋根は、広さと開放感を感じさせ、客席と舞台の一体感を創りあげています。

能楽堂の客席数は、458席（正面205席、中正面127席、脇正面126席）と車椅子席３席、合計461席です。

能楽堂のシンボル「鏡板“老松（おいまつ）”」。作者は、東京芸術大学大学院教授、日本美術院評議員の田渕俊夫氏です。田渕氏の鏡板としては、初めての作品です。様々な場所で鏡板にふさわしいものを探され、

四国高松の栗林公園の松をモデルにされました。

楽屋は5部屋あり、床の間を有する2部屋と3部屋が一つになると大きくなる畳の部屋、そして板の間である装束の間があります。囃子方の部屋には焙じ室も用意されています。

能楽堂は、能・狂言ばかりでなく、琴、三味線、尺八などの邦楽をはじめ、ホールで上演されているような弦楽四重奏やフルート、ハープなどのクラシック音楽の演奏会や、日本舞踊、詩吟など他の伝統的な舞台芸術にも利用できるようになっています。目新しいものとして結婚式（人前結婚）や着付けショーなどにも幅広く利用されています。また、コンサートホール同様、次代を担う市内の中学1年生全員を対象に能鑑賞教室を開催しています。

文化の発信地として

コンサートホールのオルガンが設置された段階で、ハード面は全て出来上がることになります。現在、コンサートホール・能楽堂での自主事業として、質の高い一流の公演をはじめ、愛好者を増やすための講座や市民参加事業の充実に努めるとともに、貸館施設としても多くの皆さまにご利用していただいています。魅力ある都心整備を進めるにあたり、コンサートホールは、クラシックを中心とした音楽専用ホールとして、また、能楽堂は、伝統様式に基づく本格的な能舞台として、形状、機能を損なわない範囲で「創造的で個性的な舞台空間」として利用促進を図ることが大切です。

市民の理解を得て、自主事業を計画的に実施し、質の高い芸術を国内外に情報発信する役割を担うとともに、このコンサートホール・能楽堂を含めた豊田参合館が、市民が参加し、文化と触れ合う、新しい街づくりの拠点「感動空間」となることを目指します。

（須藤角男／豊田市コンサートホール TEL0565-35-8200）



駅前にそびえ建つ豊田参合館



豊田市能楽堂能舞台



豊田市コンサートホール



豊田市能楽堂ロビー

「建築と社会」誌

特集一覧●1979~2000

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1979 vol.60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン＊	●商業空間＊	●コンクリートのひびわれ	●日影規則＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 vol.61	●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 vol.62	●職能論＊	●中国の論文―北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法―安全な環境をめざして＊	●都市住宅―住まい手からの発想＊	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 vol.63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設―地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観―まちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第1期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 vol.64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 vol.65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル＊	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展―＊	●建設産業とロボット開発＊	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々＊	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 vol.66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 vol.67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり―I―	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―II― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 vol.73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―＊	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―＊	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	●屋台―仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音―騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江―その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念／建築と私と社会―80人の眼―	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり―	●東海支部会員作品2000 越中・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る―測定方法と測定結果が意味するもの―	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法―パートII―	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ―わざ、もの、こころ―	●時間	●私の空間作法―会員作品― ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者

＊は欠号

京都市まちなみ審議会の提言と具体化

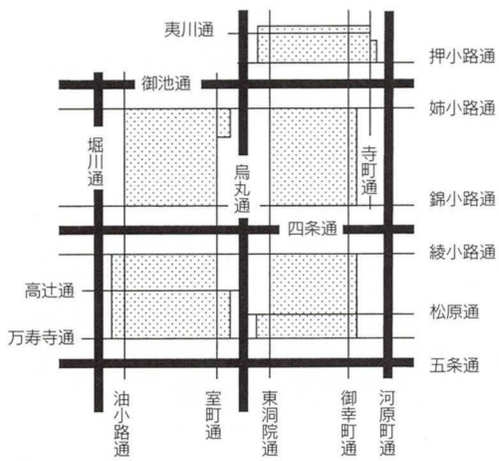
青木正文
京都市都市計画局都市企画部都市づくり推進課

京都市まちなみ審議会

京都市では、歴史と伝統と文化の蓄積のある京都市都心部において、調和を基調としたまちなみのあり方及び都心居住のあり方を検討するために、「京都市都心部のまちなみ保全・再生に係る審議会」(座長：青山吉隆京都大学大学院教授、略称：「京都市まちなみ審議会」) を平成13年１月に設置し、計７回の審議会や市民シンポジウムなどを開催し、平成14年５月14日に提言をいただいた。

提言の概要

提言の概要は、以下のとおりである。



• 職住共存地区／都心部の幹線街路に囲まれた内部地区
• 現在の都市計画内容／容積率400%、高さ制限31m

図１　職住共存地区（▨部分）

(1) 職住共存地区（図１）を対象として、直ちに実施に向けた検討を行うべき方策

①高度地区の変更

これまでどおり31mを上限としつつ、20mを超えるものに対しては、採光や通風といった周辺の環境に対する配慮を義務付ける。また、道路から見た建物の圧迫感を和らげるための斜線規制を設ける。

②美観地区の指定

市街地景観の整備を目的として、京都市が条例に定める美観地区制度を、職住共存地区にも適用させて積極的な景観整備を目指す。

③特別用途地区の指定

これまでどおり容積率の上限を400%としつつ、にぎわいの観点から、低層部分に店舗などを有しない住居専用の共同住宅については、上限を300%とする。

(2) 残された課題として検討を深めるべき方策

①町家の継承を可能にする仕組みの構築や技術の開発を強く求める。

②文化財と周辺環境の保全を検討すべきである。

③高層マンションの建設に対する法定外目的税を、京都市の検討の一環に加えるべきである。

④緑の継承と新たな緑の創出が望まれる。

⑤一定の建築行為に対して、地域の思いが伝えられる仕組みを検討すべきである。

⑥幹線道路沿道地区については、にぎわいの観点から、低層階への店舗等設置を義務付けるなど適切な規制・誘導策を検討すべきである。

提言の具体化

提言で述べられた「直ちに実施に向けた検討を行うべき方策」について、具体化（新しい建築のルール）を図った。(図２)

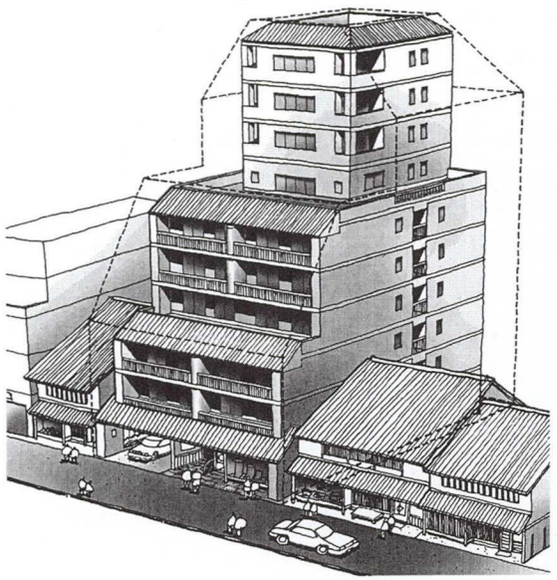


図２　新しい建築のルールで誘導する共同住宅のイメージ

①高度地区の変更

新たに「31m第一種高度地区」を設定する。内容は、まず第一に、お隣や裏のお宅に配慮していただくために、20mを超える部分について、住居系の隣地斜線を適用し、後退していただく考え方である。第二に通り景観の観点から、道路斜線の緩和を見直すものである。

②美観地区の指定

職住共存地区にまだ数多く残る町家と調和した都市景観を保全していくため、美観地区第４種を指定する。これにより、京都らしいまちの表情づくりを目指すものである。

③特別用途地区の指定

「職住共存地区特別用途地区条例」を定めた。内容は、第一に都心としてのにぎわいを確保するため、容積率が300%を超える共同住宅は、店舗などの設置を義務付けるものである。第二に、キャバレーなど一部の風俗営業についても、併せて制限するものである。

＊

以上の新しい建築のルールについては、平成15年４月１日から実施していく予定である。

（あおき　まさふみ）

土壁から探る古建築の地震被害

西澤英和
京都大学工学部、京大工博

兵庫県南部地震の木造被害

兵庫県南部地震では約12万棟の木造家屋が倒壊、6500名の人命が失われたが、地震の直後から、なぜか木造の専門家は「瓦屋根」や「土壁」が悪い、伝統木造には耐震性がない、あるいは伝統家屋が倒壊して大量の犠牲者を出したのだ、などの主張を繰り返した。[文献1)、2)] こうして急激に広まった伝統木造への不信感は、全国的な規模で伝統木造建築の解体に拍車をかけ、棟梁や左官、瓦職などが営々と受け継いできた伝統建築技術体系をいまや完全に崩壊の淵に追いやってしまったようである。

だが、このような仮説は果たして正しいのだろうか？おびただしい犠牲者を出したのは、実は戦後に制定された「建築基準法」や「学会規準」あるいは「住宅金融公庫仕様」に準拠した「現代木造住宅」の方であって、伝統木造建築などではなかったはずである。なぜなら神戸は大東亜戦争末期の無差別絨毯爆撃によって灰塵に帰し、戦後の建築規則に従って再建された戦災復興都市。したがって、戦後50年を経た今日では、伝統木造家屋はごく少数の例外的な存在に過ぎなかったからである。誰が考えてもわかる話である。

いずれにせよ、ほとんど存在しなかった伝統木造に震災の責任を転嫁する一方、戦後強力に推進されたいわば「学会スタイル」とも言うべき戦後の木造住宅がなぜこれほどの大被害を出したのかなど、現代木造が内包する耐震上の根本的な課題をいまだ明確にしない専門家の姿勢が改めて問われている。

因みに、今回の地震の水平加速度は基準の５倍、さらに震源域での最大衝撃加速度では実に2500倍もの大きさに達したとの指摘があるが、[文献3)] 適切に維持修理されていた伝統建築では大きな被害が発生しなかったことが、歴史的建造物の調査から明らかにされた。[文献4)]

最近の話題－土壁から過去の大地震を探る

さて、本節ではやや変わった土壁研究のアプローチとして、古建築の「土壁の発掘」の話題について紹介したい。

常識的な話だが、土壁に力を加えると変形量や応力の方向に応じて特有の「チリ切れ」や亀裂を生じる。したがって例えば既存建物の土壁に亀裂があれば、その分布性状や亀裂幅から過去に最大どれくらいの変形を受けたのかをおおよそ推定できるはずである。ある



写真１　国重文寶塔寺本堂（修理前）

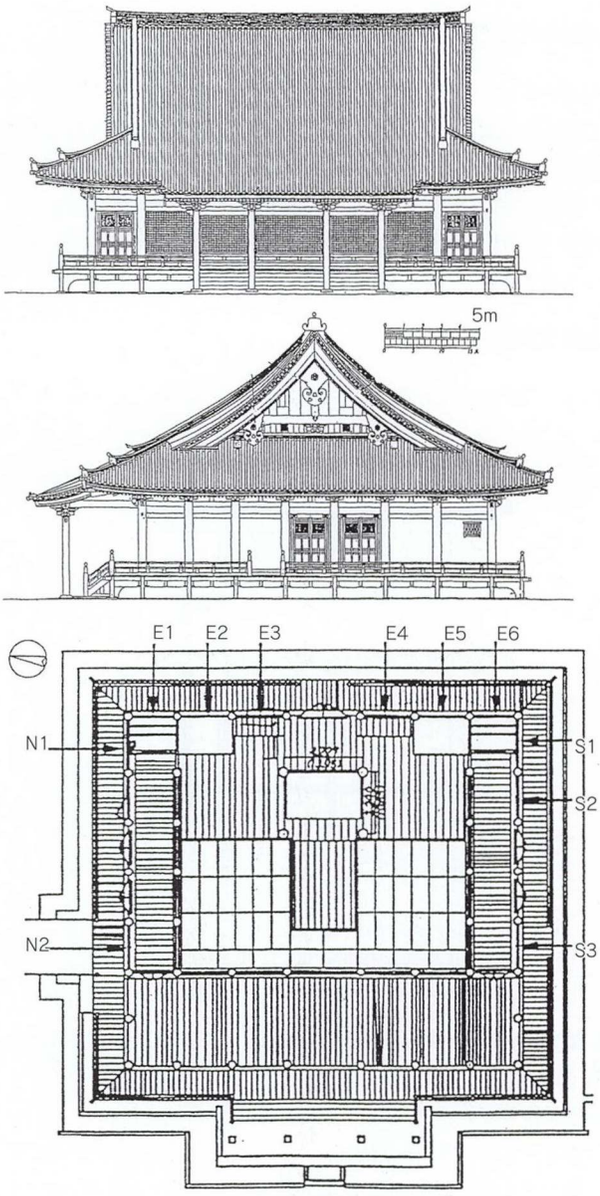


図１　寶塔寺の正面図と平面図

いは全く同じ仕様の土壁を新たに作製して、載荷実験を行い既存壁に近い亀裂を発生させることができれば、そこから壁のエネルギ入力量などを再現評価することもできるであろう。

そのような考えに基づき、私どもの研究室では、古建築の「土壁」に残された亀裂の痕跡を精密に調査し、古文書などの歴史資料と照合することにより過去の震災の実態を克明に把握できることを確認した。そしてこのような手法を文化財建造物等の保存修復に適用し始めているので、気楽にお話ししよう。

写真１は、この方法を初めて適用した京都市伏見区の国重文深草山寶塔寺の本堂である。正面図と平面図は**図１**に示す通りである。

当該本堂は着工直後の1596年に慶長伏見大地震を震源域で経験し、その後10年以上かかってようやく竣工した。なお、京都市近郊の古社寺などはいずれも1662年の滋賀県湖西を震源とする寛文大地震（M7.6）、1751年の京都直下地震（M6.4）、1830年京都西方で起こった文政大地震（M6.4）、及び1854年の安政奈良地震（M6.9）などの激しい揺れを経験している。にもかかわらず、当本堂をはじめ

京都市周辺内陸直下型地震の歴史的建築物には倒壊などの報告がほとんどみられない。この理由を検討する上でも、創建以来一度も根本修理が行われていない当本堂に残されたオリジナルの土壁は、耐震工学的にみても大変貴重であると考えた。

さてこの本堂の土壁のチリは丸柱にしてはかなり浅く、異様に壁厚が大きい印象を受けたが、それにしては兵庫県南部地震の際に隅角部の漆喰仕上げや大壁の中央に軽微な縦亀裂を生じたことがやや不可解であった。

そこで、図1の矢印に示す本堂の南北、東面の壁面について、厚さ数ミリずつ丁寧に壁を削り落として、亀裂の状況を精密に実測した。例えば平面図の矢印N1に示す東北隅の壁をすこしずつ剥離して観察したところ、**図2**に示すように実に7層の補修跡が確認された。調査の結果、第2補修層から安政年間の勧進帳の反故紙が塗り籠められていたことから、この亀裂は1854年の安政奈良地震によるものと判断された。また、それより下層には蚊帳や藁など時代によって異なる亀裂補修材が用いられており、これらも上記の京都周辺の大地震に一致することがわかった。そして、最下層から1596年の慶長大地震の際の激しさを物語る荒壁の生々しい補修跡が検出された。どうやら当該本堂は屋根瓦を載せ、荒壁だけをつけた最も不利な状態で慶長伏見地震の直撃を受けたようで、崩落した荒壁を塞ぐために、砕けた瓦を塗り込んだりして応急補修したことなどがわかった。またこの地震では東西方向の揺れが強かったらしく、南北両面の被害が東面に比べて著しかった。

いずれにせよ、この本堂では震災後、被害を受けた土壁は解体せずに亀裂を部分補修して、表面に仕上げを塗り重ねて度重なる大地震に耐えてきたのであって、補修を重ねた土壁には過去の大地震の履歴がちょうど磁気テープのように克明に記録されていることが明らかになった。

なお、同一の壁を複製して加力実験を行ったところ、1回の大地震後の亀裂補修により土壁の耐力は新設壁の8割程度まで回復することがわかった。そして過去数回の地震によって現状の土壁の強度は当初の約半分に低下していると推定された。

こうして、昔の地震の規模や被害の大きさを、歴史的建造物に残された土壁の被害の痕跡から推定できることを確認するとともに、文化財修理においてどの程度の耐震補強を行うべきかを判断するための有力な目安が得られることもわかってきた。

なぜ、このような学術調査ができるのか？それは、古来、日本では震災を受けても土壁は解体せずに、丁寧に修理するのを原則としてきたためである。つまり、土壁が地震で傷んだ場合には、亀裂の周囲を水で濡らして粘土を溶かして、藁などの補強材を塗り込み、その上に仕上げ層を塗り重ねる手法ー「泥こすり」といわれる修理手法ーがとられた。そのため、過去の被災履歴の補修跡が完全に保存されてきたのである。こうして、寶塔寺などでの研究調査の結果、日本ではほとんどの建物の壁や柱や梁などの主要構造体は、解体することなく維持保全されてきたらしいことが明らかになった。

しかしながら、明治以降の文化財修理で「解体修理」というそれまでは例外的だった極めて特殊な手法を一般化させたことが、耐震工学的には取り返しのつかない大きな損失を招いたことは否めない。これ以降、土壁は大抵完全に解体して、造り替えるようになった。その最大の理由は、日本古来の土壁は耐震強度がない、そのため、西洋風の筋違を入れるべきであるとの、明治以来の建築構造学者の洋学崇拝と自国の伝統技術をさげすむ姿勢があったからしい。その結果、木造部材は曲がりなりにも保存されたが、何百年も風雪に耐えた建築の土壁も大抵は徹底的に解体撤去して造り替えられた。こうして、耐震工学的に極めて貴重な歴史地震の痕跡は完全に失われたのである。構造学者が専門外の歴史建造物に深く関与することの戒めとしたい。

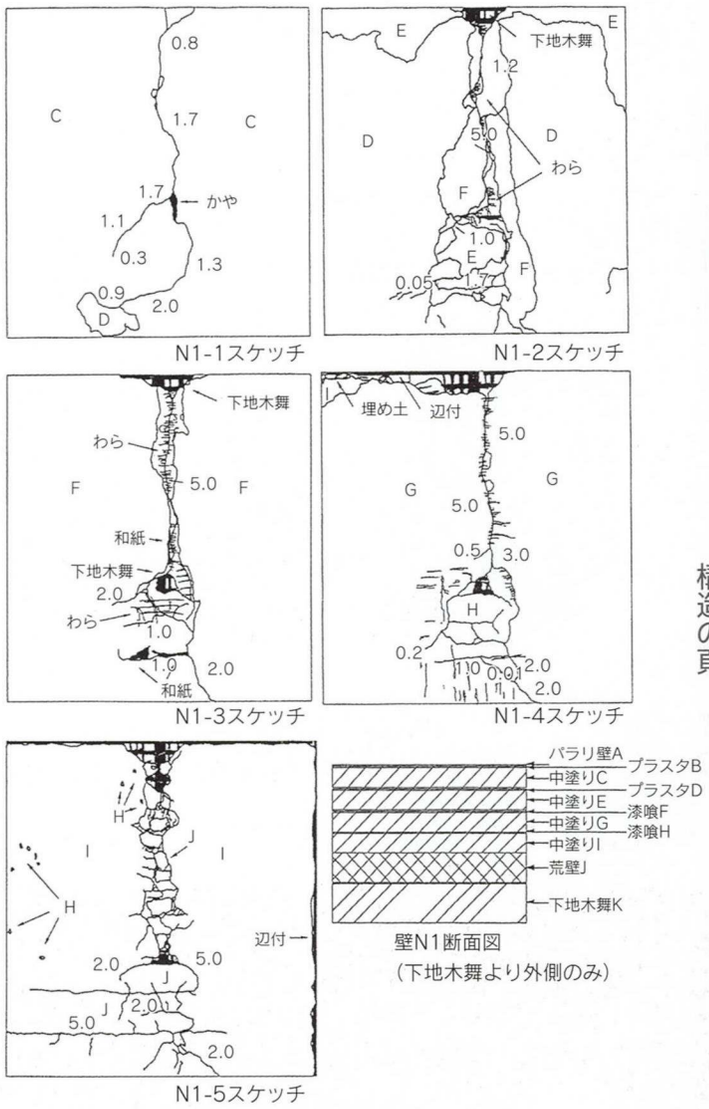


図2　壁の亀裂の分布状況

しかしながら、最近ようやく、古来より伝統左官の技術として継承されてきた「泥こすり」などの修復手法によって、損傷した土壁も部分修理によって十分強度が回復できることが学術的にも明らかになった。こうして、寶塔寺などで「茶席」と同様、壁を解体しない保存修理が試みられるようになったことは喜ばしい。

参考文献

1）杉山英男：地震と木造住宅　1996年　丸善
2）坂本　功“伝統構法の構造解析と補強”structure no.74 2000.4
3）大野友則、井元勝廣“衝撃的地震動の計測・記録における問題点”都市直下型地震による構造物の衝撃破壊の解明と防止策に関するワークショップ　平成11年12月　p165～171
4）加藤邦夫代表：文化財建造物の耐震的保存方法に関する研究　基盤研究A－1　07300004　平成9年3月

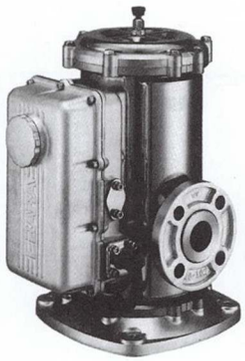
（にしざわ　ひでかず）

ヘルツフリーのコンパクトなポンプ

斎藤俊行
㈱荏原製作所大阪支社新・省エネ営業部部長

㈱荏原製作所では環境への負荷低減を目指して、「省エネルギー・省スペース・省資源化」という発想で、高速化と可変速にすることにより、従来のポンプとはまったく異なる形状と性能をもつヘルツフリーポンプを開発した。

ポンプは、給水及び空調設備用として数多く使用されているが、建築で使用されているポンプで問題が起こるのは、配管に伝わる騒音・振動、また起動・停止時に起こるウォーターハンマーなどである。これらの問題はヘルツフリーポンプを採用することにより起こらなくなる。





(1) 省エネルギー

ポンプの場合、必ず余裕のあるものが使用されている。本ポンプは8段階に可変にでき、適正な要項で運転できるため、平均すると35%以上の省エネとなっている。

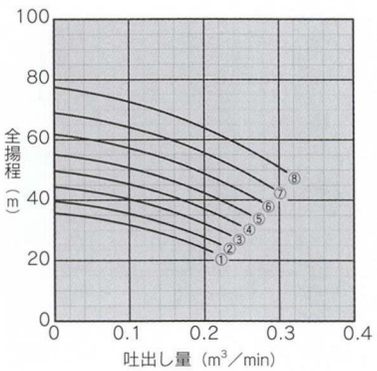
■つまみNo.と出力周波数（回転速度）特性

つまみNo.	8	7	6	5	4	3	2	1	0
出力周波数(%)	100 (max.)	95	90	85	80	75	71	67 (mim.)	停止

■操作・表示部

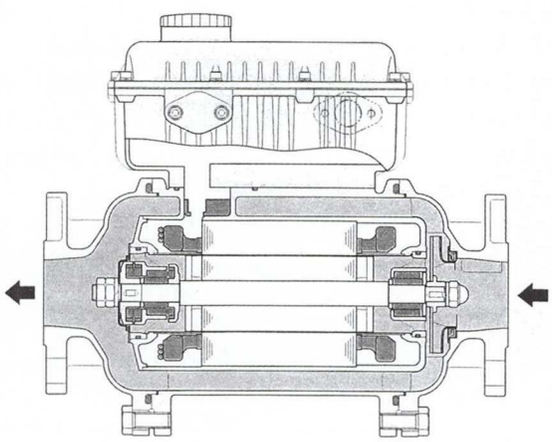


マニュアル運転



ポンプ性能曲線例

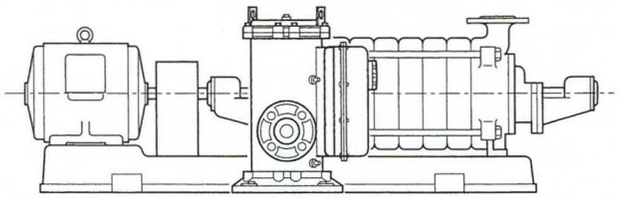
(2) 省スペース



ポンプの中にモータを納めるバレルドモータ方式の採用と、マニアルインバータによる高速化で、大幅なコンパクト化を実現した。

(3) 省資源化

ヘルツフリーは、従来の多段ポンプと比較して約1/3のエネルギーで生産できる。これは、小型・軽量であるため使用素材量が少ないことにより達成している。

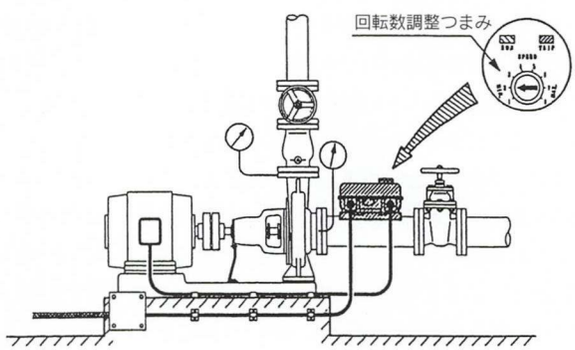


その特徴

(1) バレルドモータにすることにより、騒音値が大幅に下がった。
(2) ノンシールにすることにより、グランドパッキン等のメンテナンス部品をなくし、また水漏れを完全にシャットアウトし、ポンプ周りを常に清潔に保てる。
(3) インバータを搭載することにより、ソフトスタートで始動時の衝撃が小さく、機械の長寿命化と静粛性が図れる。外部信号により流量制御が可能である。また、ユニットの場合、50Hz/60Hzで共通のポンプが使用できる。
(4) 接液部がステンレスなので、赤水の心配がない。
(5) 振動対策で防振架台を付ける場合、従来のポンプでは大きなスペースを必要とするが、本ポンプは防振パッドで良い。

まとめ

省エネ法の改正で平成15年4月1日より、年間600万kWh以上の電力を使用している施設は工場と同様に省エネが義務づけられる予定である。ヘルツフリーポンプは、省エネ・省スペース等あらゆる面で建築用として最適なポンプである。



ヘルツフリーコントローラ

ポンプは、すべて大は小を兼ねるということで、大きな動力で使用されており、必ず省エネができるため、既設のポンプに対しては、ヘルツフリーコントローラを開発し、新設及び既設を含め無駄な動力を削減するべく提案している。

（さいとう　としゆき）

研究を最前線を追う

14

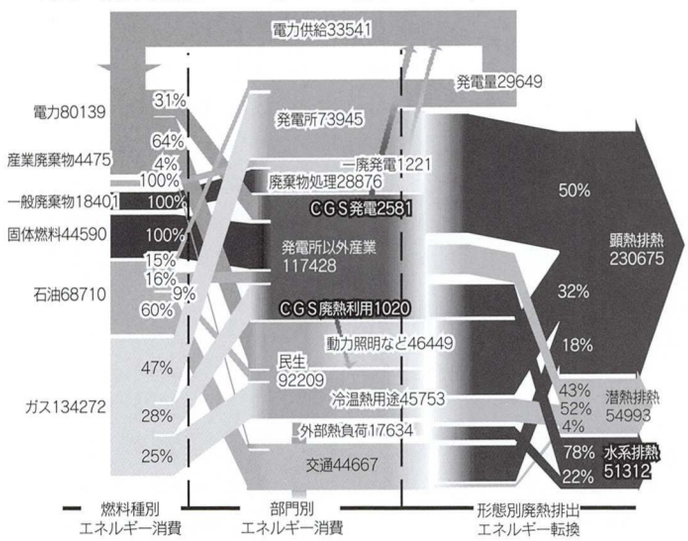
都市エネルギーシステムの適正化研究

環境エネルギーシステム学研究室
環境工学専攻
大阪大学大学院工学研究科

本研究室では、持続可能社会の核となるべき都市のエネルギーシステム(UES)を主対象として、関連システムを含んで総合的に問題構造を考察し、課題解決のための新たな視点の提案を目的としている。

エネルギー代謝系（EMS）としての都市

都市には共通インフラとして、供給システムと処理システムが備えられている。ふつう、建築は供給システムの末端、処理システムの上端と位置付けられる。しかし、全体を代謝系と見ると、建築は末端ではなくシステムの中心となるなど、位置付けが基本的に変わる。また、EMSには処理システムがない。この欠落が、ヒートアイランド(HI)問題として環境悪化を生む一因である。図に、大阪市のエネルギーフロー(EF)を示す。ふつう、EFは建築が終点に描かれるが、われわれのフレームでは、廃熱となり環境負荷の段階までが対象となる。太陽熱のEFも同時に考えるべきであり、EFはマテリアルフローとも関係してくるため、これらのデータベース(DB)の整備を行っている。なお、様々な環境影響の考察のため、データはメッシュごとの時系列データである。この代謝系DBを用いて、UESが関与している都市環境問題としてのHI問題について、様々な対策の評価を数値モデルを用いて研究している。



大阪市の年間エネルギーフロー　単位：TJ／年

UESのLCEに関する研究

20世紀は、新規建築空間の建設エンジニアリングで十分であった。しかし、今や、既存システムの検証・診断・評価・改修・管理・廃棄なども対象とするライフサイクルエンジニアリング（LCE）へと拡張する必要がある。省エネルギーの観点から、事例研究により、LCEを前提とするシステムの要件、実態を考慮したエネルギーモデル、これを支援する情報システムなどに関する考察を行っている。

環境共生型エネルギーシステム

都市には高級エネルギーの供給インフラが完備しており、建築は安易にそれらを使う体制となっている。この陰で多くの未利用エネルギーが単なる環境負荷となっている。動力用はともかく、低レベルエネルギー需要である民生用の熱用途には、これらを活用すべきである。都心では廃熱活用、郊外では気候資源のパッシブ的活用など、場に応じたきめ細かな対応が要求される。このようなシステムの実現のため、情報システムと適切な推進体制を研究している。このようなシステムの変更は一朝一夕にはできず、目標を立て計画的対応が必要である。既存のモデル都心地区を対象に、複数のシナリオに対して、過渡期も含んで政策を比較評価する研究も行っている。

DSSに関する研究

従来の工学は、主として供給インフラの構築にかかわってきた。高度な技術者が徹底的に合理化した供給システムを構築している一方で、消費サイドシステム（DSS）の遅れは否めない。今後のカギはDSSのLCEにあるといっても過言ではない。DSMのための広義の情報システムのあり方などを研究対象としている。また、建築内での熱需要は、気候、建築、機器、ライフスタイルによって大きく異なる。これらを決定する建築環境システム（AES）の最適化には、条件に応じたきめ細かな対応が必要である。本研究室では、過去に培ってきたAES数値シミュレーション技術を用いて、これらの最適化に必要な情報システムや最適設計・運用方法についての研究も行っている。さらに、都市のエネルギー政策の評価などにおいて、ふつう平均化した需要モデルを用いた検討が行われる。しかし、今後、分散型エネルギーシステムの普及が想定される。このようなシステムでは、建築やライフスタイルなどの影響が大きくなると考えられ、平均化モデルの妥当性は疑問である。現在、大阪市を対象に住宅等を様々な属性に分類するなど、多様なエネルギー政策評価のための最終需要モデルおよび、関連DBの要件に関する研究も行っている。

システムの総合評価手法の研究

今までは、内部化されたコストと便益のバランスがシステムの評価問題であった。しかし、今や、様々な環境影響など各種外部費用も先取りしてシステムの評価を行い、持続可能社会づくりに貢献できるシステムの推進が求められている。AESを対象に、新しい時代に適した評価手法の研究を行っている。

●研究室のひととき

＜最近思うこと＞最近、自動計測で取られた実態データを扱うことが多くなっている。データを吟味すると、センサー設置に基本的なことが守られておらず、判断材料とできないものが多い。データを単なる情報として扱われると恐ろしいことになる可能性が高い。情報技術の進展とともに、基本的な技術の重要性をますます痛感する今日この頃である。

連絡先
吹田市山田丘2-1　TEL(FAX)06-6879-7664
http://www.eng.osaka-u.ac.jp/env/es/



下田吉之助教授、水野稔教授、鳴海大典助手

●研究スタッフ

水野稔／1943年生まれ
- 工学博士（機械工学）
- 著書／共著に「都市と環境」「コージェネレーションシステム計画設計と評価」など

下田吉之／1962年生まれ
- 工学博士（環境工学）
- 著書／共著に「都市のリデザイン」など

鳴海大典／1973年生まれ
- 生活学修士(現在、工学博士申請中(環境工学))

8 3 4 1 見 蓄 √ひとよ 8 7 4

やさしいケンチク数学ばなし

—その3— πの話

山田 修
修 建築事務所

アルキメデスのπ値計算

πは、円周の長さのその直径に対する比である。俗にいう円周率だ。いっぽう、円の面積は半径の2乗かけるπであるからπを円積率ともいう。πは、ローマ字のPにあたりギリシア小文字でπとなる。その値は、アルキメデス（BC287～212年：古代ギリシアの偉大な数学者・科学者。浮力の原理〔水中に入れた物体は、その物体が押しのけた水の重さに等しい浮力を受ける〕を発見した）が、図1のように計算した。

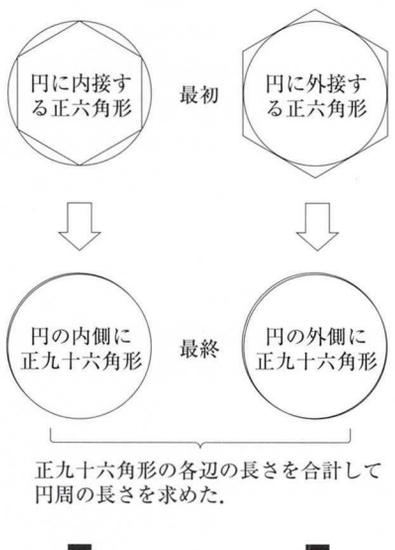


図1

古くは、π値は 25/8（バビロニア）、256/81（エジプト）、22/7（ギリシア）、335/113（中国）、$\sqrt{10}$（インド）であった。

π値は無限に続く

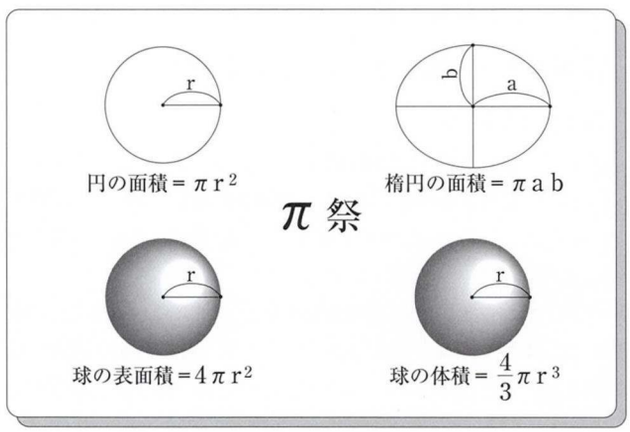
π値は、無限に続く小数で、いくら計算しても終点が見えない。この終点を追究すべく世界中の人びとがチャレンジした。

中国の祖沖之（429～500年）は、3.1415926＜π＜3.1415927であることを示す。英国のシャンクスは、1874年に707ケタまで計算した。米国の最初の電子計算機ENIACは、1946年に2,037ケタまで計算する。

そのご、最長記録は次つぎとぬりかえられた。最近では日本の金田康正（東大情報基盤センター）が1999年に2,061億ケタまで求めた。π値を追究することは、これからも続くと思う。それだけ、πは魅力を秘めた記号である。πという一文字は、永遠に続く数値をいかようにも表現できる「普遍性」と「無限性」をもっているからだ。

世界π祭を開いては

π値を無限に求め続けても、その実用性はほとんど無い。ただ、新しいコンピューターやソフトウェアの有効なテストケース（正確さ・計算・速度の評価）にはつながる。



パイ 産 医師異 国 に 向こ(う)産ご 厄 なく産
π＝3.14159 26535 89793
婦みやしろ に 虫さんざん やみに鳴く
23846 26433 83279

図2

π値は、まさに気の遠くなるような無限数列である（図2参照）。

江戸時代には、π値は小数点以下20ケタまで覚える歌が作られた。「身一つ世一つ生く無意味、曰くなく御文や読む」何となく世をはかなむ風情がただよっている。

そのうち「π値は小数点以下何ケタまで暗唱できるか」という世界π祭（パリー祭に語呂を合わせた）イベントがアルキメデスを称えてギリシアで催されるかも知れない。

算数5（下）の教科書のπで思う

円周率は、小学校5年生の後期に習う。平成14年度の教科書では『円周率は、ふつう3.14を使いますが、およそでよいときは3で計算したり、くわしく求めたいときは円周率のケタ数を多くして計算したりします』と記していた。筆者は、円周率が『3、3.14、3.1416…』と三種類あることに「児童は理解できるかなァ』と案じた次第。

精密な計算が必要なときは、近似値としてπ＝3.1416を使う。が、それ以外は、3.14で可である。

3.14は、図1を応用すれば次のように簡単に求まる。すなわち、

①半径1mの円を描く。

②その円に内接する正六角形を描く。

③正六角形の各頂点と円の中心を結ぶと中心角60°の正三角形ができる。このとき正六角形の外周の総長さは6mである（π＝6m/2m＝3。前記の3の値に相当）。

④中心角60°を2等分して30°とし、さらに15°とすると正24角形ができる。

⑤中心角15°を2等分して7.5°とすると正48角形が描ける。このときの外周の総長さを測りπを求めると、π＝6.278m/2m＝3.139≒3.14になる。

ビトパッカー工法（圧入止水工法）

株式会社アクアテック
〒660-0052 尼崎市七松町1-2-1 フェスタ立花北館4階
TEL:06-6413-3135 FAX:06-6413-3137

目的

注入剤圧入用パッカーを介して、漏水を伴うコンクリートの劣化損傷部に対し、注入用止水剤を圧入する事で水道を遮断し、漏水を止める。

開発背景

①従来、漏水補修工法としてウレタン材料が用いられているがバクテリアの孔食により体積が減少し長期止水に難点がある。
②未発泡体が残存し環境に対する懸念がある。
③斫り作業が必要なのでコンクリート構造物を傷つけ易い現状である。
④カルシウム成分が漏水に伴い析出し、水みちからのコンクリートの体力低下が認められたが改善する事は難しかった。

開発の効果

①本工法における注入剤は体積減少・硬化後の透水性は殆どなく付着力が大きく長期安定性に優れている。
②水性材料なので環境に対して安全である。
③削孔径が10mmと小径であるため、騒音は極めて小さく躯体損傷も最小に留め短期間で施工できる。
④先行注入としてウォーターセラミック（レッカノンGF）を注入することで、微細ひび割れに対するより確実な止水性及び石灰分流出によるコンクリート脆弱化の回復を図ることが出来る。

特徴

①ビトパッカーを介して漏水を伴うコンクリートの劣化損傷部に対し、ウォーターセラミック（レッカノンGF）を先行圧入することで微細ひび割れに対してより確実な止水性を与え、石灰分流出によるコンクリートの脆弱化の回復を図り、その後ビトグラウトを圧入することで水みちを遮断し漏水を止める。
②斫り作業を必要とせず、削孔径が10mmと小径なので騒音は小さく、躯体損傷は最小であり短期間で施工できる。
③体積減少・硬化後の透水は殆どなく付着力が大きく長期安定性に優れている。

ビトパッカー圧入工法に用いるウォーターセラミック（レッカノンGF）の役割

浸透

表面張力が水の半分以下の水溶液中のウォーターセラミック成分が、水よりも深くコンクリートや石質の毛細管水隙や空隙を通り浸透する。

反応

浸透したウォーターセラミックは、コンクリート、石質中の遊離アルカリ（主として遊離石灰）や、骨材中の反応性の高いシリカ（無定形シリカ）と反応し除々に水隙や空隙内で非水溶性無機化合物となる。

強化

生成された無機化合物は、反応前より安定した物質となり、水隙や空隙を充填し環境温度により1日～4日後から基質を緻密化し躯体表層を強化する。

防水

水隙や空隙を充填され組織を緻密化された非水溶性化合物は、コンクリート、石質自体の吸水を妨げ吸水による劣化を抑制し、表面に塗布する有機撥水剤や樹脂コーティング剤と異なり、通気性のある耐久性防水バリヤを形成する。

保護

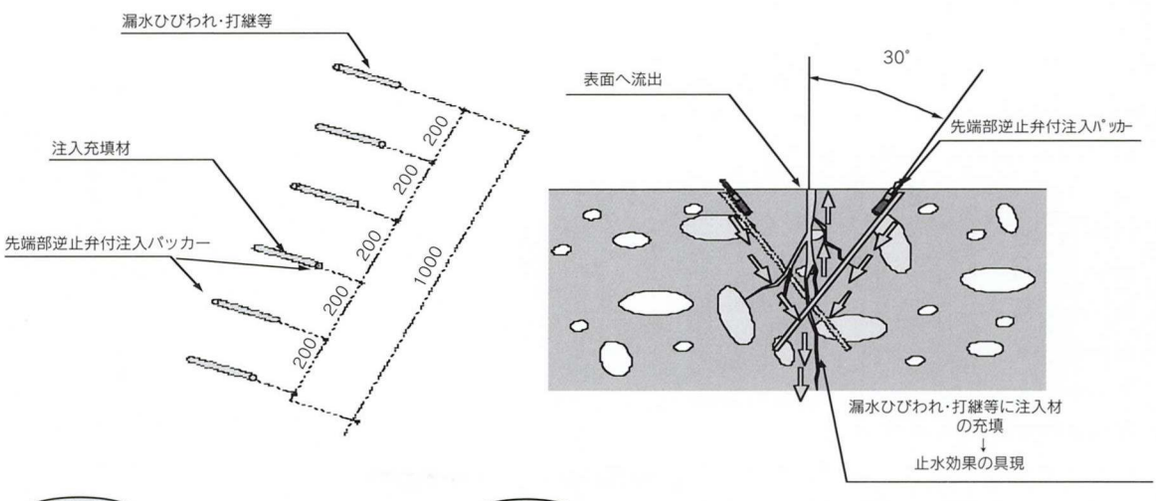
コンクリートの表面は空気中の炭酸ガスによってpH12～13位の強アルカリ性を呈していたセメントの水和生物である遊離水酸化カルシウムが、徐々に炭酸石灰となりアルカリ性を失う。このことを炭酸化または中性化というが、中性化した部分の鉄筋は発錆する。気質を緻密化し吸水やガスの浸入を抑制することによって中性化の促進は抑制される。

耐久

ウォーターセラミックで処理されたコンクリート・石質は安定した緻密な保護層によって水の浸入を防ぐ。

このことによって中性化やアルカリ骨材反応はもとより塩害・凍害も抑制し、コンクリート構造物の耐久性、安定性を向上させる。

その効果は合成樹脂・有機溶剤系撥水剤による塗膜と異なり、長期にわたり持続し、又紫外線劣化も少ない。着色する事も出来る。



工法概略図

241

多孔質セラミック吸音レンガ

八木惣株式会社
〒593-8322 堺市津久野町３丁28番10号
TEL:072-262-3838（代） FAX:072-262-0203

はじめに

窯業界で永い歴史と豊富な実績を誇る八木惣株式会社は、二十一世紀を地球環境改善、すなわち環境への配慮が優先される世紀と位置づけ、「音」環境創造をテーマに商品開発研究をおこなった結果、電力会社の火力発電所から排出される石炭灰（フライアッシュ）を主成分に、気孔生成物質を複合化されたリサイクル型多孔質セラミックの製造方法を見出され、世界に先駆けて、従来になかった画期的な吸音レンガCALS　PALM「キュート萩」の開発に成功した。

ABILITY〈音響計画・設計〉

「キュート萩」は、レンガでは初めての連続気泡構造で通気性があり、低音域から高音域までフラットで優れた吸音特性を備えている。（図１・図２・図３）特に125HZの低周波域において、従来のグラスウール・ロックウールと比較して約３倍の吸音率がある。従って用途としては音響室・ホール等の残響音調整に最適な材料である。

又、一面透過損失が低音域から高音域まで各周波数帯域において、ほぼ一定の値を示しており、遮音板としても優れた特徴がある。用途としては重低音域の発生源である機械音や変電所に設置されているトランス等の騒音対策としての防音壁・遮音壁に最適である。

DESIGN〈意匠設計〉

キュート萩は、 エコマークの付いた標準三色の他にも設計者のカラーバリエーションでの要望に最大限応えられる材料である。京都駅ホールシアター1200（劇団四季専属劇場）の吸音材として採用され、意匠性・機能性、両面で好評を得ている。

CONSTRUCTION〈構造設計〉

「キュート萩」はレンガ状又は板形状である。（図４）反響音の拡散に効果的な小面積に分割する方法や、音圧の大きい部屋の隅・天井近くの梁廻り・ホール等の残響音調整等には、レンガ積み工法が最適である。

又、道路・地下鉄・航空機・空調等の騒音対策には、板状のレンガによる防音パネルが効果的である。

最後にキュート萩の用途開発先としては、既に納入実績があり好結果が出ているホール・体育館等の残響音調整機能材として、又低周波音の発生源である機械・工場・道路・鉄道・地下鉄・空調機の騒音対策としての用途開拓に力を入れていくとのことである。

なおキュート萩は、㈶日本環境協会より認定されたエコマーク商品である。

認定番号＝0065004

類型番号＝065

因みに、現在下記行政機関において認定・指定及び紹介がされている。

◎山口県より山口県リサイクル商品認定（認定番号第二番）

◎大阪市より平成14年度大阪市再生材利用グリーン購入商品指定

価格はレンガ形状の場合で、材料・施工費共６万円～８万円／㎡（設計価格）である。将来的には量産化等によるコストダウンは十分に見込める。

（松本　章／建材委員）

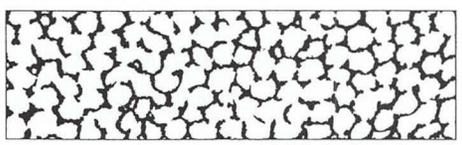


図１　断面形状

JISA1409「残響室法吸音率の測定方法」に準ずる

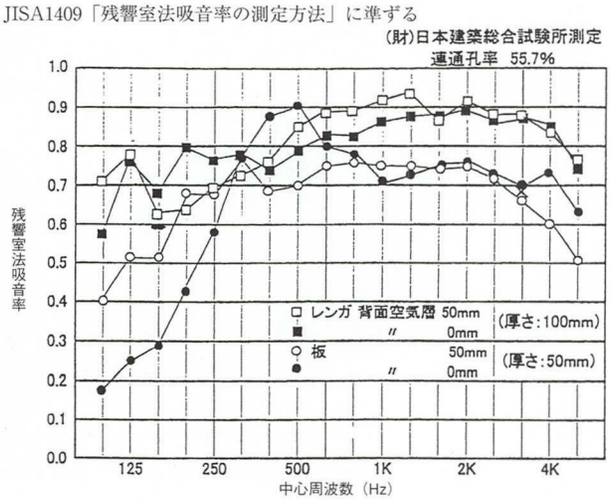


図２　吸音特性

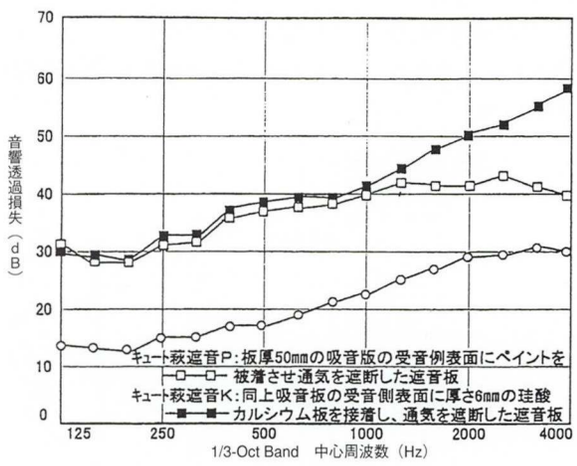


図３　遮音特性

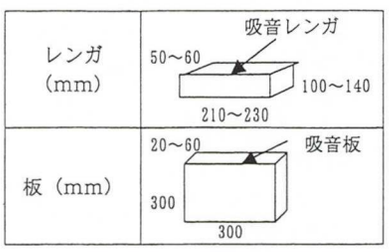


図４　形状

MIHO MUSEUM春季特別展

1997年11月、滋賀県信楽町の山中に陶淵明の「桃花源記」にある仙境の楽園ー桃源郷ーの物語を6年の歳月をかけて実現したMIHO MUSEUMは、ルーブル美術館のガラスのピラミッドや北京・香港の中国銀行ビルなどで知られるI.M.Pei氏の設計によるもの。建築容積の80%以上を地中に埋設し、建物の上にも自然を復元しており、訪れる建築関係者も多い。

開館5周年を記念して、雪解けの始まる3月中旬から春季特別展「エジプトのイスラーム文様」が開かれる。7～14世紀に栄えたイスラーム時代の都市フスタート（カイロの南）から出土した素焼きの壷や鉢の透かし彫り、幾何学文や動物文などからフスタートの人々の美意識や暮らしに思いを馳せようという企画。

会　期　2003年3月15日(土)～6月8日(日)
10：00～17：00(土曜日～19：00)
休館日月曜日、休日の場合は翌日

会　場　MIHO MUSEUM　TEL 0748-82-3411
滋賀県甲賀郡信楽町桃谷300
JR石山駅より帝産バスで約50分
信楽高原鐵道信楽駅より信楽町営バスで23分

入館料　大人1000円、高大生800円、小中生300円

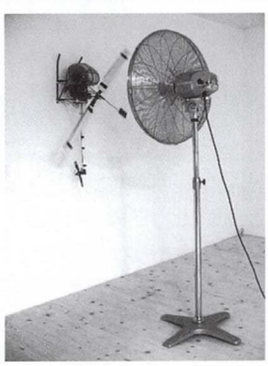


白地刻線幾何文鉢　イラク(10-11世紀)



飲料水用小壺のフィルター
エジプト・フスタート出土
(7-14世紀)

Roman Signer近作展



Helicopter with Ventilator, 2002

ミュンスター彫刻プロジェクトやヴェニス・ビエンナーレなど数々の国際展で活躍するスイス人アーティスト、ローマン・シグネールの日本初の個展である。緻密に計算された仕掛けと、偶然性に委ねられたハプニングが織りなすウィットに富んだシグネールの最近作を、SHISEIDO GALLERYで公開中。

会場　SHISEIDO GALLERY
東京都中央区銀座8-8-3　TEL 03-3572-3901
東京銀座資生堂ビル地下1階

会期　2003年2月11日(火)～3月30日(日)

エイヤ=リーサ・アハティラ展+束芋展

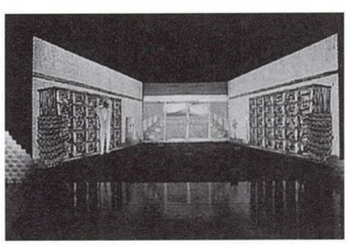
世界的に注目を集めるフィンランド女性映像作家エイヤ=リーサ・アハティラと、手描きアニメーションを駆使したユニークな作風で知られる日本の女性作家・束芋（たばいも）の二つの個展が、同時開催される。

エイヤ=リーサ・アハティラ（1959年～）の日本初の個展「ファンタジーとなった人々と記録された会話」の作品背景には、美しいフィンランドの風景と、作家の遊び心に満ちたユーモアが散りばめられている。



The House, 2002

一方、束芋（1975年～）は昨年、京都造形芸術大学の教授に就任した27歳。今回の個展では、《にっぽんの御家（おうち）》(2002年）と、旧作《にっぽんの湯屋（男湯）》(2002年）を展示する。



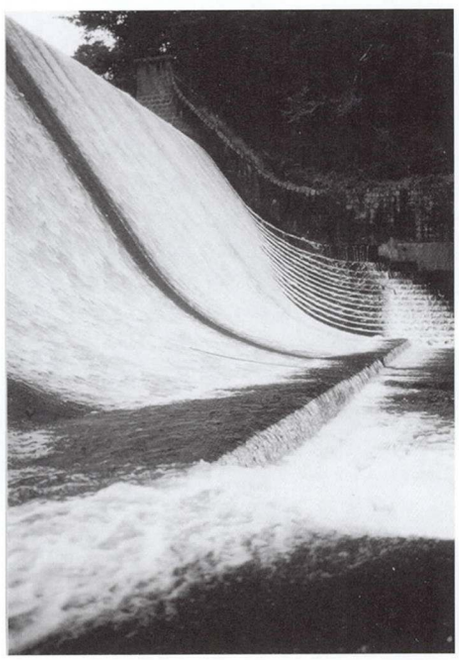
《にっぽんの湯屋》
2002

会期　2003年3月21日(金)～6月8日(日)
12：00～20：00（金・土は21：00まで）
月曜休館（祝日の場合開館・翌火曜休館）

会場　東京オペラシティアートギャラリー
東京都新宿区西新宿3-20-2

料金　一般900円、大高生700円、中小生500円

水辺の土木展ーとっておきの風景ー



白水ダム（大分県竹田市）

自ら土木写真家と名乗り日本全国の土木を撮り続けている西山芳一氏の写真により、土木景観のダイナミズムと、手わざと自然物が織りなす美が、空気や音までも感じられるように展示される。入場無料。

会期　2003年3月7日(金)～5月23日(金)
10：00～18：00　毎週水曜日休館

会場　INAXギャラリー大阪　TEL 06-6539-3518
大阪市西区新町1-7-1

■見学会「琵琶湖疎水30kmー水辺の土木遊覧ー」

日　時　2003年4月19日(土)　8：45集合
集合・解散場所／INAXギャラリー大阪

講　師　伊東孝（日本大学社会交通工学科教授）

参加費　6000円（弁当、展覧会カタログ付き）

定　員　20名（申し込み要）

申込先　電話（06-6539-3518）にてギャラリーへ。

Isamu Noguchi Design展、東京デザインセンターで開催

ヴィトラ・デザイン・ミュージアムの協力によりIsamu Noguchiがデザインしたプロダクトに焦点を当てた「Isamu Noguchi Design展」が開かれる。

本展は、東京デザインセンター地下2階ではプロダクトを、地下1階では昨年度Gマーク大賞を受賞した札幌「モエレ沼公園」の模型やパネルなどが展示される予定である。入場無料。

会期　2003年4月1日(火)～4月6日(日)
11：00～19：00（4月1日は16：00まで）

会場　東京デザインセンター・ガレリアホール
東京都品川区東五反田5-25-19
TEL 03-3445-1121



ヴィトラ・デザイン・ミュージアムが構成した国際巡回展「Noguchi Design展」ウィーン会場展示風景

アーキフォーラム「近代建築を旅する」

会　場　INAX大阪８階会議室（西区新町１-７-１）
　　地下鉄四ツ橋線「四ツ橋」下車、北へ２分
定　員　80名（当日先着順）
参加費　一般1000円、学生500円
問合せ　柳々堂書店　TEL 06-6443-0167

■Vol.8「村野藤吾と日本近代建築」
日　時　2003年３月29日(土) 17：00～19：00
――村野藤吾（1891～1984年）の建築を誰よりも深く共感をもって紹介し、批評しつづけた建築評論家・長谷川堯氏が語る“村野藤吾を通してみた日本近代建築のもうひとつの水脈”。

■Vol.9「G．アスプルンドへの旅」
日　時　2003年４月19日(土) 17：00～19：00
――スウェーデンのグンナール・アスプルンド（1885～1940年）の代表作「森の墓地」（1915～1940年）は、ユネスコの世界遺産にも登録された。アスプルンドの建築に魅せられ写真を撮り続ける写真家・吉村行雄氏が、詩情豊かなアスプルンドの世界を語る。

各地で「建築環境・省エネルギー講習会」

昨年６月に改正された「省エネルギー法」（施行平成15年４月１日）の内容及び近く改定予定の「省エネルギー基準」の内容を中心に、東京、札幌、福岡、仙台などを会場として講習会が開かれている。

●プログラム　10：00～16：30
新省エネルギー基準と環境対策の動向
新省エネルギー基準とPALの仕様基準
新省エネルギー基準とCEC／AC、Vの仕様基準
新省エネルギー基準とCEC／L、HW、EVの仕様基準
建築と地球環境

●会場―中部以西を抜すい―
３月11日(火)／千里ライフサイエンスセンター（大阪）／定員140名
３月18日(火)／名古屋国際会議場／定員200名
３月19日(水)／広島国際会議場／定員120名
受講料　25000円／人（テキスト代・消費税含む）
申込先　主催の（財）建築環境・省エネルギー機構建築研究部（FAX 03-3222-6696、TEL 03-3222-6723、http://www.iijnet.or.jp/ibec/）へ、必要事項を明記してFAXで。

「摩擦杭の設計に関する研究」報告会

摩擦杭を使いやすい環境を整えることを目的に、日本建築学会近畿支部に平成12年「摩擦杭設計技術研究委員会」が設置された。今回の報告会では、この委員会の成果を紹介し、摩擦杭の設計について展望する。

日　時　2003年３月25日(火) 13：20～17：10
会　場　大阪府建築健保会館６階ホール
　　大阪市中央区和泉町２-１-11　TEL 6942-3621
定　員　100名（申込み先着順）
参加費　建築学会及び地盤工学会会員　3000円
　　日本建築協会ほか８団体会員　4000円
　　その他5000円―資料代含む。当日徴収―
申込み　所要事項を記入して、日本建築学会近畿支部（FAX 06-6443-3144、TEL 06-6443-0538、e-mail:aij-kinki@mri.biglobe.ne.jp）へ、FAXかメールで申し込む。

●プログラム
・地盤剛性評価WGの活動／伊藤淳志（関西大学）他
・沈下解析WGの活動／松尾雅夫（安井建築設計事務所）他
・地震時挙動WGの活動／本田周二（日建ソイルリサーチ）他
・杭頭接合WGの活動／永井興史郎（摂南大学）他

「21世紀の住空間をささえる部品開発コンペ」入選提案決定

㈶ベターリビング（北畠照躬理事長）は、環境に配慮した次世代型住宅部品の方向性を探ることを目的に、新たな発想による住宅部品の提案を募集した。このコンペは、おおむね２年以内を目途に試作・製品化することを要件としたものである。

各提案は、http://www.blhp.org/compe/に掲載。

〈優秀提案〉―選評抜すい―
・住宅用圧送トイレ（どこでも超節水トイレ）／東陶機器㈱……「可変型水廻りトイレシステム」であり、節水性や節水によるCO_2の削減に配慮したもの。
・ユニバーサルデザインシステムサッシ／立山アルミニウム工業㈱……引戸下枠に残っていたレールをなくすとともに、部品部材の設計において省資源化や省エネ性、リサイクル性に配慮したデザインサッシ。
・「多機能ヘッダー」による最適湯まわりシステム／㈱ノーリツ……水栓ごとに独立した温度、湯量調整と浴室や洗面所への給水、給湯を兼用したシングル配管が実現できるなど斬新な開発視点がある。

〈入選提案〉
・太陽光発電・給湯ハイブリッドシステム／松下電工㈱
・家庭用コージェネレーションシステム／大阪ガス㈱、東邦ガス㈱、西部ガス㈱
・HC（Hung Corridor）システム（階段室型住棟再生技術）／新日本製鐵㈱、㈱市浦都市開発建築コンサルタンツ
・古紙再生断熱材セルパネ／㈱都市総合設計、新日本コア㈱、エコトピア飯田㈱、フジカット㈲、ジェニス㈱

都市住宅学セミナー開催

㈳都市住宅学会関西支部は、社会人や学生に対して、住まいやまちづくりへの関心を喚起するための「都市住宅学セミナー」を開催してきたが、平成14年度のこのシリーズの最終セミナーが下記のとおり行われる。

■『現代住居考：建築家の視点』
日　時　2003年３月17日(月) 18：00～20：00
会　場　大阪市立大学文化交流センター・大セミナー室（大阪市北区梅田１-２-２-600、大阪駅前第２ビル６階、TEL 06-6344-5425）
演　題　「菅家克子　自作を語る」菅家克子（建築家）
　　コメンテーター／弘本由香里（大阪ガスエネルギー文化研究所）、コーディネーター／髙田光雄（京都大学）
定　員　30名（先着順）
参加費　500円（受付にて徴収）
申込先　参加するセミナー名、氏名、勤務先名・所属と役職、連絡先住所・TEL/FAX・e-mailを記入し、FAX（06-6971-0596）で都市住宅学会関西支部事務局へ。

景観スケッチセミナー開催

これまでスケッチを描いてみたいと思いながらスケッチの入り口で立ち止まっていた人々を対象として、景観スケッチの描き方のコツを教える。

講　師　宮後　浩（コラムデザインセンター）
日　時　2003年４月19日(土)、26日(土)
　　10：00～12：00
会　場　コラムビル３階　大阪市中央区南船場１-５-11
参加費　2500円
定　員　それぞれ20名（申込み先着順）
申込み　住所・氏名・年齢・職業を明記し、FAXまたはe-mailで㈱コラムデザインセンターへ。
　　FAX 06-6267-4632、TEL 06-6267-4631
　　e-mail:info@column-design.com

環境共生住宅の認定住宅

㈶建築環境・省エネルギー機構が平成14年末現在でまとめたところ、環境共生住宅の認定住宅数は76社88種類となった。戸建住宅81種類、共同住宅７種類であり、なかでも木造戸建てが多くなっている。

提案項目を類型化すると、次のようになっている。
(1) 省エネルギー型　104項目
(2) 資源の高度有効利用型　67項目
(3) 地域適合・環境親和型　56項目
(4) 健康快適・安全安心型　91項目

次世代省エネルギー基準なみの「より高度な熱損失の低減」と、太陽光発電等による「太陽エネルギーのアクティブ利用」の提案が目立っている。また、シックハウスが注目されているのを反映して「人・環境に無害な建材の使用の徹底」も多い項目である。

京都六大学合同卒業設計展「若気の至り展」

京都の建築系大学学生有志約100人による合同卒業設計展が京都駅で開催される。京都建築学生之会（京都大学／京都工芸繊維大学／京都精華大学／京都造形芸術大学／京都府立大学／立命館大学）主催。

今年は展示のみにとどまらず、会期中、建築家によるシンポジウムや六大学合同講評会も開催される。

■展覧会「若気の至り展」

日時　2003年3月13日(木)～16日(日)
10：00～19：00　会期中無休

場所　京都駅ビル一東広場・スカイウェイ・ホテルグランビア前テラスー

入場　無料

■シンポジウム「六大学合同講評会」

「卒業設計作品を通じて、それぞれの大学のカラーを先生方のディベートから感じ取り、個人の作品の枠・考え方を広げる」ことを目的とする。

日時　2003年3月15日(土) 19：00～(約2時間半)
場所　キャンパスプラザ・ぱるるプラザ―予定―

参加　宗本順三（京都大学）、長坂大（京都工芸繊維大学）、鈴木隆之（京都精華大学）、横内敏人（京都造形芸術大学）、河西立雄（京都府立大学）、川崎清（立命館大学）―予定―

■シンポジウム「西と東～卒業設計を通じて見える関西・関東の違い～」

関東・関西の学生の作品を、テーマ別・敷地別等々の視点から比較・批評する。

関東の六角鬼丈、内藤廣or北山恒氏らを予定し、それぞれに学生の卒業設計作品を持参してもらい、会場で紹介・批評をする。一方、関西からは岸和郎、高崎正治、高松伸氏らを予定して、関東の卒業設計作品に関西ならではの批評をお願いするとともに、質疑応答の時間も設ける。

日時　2003年3月16日(日) 19：00～
場所　キャンパスプラザ・ぱるるプラザ―予定―

ATC関西学生卒業作品展Vol.8「創っ展－TSUKUTTEN－」

「創っ展－TSUKUTTEN－」は、主に関西で建築や環境、インテリア、プロダクト、グラフィックを学ぶ学生の合同作品展で、8回目の今回は16大学、7専門学校、300人を超える学生が参加する。

企画段階から運営にいたるまで、学生が意見を交換しあいながら作り上げる本展では2001年から賞を設定し、本年もATC関西学生卒業作品展2003賞として優秀作を顕彰する予定。

会　期　2003年3月19日(水)～3月23日(日)
10：00～18：00

会　場　大阪南港ATC・ITM棟12階特設会場
大阪市住之江区南港北2-1-10
TEL 06-6615-5510

参加校　大阪市立大学／大阪工業大学／大阪産業大学／大阪大学／京都市立芸術大学／近畿大学／神戸大学／神戸芸術工科大学／摂南大学／名古屋芸術大学／奈良女子大学／和歌山大学／大阪工業大学短期大学部／京都嵯峨芸術大学短期大学部／神戸松蔭女子学院短期大学部／成安造形短期大学／大阪総合デザイン専門学校／専門学校アートカレッジ神戸／ヒューマンアカデミー／京都建築専門学校／中央実務専門学校／バンタンキャリアスクール／兵庫科学技術専門学校

■記念講演会（会場ATC　ITM棟9階セミナールーム）

日時　2003年3月20日(木) 14：00～15：30
講師　手塚貴晴（建築家）十手塚由比（建築家）
定員　200名（先着順・予約不要・入場無料）

日時　2003年3月21日(金) 14：30～16：00
講師　ナガオカケンメイ（D&DEPARTMENT PROJECT代表）、平沼孝啓（建築家）
定員　200名（先着順・予約不要・入場無料）

■ATC関西学生卒業作品展2003賞公開講評会

日時　2003年3月23日(日) 10：00～17：00
会場　ITM棟9階セミナールーム
審査　池上俊郎（京都市立芸術大学教授）
岸　和郎（京都工芸繊維大学教授）
藤脇慎吾（グラフィックデザイナー）
堀木エリ子（和紙ディレクター）
賞　最優秀賞1点、優秀賞2点、奨励賞4点

西日本トータルリビングショー

「優悠快適」をテーマに、第22回「西日本トータルリビングショー」が開催される。入場無料。主催は（財）西日本産業貿易見本市協会。

会期　2003年3月20日(木)～23日(日)
10：00～17：00

会場　西日本総合展示場・新館
北九州市小倉北区浅野3-8-1

出品　住宅行政・住情報・まちづくりのPR／輸入住宅建材／住宅設備機器／建築資材／インテリア／エクステリア／住宅情報／ホームセキュリティ／設計用CADシステムなど約140社

■特別企画―抜すい―

・西日本トータルリビングショー開催記念セミナー

日時　2003年3月20日(木) 13：30～14：30
会場　北九州国際会議場・国際会議室
講演　これからの住宅行政施策／谷　重男（経済産業省住宅産業窯業建材課長）、寺前　實（国土交通省住宅生産課長）
定員　120名・聴講無料

・住まい作りセミナー

日時　2003年3月20日(木) 14：30～16：30
会場　北九州国際会議場・国際会議室
内容　①輸入住宅②定期借地権付住宅

問い合わせは、北九州市建築都市局住宅計画課（TEL 093-582-2592）へ。

「THE TILE FRONT 2003」発行

タイルメーカーのダントー㈱は、焼きもの「タイル」についてさまざまな角度から探求したタイルの情報誌「THE TILE FRONT 2003 vol.3」（A4判、88頁）を発行した。主なコンテンツは以下のとおり。

・対談「自然とつながり生きていることを実感する暮らし」エッセイスト・玉村豊男×生活総合コンサルタント・小原淳
・「アーティストが語るタイルと建築」画家・山中秀書、ジュエリーデザイナー・光島和子、現代美術アーティスト・岡田露愁
・「タイルと語る一第3回タイルデザインコンテスト入賞作品集」
・「最新施工例集」「日本の近代タイルの足跡」ほか

『実学と人間教育』を建学の精神として、21世紀の社会環境とＩＴ戦略を
基に実社会のニーズに対応できる建設技術者を育成。抜群の就職実績。

＊建築CADデザイン科(共学2年)　＊環境建築科(共学2年)　＊環境設備科(共学2年)
＊環境土木科(共学2年)　＊緑化デザイン科(共学2年)　開校予定　15年4月
(校名変更申請中)
(旧名古屋建築土木専門学校)

名古屋環境建設専門学校

NSCインフォメーションセンターへお気軽にどうぞ。　0120―157241。　ホームページ　http://www.nsc.jp迄。

日本建築協会

月間の動き

【平成15年 1 月分】

理事会

第７回常任理事会
１月29日（水）15:05～16:30
出席者　金多会長ほか11名
議　事　（１）平成14年度収支予算執行状況
（２）平成15年度各常設委員会事業計画及び収支予算案について
（３）後援・協賛名義の使用について
（４）その他

企画委員会

第２回企画委員会
１月20日（月）15:05～17:25
出席者　片倉委員長ほか４名
議　事　（１）「日本建築協会賞」について
（２）その他

編集委員会

第10回編集委員会
１月15日（水）18:00～19:30
出席者　設楽委員長ほか５名
議　事　（１）２月号「九州」特集経過報告
（２）３月号「東海支部会員作品」特集・「愛知・名古屋ー文化、産業と建築を振り返る」特集経過報告
（３）４月号「サスティナビリティに向けてー次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザインー」特集経過報告
（４）８月号設備特集の企画
（５）平成15年度収支計画案検討
（６）収支状況報告
第10回設備分科会
１月７日（火）18:00～20:30
出席者　河井・野田・高野幹事ほか５名
議　事　（１）「研究最前線を追う」の企画
（２）「設備の頁」の企画
（３）８月号設備特集の企画
第５回計画分科会―計画系―
１月８日（水）19:00～22:00
出席者　鈴木幹事ほか５名
議　事　４月号「サスティナビリティ」特集の企画
第10回法令分科会
１月15日（水）14:00～16:15
出席者　薄木幹事ほか３名
議　事　（１）６月号「都市計画法と建築基準法の改正」特集の企画
（２）「法令コーナー」の企画
第10回広告企画小委員会
１月15日（水）16:00～17:30
出席者　設楽委員長ほか８名
議　事　（１）２月号「九州」特集経過報告
（２）３月号「東海支部会員作品」特集・「愛知・名古屋ー文化、産業と建築を振り返る」特集経過報告
（３）４月号「サスティナビリティに向けてー次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザインー」特集経過報告
（４）作品作風関係報告
（５）平成15年度独自特集企画、広告企画小委員会特集企画
（６）収支状況報告
第５回計画分科会ーインテリア・住宅系ー
１月16日（木）19:00～21:00
出席者　高野幹事ほか３名
議　事　来年度特集案について
第10回作品作風小委員会
１月23日（木）19:00～20:30
出席者　倉渕副委員長ほか７名
議　事　（１）作品の選定
（２）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（３）「gallery」掲載報告・予定

事業委員会

第６回事業委員会
１月22日（水）18:00～20:00
出席者　川村委員長ほか８名
議　事　（１）各小委員会からの報告と検討
（２）次年度の事業計画案ならびに予算案について
（３）常設委員会委員の応募について
（４）ホームページ「委員会報告」の掲載内容について
第６回若い会員の集い小委員会
１月７日（火）19:00～20:20
出席者　吉武幹事ほか２名
議　事　「30's ＥＹＥ 出版『建築する人たち―アーキテクト・アーティストの素顔』（仮題）」について報告
第６回情報小委員会
１月８日（水）18:00～19:50
出席者　天野副委員長ほか７名
議　事　今後の企画の検討
第６回見学会小委員会
１月９日（木）18:00～19:50
出席者　伊藤幹事ほか７名
議　事　実施報告と今後の予定について
第２回茶室見学分科会
１月21日（火）18:00～20:00
出席者　福家幹事ほか３名
議　事　今春の茶室見学会について検討
第３回茶室見学分科会
１月30日（木）10:30～12:40
出席者　福家幹事ほか４名
議　事　今春の茶室見学会について検討

出版委員会

第９回出版委員会
１月16日（木）18:00～19:15
出席者　上原委員長ほか11名
議　事　（１）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（２）今後のテーマと執筆者選定
（３）第26回〈プロのノウハウ〉講座（経過報告）
（４）次年度の事業計画案ならびに予算案について
（５）常設委員会委員の応募について
（６）協会ホームページ「委員会報告」の掲載内容について
第８回「建築施工図の作図方法とチェックポイント（仮称）」出版小委員会
１月９日（木）18:00～19:00
出席者　田中主査ほか６名
議　事　（１）建築施工図の作図方法とチェックポイントに関して（事例報告）
（２）今後の作業予定その他

教育委員会

第３回工高生教育小委員会
１月28日（火）18:00～20:00
出席者　片倉・和田正副委員長ほか６名
議　事　（１）次年度第49回工高生デザインコンクール募集規定原案の検討
（２）今後の作業予定その他

国土交通省　検査

１月31日（金）10:00～15:30
検査人　国土交通省住宅局建築指導課
総務係長　太田　悟氏
監査係長　木村　剛氏

建築クラブ

第366回建築クラブ新年宴会・於大阪全日空ホテル
１月15日（水）18:00～19:30
参加者　33名

入会者（敬称略）

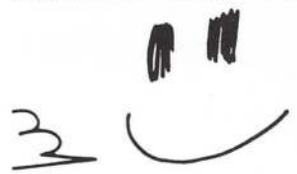
〔個人会員〕
渡辺　一郎　（安井建築設計事務所）

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社 西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628(代表)
本　　社　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441(代)
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　宅　清光
常務取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル　電話 06(6350)8100
本　　社　東京都千代田区有楽町１—４—１　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理

●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装

●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム

●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング

●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム

●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電

まちと暮らしにあふれるアメニティクカンパニーをめざす
住友電設株式会社　大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

CHOYO

人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。

電気設備設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本貴士

本　　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目 2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
関　西　支　社

常務取締役支社長　髙橋幸久

大阪市中央区高麗橋４丁目３番７号　電話大阪(6202)0325～9番
本　　社　東京都千代田区西神田１丁目４番５号
支　　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪 (06) 6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川１丁目12番14号(日本生命小石川ビル７階)
〒112-0002　電話 (03) 5689—2351代表

電気設備設計施工

株式会社 三興社

代表取締役社長　上田正雄

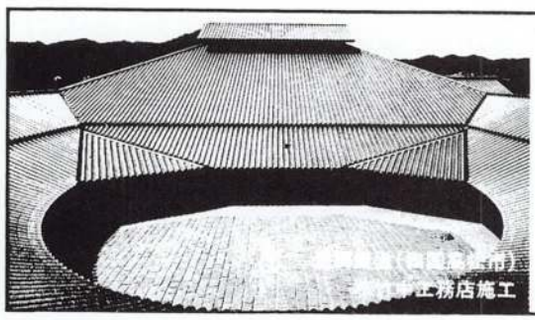
本　　社　大阪市北区堂島浜１—４—19（日土地堂島ビル）
電　話　０６（６４４２）３６７１（代）
支　　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　０３（３６６６）１４７８（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

OKUJU
スペース クリエイター
建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー
本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・南九州・名古屋・上海

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3―4―5
TEL06(6792)5858　FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06―6532―0641(代表)
FAX.06―6535―5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本　社　〒530-0043　大阪市北区天満1-1-10　TEL.06-6352-7502　FAX.06-6355-2714
制作部　〒530-0043　大阪市北区天満1-9-19　TEL.06-6352-0943　FAX.06-6355-5533
印刷工場　〒530-0043　大阪市北区天満2-5-15　TEL./FAX.06-6352-1551


〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 六五六一～七四五四
ファックス 六五六一～七四一六
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000
東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

日本建築協会出版委員会企画
新刊書籍発行／会員特価販売のご案内

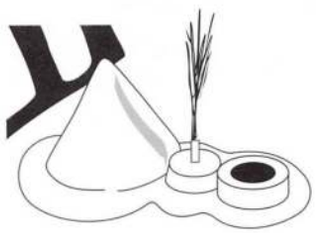
企画・日本建築協会
「建築工事の祭式」編集委員会 編著

建築工事の祭式

地鎮祭から竣工式まで

A５判・並製・184頁
定価：本体1,800円＋税

建築祭式のアウトラインを図面やチャートなどを使ってわかりやすく表現し、祭式の組み立て方が意外と単純な原理に基づいていることを解説した。実務マニュアルとしても、祭壇の具体的事例、祭場設営レイアウト、事前準備のチェックリスト、挙行時の司会者の対応、用語集などを掲載し、実践に役立つ早分かり読本となっている。



推薦 ―――― 京都伏見・城南宮宮司 **鳥羽重宏**

『関係者と神職の入念な打ち合わせ、隅々まで行き届いた設営、参列者への心配り、これらについて長年にわたる経験に基づき蓄積されたノウハウを各社が持ち寄り、惜しげも無く披瀝され、整理編集されて本書が誕生したことは、洵にもって画期的』

学芸出版社

京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811　fax 075-343-0810

日本建築協会会員の皆様に特別価格 **本体価格の１割引＋税** にてご提供いたします。
※送品手数料は２冊まで300円、３冊以上は無料とさせていただきます。

ご注文書籍の送付・請求等につきましては、学芸出版社より行いますのでお含み願います。

(FAX 送信先 075-343-0810)

お申し込み書（コピーの上、ご使用ください）

書　名	本体価格	ご注文冊数
建築工事の祭式	1,800 円	冊
新　建築基準法を読みこなすコツ	2,400 円	冊
新版　都市計画法を読みこなすコツ	2,500 円	冊
建築基準法の難解条文を読みこなすコツ	2,500 円	冊
建築基準法の性能規定を読みこなすコツ	2,500 円	冊
新版　建築物の消防法を読みこなすコツ	2,300 円	冊
建築関連法規を読みこなすコツ	2,400 円	冊
インテリアコーディネートの100ポイント	1,600 円	冊
木づくりの常識・非常識	1,700 円	冊
建築の現場管理システム	1,800 円	冊
木造住宅監理の話	1,800 円	冊
工業化住宅・考	2,000 円	冊
環境と共生する建築　25のキーワード	2,500 円	冊
（本体価格×ご注文冊数×90%×1.05＝）	合計（税込） 円	冊

【送本先：勤務先／自　宅】　【請求先：勤務先／個人名】　【日本建築協会：会　員／非会員】　（いずれかに○を）

お名前	
送　本　先	〒□□□-□□□□
送本先のTEL&FAX	TEL　-　-　FAX　-　-

送料は２冊まで300円、３冊以上は無料

日本建築協会出版委員会企画
新刊書籍発行／会員特価販売のご案内

企画・日本建築協会

A５判・並製・176頁
定価：本体2,200円＋税

渡辺邦夫著
構造設計集団SDG代表

建築構造界の第一人者が語る待望の書

飛躍する構造デザイン

第１章　「構造学」の創始者たち
第２章　「構造デザイン」の意味
第３章　ＰＣと集成材の構造
第４章　スペースフレームへの挑戦
第５章　鉄とガラスの可能性
第６章　開閉式ガラス屋根
第７章　ＰＣとテンション構造のスタジアム
終　章　ブラックボックスからの脱出

「構造デザイン」とは何か、その考え方、手法について紹介するのがこの本の目的である。個々の建築の固有の構造上の性格を引き出し、空間に、秩序を与え、技術工学を駆使しながら全体と部分との確かな統合を図る、それが「構造デザイン」である。そこに、新たな空間、飛躍するデザインを生み出す唯一の可能性が秘められている。

学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811　fax 075-343-0810

日本建築協会会員の皆様に特別価格 **本体価格の１割引＋税** にてご提供いたします。
※送品手数料は２冊まで300円、３冊以上は無料とさせていただきます。

ご注文書籍の送付・請求等につきましては、学芸出版社より行いますのでお含み願います。

（FAX 送信先 075-343-0810）

お申し込み書（コピーの上、ご使用ください）

書　名	本体価格	ご注文冊数
飛躍する構造デザイン	2,200円	冊
建物の汚れ　トラブル事例と解決策	3,500円	冊
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築編〉	4,000円	冊
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備編〉	4,000円	冊
木造住宅のしくみ	2,200円	冊
鉄骨工事の現場学	2,300円	冊
鉄筋工事・本音の現場学	2,200円	冊
建築と音のトラブル	2,300円	冊
空調設備のトラブル50	2,300円	冊
衛生設備のトラブル50	2,300円	冊
新版　コンクリート工事のチェックポイント100	2,400円	冊
躯体工事監理のチェックポイント100	2,200円	冊
仕上工事監理のチェックポイント	2,200円	冊

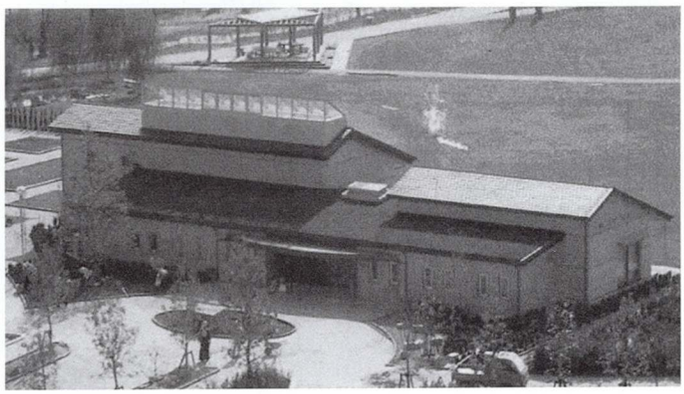
（本体価格×ご注文冊数×90%×1.05＝）　合計（税込）　円　冊

【送本先：勤務先／自　宅】　【請求先：勤務先／個人名】　【日本建築協会：会　員／非会員】　（いずれかに○を）

お名前	
送　本　先	〒□□□-□□□□
送本先のTEL&FAX	TEL　-　-　FAX　-　-

送料は２冊まで300円、３冊以上は無料

緑　化　屋　根 ～建物とランドスケープの一体化～



勾配屋根緑化システム

50年にわたって金属屋根
に携わってきた屋根メーカー
が完全水密防止による緑化屋根
システムを開発しました。

防水性能
・超速硬化ポリウレタン樹脂と超速硬化高機能ポリウレア樹脂の組み合わせによるハイブリット防水システム。
・耐候性　耐薬品性を有すポリオレフィン熱可塑性樹脂フィルムを被覆した特殊鋼板を使用。

地球にやさしい屋根
・特殊被覆鋼板にはハロゲン元素を一切含みません。
・CO_2（二酸化炭素）の削減に効果大。

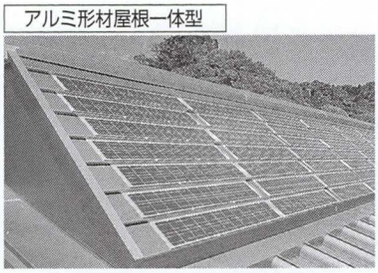
三晃金属工業株式会社

名古屋支店　〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-25-9　堀内ビル4F　TEL 052（582）0311㈹・FAX 052（582）3282
本　　社　〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23　MS芝浦ビル11F　TEL 03（5446）5608・FAX 03（5446）5631

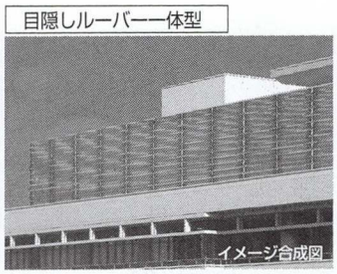


那智勝浦町下里中学校　所在地／和歌山県東牟婁郡那智勝浦町大字下里480　建築主／那智勝浦町
設計／株式会社 富松建築設計事務所　施工／丸濱組・那智建設 J.V.　竣工／平成12年3月（敬称略）

アルミ形材屋根一体型



目隠しルーバー一体型



アルミ形材屋根一体型　目隠しルーバー一体型

太陽光発電システム

弊社では太陽光発電システムを建築の一部とし、意匠性と性能を両立させる商品設計に取り組んでおり、太陽電池付のアルミ形材屋根および目隠しルーバーを開発いたしました．中低層建築に対応するものとしてご案内いたします．

中低層建築に対応できる
太陽電池付アルミ屋根材・目隠しルーバー材です

●目隠しルーバー一体型は、ルーバー材の意匠性をもたせています．
太陽電池は、単結晶・多結晶に対応できます．

●アルミ形材屋根一体型は、アルミ形材の屋根材に太陽電池を組み込んでおり、従来の金属屋根材としての意匠性をもたせています．
太陽電池は、アモルファスと単結晶シリコンの長所をあわせもち、夏場の温度上昇による効率低下も少なく、高い出力が得られます．

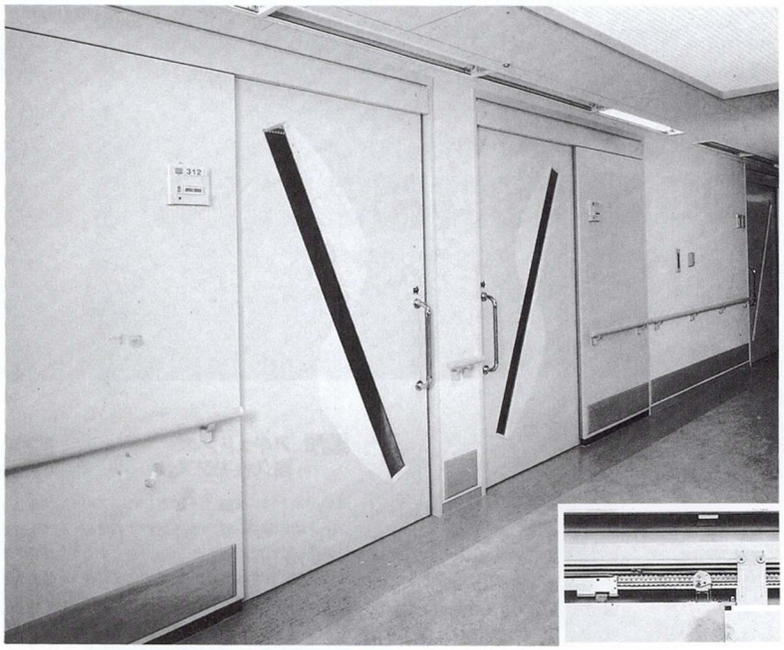
軽量化と施工性に配慮しています

●太陽電池付アルミ屋根材……15.2kg／㎡
屋根一体型は雨仕舞いや耐風圧性、施工性に優れたアルミ押出形材の屋根材と太陽電池を一体化、直接屋根下地材に取り付けできます．

●太陽電池付ルーバー材
太陽電池とルーバーを一体化することにより、すっきりした外観が得られます．また、太陽電池なしルーバーとの併用が可能です．

三協アルミニウム工業株式会社
名古屋ビル建材支店/〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2-9-18 TEL.052-588-2055
http://www.sankyoalumi.co.jp/

いつまでも静かで滑らか、抜群の耐久性を誇る
アキュドアユニット



くろがねのアキュドアユニットはヘルスケア施設専用の吊り下げ式引戸のパイオニア、床にレールなどの障害物がなく、高精度のリニアボールベアリング式の独自のレール機構は施設の耐用年数に匹敵する300万回の開閉テストをクリア、いつまでも軽くて静か、その耐久性を実証しています。
昭和52年に発売以来、医療施設や高齢者施設に最適な多くのメリットをもつ横引戸として、数多くの施設でご採用いただいていることがその信頼性を物語っています。

くろがね

株式会社くろがね工作所

●東　京／〒108-0014 東京都港区芝5丁目29-20（三田全日空ビル） ☎03(3455)2171
●大　阪／〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-26（四つ橋中央ビル） ☎06(6538)1060
●名古屋／〒460-0008 名古屋市中区栄5丁目27-14（朝日生命栄ビル） ☎052(251)6221



三和シャッター

ドアにまでこだわりのあるマンションは、
きっといいマンションに違いない。

間取りや広さだけでなく、住まいの安心を守る玄関ドアにまでこだわってこそ本当の意味でいい住まいと呼べるのではないでしょうか。三和の「トレドール サントル」はデザイン性はもちろん操作性や防犯性、防火性など細部にいたるまでとことんこだわり抜いたマンションドア。美しいフォルムは進化する都市空間においても見事に溶け込み、住まう人の多様なご要望に高いレベルでお応えします。

三和のマンションドア

トレドール サントル

三和シャッター工業株式会社
本社　〒163-0478 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル52階　☎03-3346-3011（代表）
三和のホームページ　http://www.sanwa-ss.co.jp

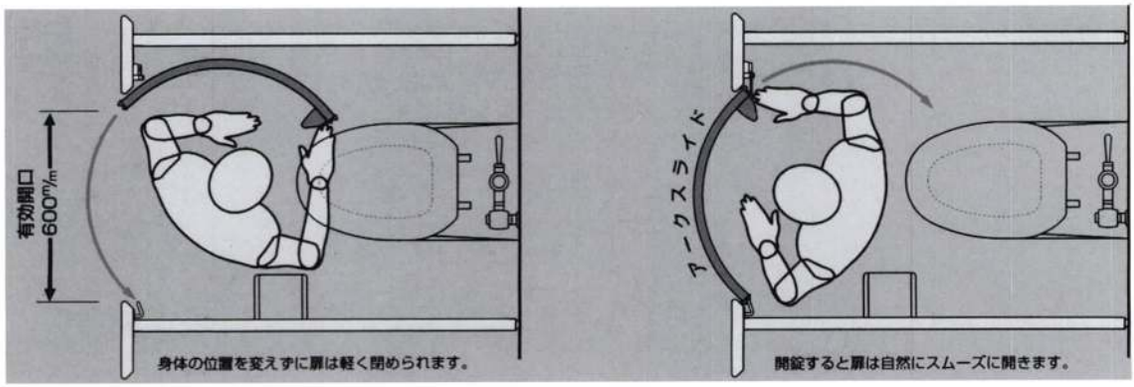
ビル建材カンパニー
中部ビル建材支店　〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-6-13　☎052-582-3050

画期的な扉の開閉(アークスライド)方式を採用した

トイレブース ウェイブレット



スペースの限られたトイレブースでは、扉の間口寸法が小さい内開き扉が主流ですが、扉の開閉の為に、どうしても使う人の動作が大きくなりますし、外開き扉では、急に扉を開けると通路にいる人と接触する危険があります。そのような問題を解決するために、扉のあるべきカタチと、動きを追及して生まれた（アークスライド）の扉開閉方式。扉は使う人のまわりをとり巻くように動きますので、開け閉めが大変ラクでスムーズに行えます。
操作性と安全性に優れたウェイブレット。やさしく、快適なトイレ空間が構成できます。

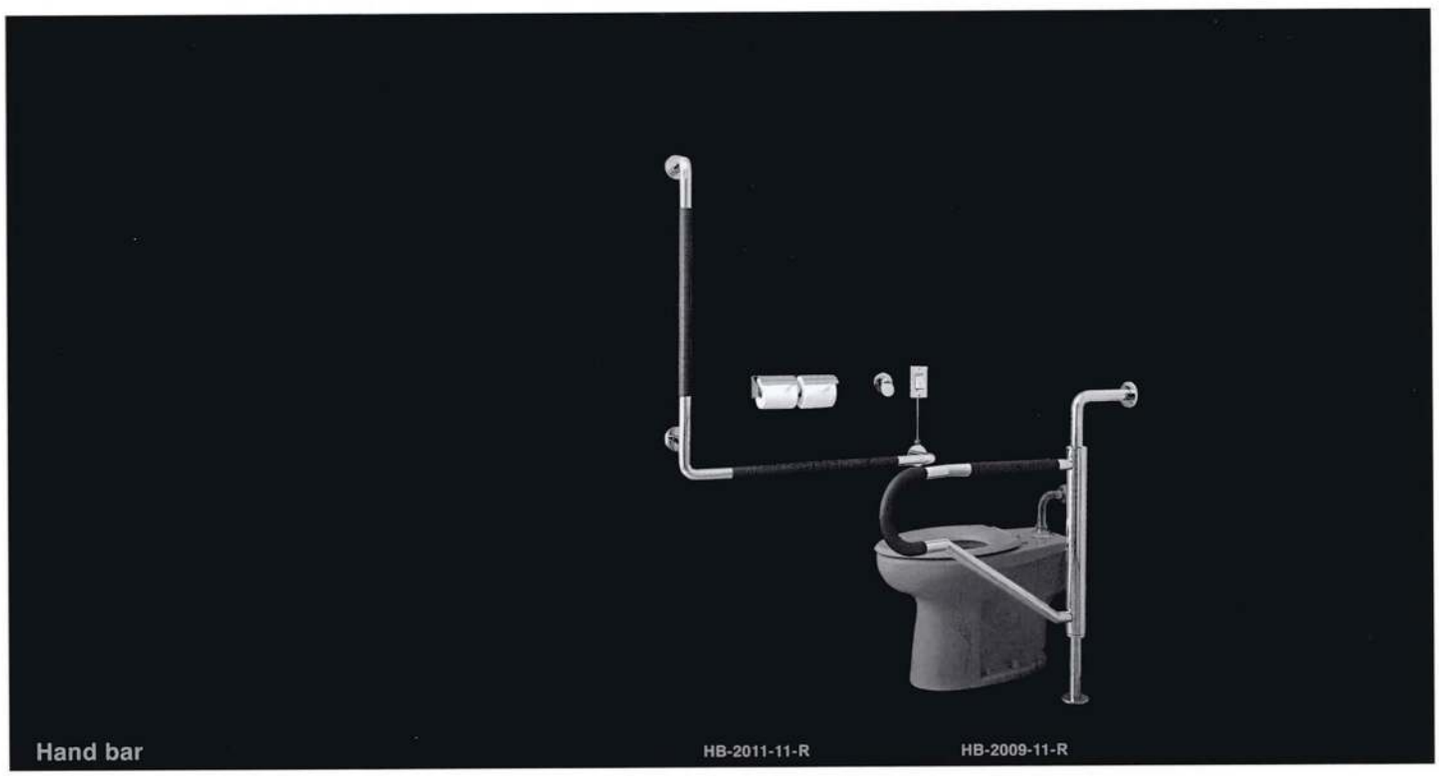


よい品は結局おトクです
オカムラ

株式会社 岡村製作所
名古屋支店

〒450-6020 名古屋市中村区名駅1-1-4 JRセントラルタワーズ20階
TEL 052-551-3180

お問い合わせ・ご相談は◎お客様サービスセンターへ
フリーダイヤル☎0120-81-9060 月曜～金曜(祝祭日を除く) 9：00AM～6：00PM



UNION
株式会社ユニオン
www.artunion.co.jp
本社 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015

支店・営業所

■大阪支店
大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015
☎06(6532)3731 FAX 06(6533)2293

■東京支店
東京都江東区白河2-9-5 〒135-0021
☎03(3630)2811 FAX 03(3630)2816

■名古屋営業所
名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805
☎052(363)5221 FAX 052(363)5255

ショールーム

■アトリエユニオン/東京
東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105-0001
☎03(3506)1717 FAX 03(3506)1718

■アトリエユニオン/大阪
大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015
☎06(6532)8920 FAX 06(6533)0224

■アトリエユニオン/名古屋
名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805
☎052(363)5221 FAX 052(363)5255

ISO 9001 ISO 14001

人と環境にやさしく、いつまでもきれいな外壁を。
TOTOハイドロテクトタイル。

TOTO HYDROTECT



信頼の証拠。全国で4,000件を超えるご採用。東海地区でも続々ご採用いただいています。

◎人と環境にやさしく。

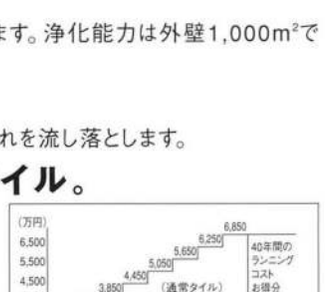
大気汚染物質NOx・SOxを分解除去します。浄化能力は外壁1,000m²でポプラ70本分。

◎いつまでも美しく。

セルフクリーニング効果で汚れを防ぎ、汚れを流し落とします。

◎時が経つほどお得なタイル。

通常、ビル外壁の洗いは、5年に一度、洗剤での洗浄が必要と言われています。5,000m²のビルなら、1回当たり、600万円のコストが発生。ハイドロテクトタイルなら、20年に一度、水洗いをするだけで十分。財布にも環境にもやさしいタイルです。



汚れを防ぎ、汚れを流す。
TOTOハイドロテクトタイル

お問い合わせ、カタログのご請求はお近くのTOTOへ

名古屋支社／〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-1……☎(052)201-0214
大 阪 支 社／〒530-0057 大阪市中央区久太郎町3-6-8……☎(06)6253-5620



グラフィックタイルカーペット

GXシリーズ

高いデザイン性と、豊富なバリエーション。
オフィスはもちろん、宿泊施設や商業施設にも彩りを添えます。

バリエーションは、グラーバ(GRAVA)、ルシェロ(RUSCELLO)、ブレッザ(BREZZA)、デセルト(DESERTO)、グラヴィス(GRAVIS)、モデルノ(MODERNO)の6種類。
その他に空間構成にかかせない無地タイプ12色
のカラーパレットGX200もあります。

除臭 制電 防汚糸加工 室内4

品名	価格(円/m²) 材料価格 税抜き価格	組成 パイル	規格 パイル長	全厚(mm)	アイテム
グラーバ	8,900	BCFナイロン100% (原着ナイロンDupontアントロンルーミナ®)	H5mm/L3mm マルチレベルループパイル	8	10
ルシェロ	8,900	BCFナイロン100% (原着ナイロンDupontアントロンルーミナ®及びスペースダイ糸)	H4.5mm/L3mm テクスチャードループパイル	7.5	10
ブレッザ	9,800	BCFナイロン100% (原着ナイロンDupontアントロンルーミナ®)	H4.5mm/L3.5mm テクスチャードループパイル (チップシェア仕上げ)	8	8
デセルト	9,800	BCFナイロン100% (原着ナイロンDupontアントロンルーミナ®)	H4.5mm/L3mm テクスチャードループパイル	7.5	4
グラヴィス	11,500	BCFナイロン100% (原着ナイロンDupontアントロンルーミナ®及びスペースダイ糸)	H5.5mm/M4mm/L3mm テクスチャードループパイル	9	12
モデルノ	11,000	BCFナイロン100% (原着ナイロンDupontアントロンルーミナ®)	H5.5mm/L3mm カット&ループパイル	8.5	4
GX-200	8,500	BCFナイロン100%	6mm カットパイル	9	12

東リ株式会社
〔URL〕http://www.toli.co.jp
名古屋第1営業所 TEL.052(733)3471 名古屋第2営業所 TEL.052(733)3472 名古屋開発グループ TEL.052(733)3532 名古屋ショールーム TEL.052(745)1691
静 岡 営 業 所 TEL.054(280)5272 浜 松 営 業 所 TEL.053(460)7638 金 沢 営 業 所 TEL.076(262)3100

Vol.84 No.972 2003年3月1日発行 毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182
社団法人 日本建築協会 〒530-0014 大阪市北区梅田1-6-6(6362)1100 電話大阪06(6348)0655 FAX06(6348)0654 http://www.aaj.or.jp
定価1,200円(本体1,143円+消費税57円+送料共) 正会員の購読料は会費に含めて徴収